

本学における催事活動の現状と今後の課題

—より効果的な催事の計画と実施のために—

第8期自己評価運営委員会報告書

2009年3月

Tokyo Urban Tech

工学院大学

目 次

まえがき

本学における催事活動の現状と今後の課題	1
---------------------	---

1章	活動の目的と意義	3
-----------	-----------------	----------

1.1	活動の目的	3
-----	-------	---

1.2	活動の経緯	3
-----	-------	---

1.3	成果の概要	4
-----	-------	---

2章	催事活動評価の視点	5
-----------	------------------	----------

3章	催事活動の全体像とその分類	7
-----------	----------------------	----------

3.1	2007 年度催事活動	7
-----	-------------	---

3.2	2007 年度催事の分類	7
-----	--------------	---

4章	催事活動の評価	9
-----------	----------------	----------

4.1	入学系／学外(受験生および高校対象)	10
-----	--------------------	----

4.2	入学系／学内(新入生対象)	13
-----	---------------	----

4.3	教育系／学外	15
-----	--------	----

4.4	教育系および研究系／学内	18
-----	--------------	----

4.5	研究系／学外	25
-----	--------	----

4.6	一般系／学外	27
-----	--------	----

4.7	就職系／学内および学外	31
-----	-------------	----

4.8	後援会および OB 対象	34
-----	--------------	----

5章	まとめ	36
-----------	------------	-----------

5.1	点検・評価結果	37
-----	---------	----

5.2	催事活動についての提言	44
-----	-------------	----

付録		46
----	--	----

参考資料		63
------	--	----

まえがき

本学の自己評価運営委員会は、2年を1期として活動している。2007年度から始まった第8期の委員会が2年間の任期を終え、その間の活動を『第8期自己評価運営委員会報告書』としてまとめて公表する運びとなった。

自己評価運営委員会が検討して報告書にまとめるテーマの選択については、委員会自らが大学の抱える課題から選定する場合と、学長の諮問に応じる場合の二通りがある。このたびは後者にあたり、「大学関連各種催事の評価」についての検討を要請した。

本学の各部署は数多くの催事を行っている。例をあげると、理科教室、オープンキャンパス、創立記念日講演会、理科・科学論文、出張講座、フレンドシップ事業、産学懇談会、各種シンポジウム、公開講演会などである。

それぞれに意義があり、存続させるべき大切なアクティビティーばかりである。しかし、教育研究の活性化を目指し、また時代や社会の要請に応えようと新たな取組みが加わるにつれ、日程調整の複雑化や実施費用、教職員の負担増加などについて問題が発生し始めてきた。かといって、これまで積み上げられてきた貴重な活動を徒に削減することに努めるのではなく、その意義を活かす方策を見出すことが肝要である。

第8期の自己評価運営委員会においては、本学が行っている催事活動（法人部門が主管している催事のうち、教職員・学生が運営に関わるものを含む）の全貌を洗い出し、開催時期、相互の関連などについて広い視野で全体を見渡すことによって、より効率的で効果的な催事のあり方を模索し、改善への工夫などを示してくれている。

いくつかのアンケートを行い、催事を調べ上げ、まず内容を「学外」と「学内」に大きく分け、それぞれについて、入学系、教育系、研究系、就職系、一般系の5つの系に分け、さらに「学外」と「学内」の催事対象を5つ（学外は高校生・予備校生、小・中学生、一般・企業、父母、教員。学内は学部生、大学院生、教職員、OB、父母）に分けた。

本報告書では、このように催事を整理するとともに、催事の点検評価がよくなされていて、5つの提言が示されている。

この報告書にまとめられた内容が、有効に活用されれば、本学の諸催事がより効率よく実行されることと思われる。必要な場合はその成果を広く学外に発信することで、本学の活動が正確に伝えられ、催事の活性化を促すと共に、魅力ある大学としての社会的地位を獲得することにもなると考える。それはもちろん、そこに学ぶ学生を元気にすることにもつながり、これらの相乗効果は大きなものとなるであろう。大いに期待するところである。

終わりに、後藤芳樹委員長をはじめとする、第8期自己評価運営委員会委員の皆様から敬意を表したい。

2009年3月

工学院大学 学長 三浦宏文

本学における催事活動の現状と今後の課題

—より効果的な催事の計画と実施のために—

第8期自己評価運営委員会報告書

2009年3月

自己評価運営委員会

1. 活動の目的と意義

1.1 活動の目的

本学では、教育研究活動の一環として多くの催事を行なっている。催事は、学外に向けては、入学、教育、研究、就職などの様々な場面において実施され、単に情報を得るだけではなく、一緒に学んだり、体験したりする、直接的なふれあいやコミュニケーションの場となっており、その対象は、小・中学生、高校生、教職員、一般と広範囲にわたっている。また、学内においても、本学の構成員が様々な催しに参加し、体験を共有することにより、互いに理解し、親睦を深める機会ともなっている。これらの催事は、大学・法人の各部門で多数実施されており、それぞれの目的を持って企画され、毎年、計画・実施され、これまでも各部門で成果を上げてきたが、一方では、数多くの催事を実施する必要があるために、日程調整の複雑化、実施費用や教職員の負担の増加が懸念されている。

このような背景から、第8期自己評価運営委員会では、三浦宏文学長からの諮問を受け、本委員会は、本学が行っている催事活動（法人部門が主管している催事のうち、教職員・学生が運営等に関わるものを含む）の全貌を洗い出し、各部門で行われている催事の開催時期、相互の関連などについて、広い視野で全体を見渡すことによって、「より一層の工夫や改善はできないか」という視点で総合的に点検・評価を試み、より効率的で効果的な催事のあり方を模索し、提言することにした。

1.2 活動の経緯

第8期の自己評価運営委員会は、2007（平成19）年11月22日に第1回運営委員会を開催し、同日、学長より『大学関連各種催事の評価』を検討課題とする諮問（付録1）を受け、直ちに活動の第1段階に入った。

まず、催事の現状を調べる目的で、2007（平成19）年度の大学・法人の各部門の催事についてアンケート（付録2、3）を実施した。これらのアンケート結果をまとめて、「2007年度催事一覧表」（付録4）を作成し、この催事一覧表をもとに催事の分類に着手した。本学が行っている催事の内容を「学外」と「学内」の大きく2つに分け、それぞれについて、5つの系（入学系、教育系、研究系、就職系、一般系）に分け、各系において5つの催事対象に分けた。したがって、「学外」および「学内」をそれぞれ25、

合計 50 のグループに分類し、「2007 年度催事分類一覧表」（付録 5）を作成した。

7 回の運営委員会の議論を経て、2008（平成 20）年 5 月 19 日の教授総会において第 8 期自己評価運営委員会の課題を『本学における催事活動の現状と今後の課題 一より効果的な催事の計画と実施のために一』とする実施計画（案）（付録 6）を提出し、承認を得た。

その後、第 2 段階の活動を開始し、第 8 回運営委員会より「2007 年度催事分類一覧表」に基づき、委員の担当区分を決めて具体的な催事活動の点検・評価に着手し、各委員から提出された催事評価について活発な討論を行った。

第 14 回 運営委員会（平成 21 年 1 月 15 日）からは、評価結果をまとめ、報告書の原案を作成し、とりまとめの準備に入った。第 15 回 運営委員会（平成 21 年 1 月 29 日）は、報告書のまとめを行い、最終的なとりまとめ作業については、委員長、副委員長を中心に WG で行った。

1.3 成果の概要

第 8 期自己評価運営委員会は、点検・評価課題を『本学における催事活動の現状と今後の課題 一より効果的な催事の計画と実施のために一』と定め、通算 14 回の委員会を開催し、催事の内容を「学外」と「学内」の大きく 2 つに分け、それぞれについて、5 つの系（入学系、教育系、研究系、就職系、一般系）に分け、さらに各系において 5 つの対象に分け、合計 50 の催事グループについて点検・評価を実施し、より効率的、効果的な催事のあり方について模索した。本学の催事については、既に教育白書（各版）で取り上げているところであるが、統括的に全体を把握し、検討評価することは、今回が初めてのことである。

その結果、本学の各部門で行われている催事の全体像を把握できたと思われる。これらは、開催時期の集中、教職員のロードの低減など、いくつかの解決しなければならない課題は残されてはいるものの、概ね、有効に機能しているということがわかった。そこで本運営委員会では、催事の点検・評価の結果をまとめるとともに、より効率的で効果的な催事のあり方について 5 項目の提言を行った。

2. 催事活動評価の視点

今回の催事活動の評価にあたって、以下の視点で評価を行った。

- 1) 活動の意義と現状
 - a. 活動の目的
 - b. 現在の実施状況
 - c. 催事の対象
 - d. 実施の必要性

- 2) 開催時期
 - a. 開催時期は適切か
 - b. 関連する他の催事との連携
 - c. 大学と法人など開催部門の連携は図られているか

- 3) 実施効果
 - a. 宣伝効果
 - b. 社会に及ぼす影響
 - c. 受験者数や入学者数の増減への影響

- 4) 実施費用
 - a. 予算と実績
 - b. 予算の増減

- 5) 参加者と参加者数
 - a. 参加者の種類
 - b. 参加者数の増減

- 6) 教職員等の負担
 - a. 教員・職員の負担
 - b. 教職員の動員数
 - c. 準備期間
 - d. 負担の偏りはないか
 - e. 有限な人材の有効活用

7) 今後の課題

- a. 効果的、効率的な催事の計画と実施
- b. 他の催事との共催や統合
- c. 開催時期の分散化
- d. 教職員の負担の低減

以上の催事活動の評価の視点については、催事によっては評価するための基礎となるデータが得られなかったもの、また、2007年度の単年度だけでは評価できないものもあるため、催事ごとに評価可能なものについて評価を行うものとした。

3. 催事活動の全体像とその分類

3.1 2007 年度催事活動

催事の現状について調べる目的で、2007（平成 19）年度の大学・法人の各部門の催事活動についてのアンケート（付録 2，3）を実施した。アンケートを行うにあたって、通常の行事と催事を明確に区別することは難しいと判断し、催事であるかどうかについては各部門の判断に任せることとした。もし判断に迷うようなものがあれば、それもアンケートに記載することにし、以下の 12 項目についてアンケートを実施した。

【アンケート項目】

開催日、催事期間、催事および行事名、参加者数、予算額、実績金額、対象、協力動員数、宣伝方法、準備期間、関連（協力）部署、その他・特質すべき事項

なお、アンケートにご協力いただいた各部門は以下の通りである。

【法 人】

企画室、総務課、広報部広報課、人事課、エクステンションセンター、CPD センター、八王子事務部庶務課

【大 学】

学務課、新宿教務課、八王子教務課、大学院課、新宿学生課、学生部スチューデントサポート室、八王子学生課、八王子事務部庶務課、大学後援会、アドミッションセンター入学課、就職支援センター、学習支援センター、国際交流センター、総合研究所、図書館、情報科学研究教育センター

工学部各学科、情報学部各学科、GE 学部機械創造工学科

これらのアンケート結果に、当委員会が大学のホームページから調査した幾つかの結果を加え、まとめて、「2007 年度催事一覧表」（付録 4）を作成した。

3.2 2007 年度催事の種類

催事一覧表をもとに催事の種類を行った。まず、催事を「学外」と「学内」の 2 つに

分けた。「学外」とは催事の対象が学外の方々に対して催されているものであり、「学内」とは催事が主として学内の構成員に対して催されているものである。

委員会では、まず、「学外」と「学内」の催事について、それぞれ

1. 入学系
2. 教育系
3. 研究系
4. 就職系、
5. 一般系（社会貢献・支援・その他）

の5種類に分類した。そして、分類した各系の催事対象を、「学外」については、「高校生・予備校生」、「小・中学生」、「一般・企業」、「父母」、「教員」の5つに分けた。また、「学内」の催事対象については、「学部生」、「大学院生」、「教職員」、「OB」、「父母」の5つに分け、「2007年度催事分類一覧表」（付録5）を作成した。

4. 催事活動の評価

「2007年度催事分類一覧表」をもとに、以下のような関連する8つの分野に分けて評価を行った。

- 1) 入学系／学外（受験生および高校対象）
主として受験生向けの催事であり、高校訪問や高校教員との懇談会も対象である。
- 2) 入学系／学内（新入生対象）
学部の新入生向けの催事や、大学院進学者のオリエンテーションが対象である。
- 3) 教育系／学外
フレンドシップ、理科教室、出張講座など、教育関連の対外的な催事である。
- 7) 教育系および研究系／学内
学生対象の学園祭や各種講習会などの教育系催事や、卒論、修論の発表会など、学内で催されている催事が対象である。
- 4) 研究系／学外
総合研究所の研究成果発表会、海外大学との交流会などの対外的な催事である。
- 5) 一般系／学外
一般・社会人を対象としたや講演会、シンポジウム、公開講座などが対象である。
- 6) 就職系／学内および学外
学内で開催される就職関連の催事と、企業との産学懇談会が対象である。
- 8) 後援会およびOB対象
在学生の父母を会員とする後援会関連とOBを対象とした催事である。

なお、次項から述べる催事の評価においては、評価のためのデータが不足している場合、評価は行わないことにした。なお、表中文章の文頭に○、△、□の印を付けた。これらの記号は、以下のような評価内容を意味している。

- 概ね機能している
- △ 機能しているが課題あり
- 対策が必要

また、表中の実施費用については、金額ではなく、A、B、Cで表記することにした。Aは1000万円以上、Bは100万円以上1000万円未満、Cは100万円未満であることを表している。

4.1 入学系／学外(受験生および高校対象)

催 事	活動の意義と現状	開催時期	実施効果	実施費用	参加者と参加者数	教職員等の負担	今後の課題
新発見！オープンキャンパス(新宿)	○学科、研究室の紹介など。2007年度新企画として実施。「大学を知る」というテーマのもとに内容を構成。	2007年 6月23日	○参加学生の中から多くの受験生、入学生が誕生している。		高校生と その保護者 445名	広報 学生 38名 職員 30名	2006年度に比べ参加者数は12%減少したが、3年生の割合が3.3%増となり、出願への期待がもてた。2007年度より、参加者カードに保護者チェック項目を加えた。3056名参加者のうち703名(約23%)が保護者であることを確認した。今後さらに増加すると思われるので保護者向けの企画が必要。
夏のオープンキャンパス(八王子)	○学科、研究室の紹介など。	2007年 7月29日 30日	○参加学生の中から多くの受験生、入学生が誕生している。	A	高校生と その保護者 981名	広報 学生延べ 536名 教員延べ 156名 職員延べ 72名	
夏のオープンキャンパス(新宿)	○学科、研究室の紹介など	2007年 8月4日 5日	○参加学生の中から多くの受験生、入学生が誕生している。	A	高校生と その保護者 2,053名	広報 学生延べ 661名 教員延べ 226名 職員延べ 110名	
秋のオープンキャンパス(新宿)	○学科、研究室の紹介など	2007年 10月27日 28日	○参加学生の中から多くの受験生、入学生が誕生している。	B	高校3年生とその保護者 833名	広報 学生延べ 250名 教員延べ 78名 職員延べ 139名	推薦で受験を予定する生徒の参加が多く、この時期に開催する意義があった。
【参考:全オープンキャンパス合計】		7日間	(○)費用大だが、効果も大(4千人)	A	4,312名	学生 1,447名 教員 460名 職員 321名	
春休み学習体験(新宿)(八王子)	新高校2.3年生を対象に大学教室にて模擬授業を行う。予約制	2008年3月までは 新宿1日(3/26)、 八王子1日(3/27)、 2009年3月からは 新宿1日(3/21)	○150名以上が参加。受験生増加に繋がると期待できる。	C	高校1・2年生対象 新宿 120名 八王子 61名	広報(新宿) 学生 30名 教員 12名 職員 10名(八王子) 学生 15名 教員 8名 職員 10名	新宿11コース、八王子7コースの体験授業を設定したが、参加者数にバラつきが大きかった。特に授業の「タイトル」、「内容紹介」等を解り易く表記することが求められる。
新宿・八王子体験ツアー(予約制)	オープンキャンパスにて新宿-八王子連絡バスを運行し1日にて両キャンパスの体験を可能にしている。	2007年 9月29日	○100名以上が参加。受験生増加に繋がると期待できる。	B	高校3年生 106名	広報 学生 4名 教員 8名 職員 14名	参加者の反応は概ね好評であったが、「体験学習の時間が短くて物足りなかった」との意見があった。
入学前教育(オリエンテーション)	入学予定者の学力向上が目的。委員会(教育委員会のWG)と事務担当者による企画および実施。スクーリングと通信添削を行っている。	2007年 12月		B	入学予定者 約620名	新宿教務実施当日(のべ4日間)に、職員10名程度、教員・学習支援センター教員50名程度。	スクーリングが必要か、通信添削(外部委託)のみにするかは検討の余地あり。今後は、入学後のカリキュラムとの連動が課題。
入学前教育(通信添削)		2007年 12月下旬 ～ 2008年 2月下旬	学力向上、学力の把握(入学後の講義に反映可能)が達成されている。評判は良い。アンケート結果では、役立ったと思う79.7%、どちらとも言えない13.6%、役に立たなかったと思う3.7%。	B	対象者は674名、受講者664名。		

催 事	活動の意義と現状	開催時期	実施効果	実施費用	参加者と参加者数	教職員等の負担	今後の課題
入学前教育(スクーリング)	入学決定済み入学予定者の学力向上が目的。 委員会(教育委員会のWG)と事務担当者による企画および実施。	2007年 2月25日 ～27日	○出席率が高い。新入生の交流の機会や、新入生が大学になれる機会としても期待できる。入学前の教育システムの存在そのものが本学の教育システムの良さのアピールになる。受講者の評判は良い。アンケート結果はとてもよかった18.0%、よかった72.6%、あまりよくなかった7.3%、全くよくなかった1.2%、無回答1.0%。	B	入学予定者568名 (オリエンテーションは約620名)	入学前教育(オリエンテーション) (通信添削と同様)	スクーリングが必要か、通信添削(外部委託)のみにするかは検討の余地あり。今後は、入学後のカリキュラムとの連動が課題。
本学附属高校生徒対象工学院大学説明会(新宿)	工学院大学への進学を希望する附属高校3年生を対象に各学科の説明、研究室公開を行う。	2007年 5月11日 10:00～ 15:40	○必須。多数の生徒が本学に入学。極めて重要。	C	146名	○入学課 (1)共通課程、各学科説明者13名 (2)研究室公開対応者(26研究室) 教員41名 学部学生 院生50名程度 (3)事務局、運営対応 入学課員・派遣6名 【参加人数総計(1)+(2)+(3)】110名	負荷はかなり高いが、それ以上の効果があり有効に機能している。
附属高校2年生向け出張講座(八王子)	工学院大学への進学を希望する附属高校2年生を対象に工学部各学科系列(機械系、化学系、電気系、建築系)情報学部、グローバルエンジニアリング学部教員が工学院大学で学ぶ楽しみを実感できるよう、講演を行う。	2007年 12月18日 13:00～ 15:45	○多数の生徒が本学に入学。極めて重要。		169名	入学課 (1)各学科講演者6名 (2)事務局、運営対応 入学課員:3名 【参加人数総計(1)+(2)】9名	
高校教員対象進学懇談会(新宿)	本学を理解してもらう。個別面談の実施	2007年 5月25日	○費用が多いが、参加高校教諭との会話は重要と思われる。	B	高校教員202校	広報 教員38名 職員38名	高校(予備校含む)2、744校に案内状を発送した。他大学でも同じ時期に開催しており、また平日開催では出席できない高校もある。参加教員と受験生の関係の調査も有効と考えられる。
高校訪問	○教職員が高校を訪問。 推薦入試、一般入試の出願促進、工学院大学のPR、工学院大学への進学者の状況報告、高大連携の促進などを目的とし、1都9県を中心とし高校訪問を行う。	2007年 6月～10月	○訪問1回で学生1人/学年程度。因果関係は不明。2000年頃は明確な効果が確認された。	B	高校教員	△入学課 負荷は高い。(1)訪問者数(訪問高校数:349校)349名(2)事務局、運営対応入学課員・派遣:2名【参加人数総計(1)+(2)】351名	収集されたデータを活用することによりさらなる効果が期待される。

○おおむね機能している △機能しているが課題あり □対策が必要

オープンキャンパスは本学の広報活動の中でトップクラスの重要度の催事であり、受験者獲得を目的とする上で最も重要な催事である。費用も人的コストも大きい参加者も多く、「参加者の中には本学の志願者も多い」、「本学入学者の中には過去にオープンキ

キャンパスに参加している学生も多い」など適切に機能していると考えられる。志願者、入学者の確保は大学にとって極めて重要な事であるため、年々、開催日数が拡大しており、今後、さらに拡大していくと考えられる。よって、開催日数拡大による研究室学生や教員の負担増を抑えるために、全学的に組織的な取り組みを行うことが重要になると考えられる。

春休み学習体験(新宿・八王子)、新宿・八王子体験ツアーは、オープンキャンパスを費用、参加者ともに小さくした規模であり、これらも適切に機能していると考えられる。参考までに費用1万円あたりの参加者数を記すと、オープンキャンパスが1.6~2.0人であり、春休み学習体験が5.5人、体験ツアーが0.6人となっている。

入学前教育系催事は数日間の教育催事である。これによる学力向上を明確にとらえることは困難である。しかし、後述の複数の効果が確認されているため十分に機能しており、継続が好ましいと考えられる。具体的には「入学予定者の学力の調査として十分に機能している」、「推薦入学による入学予定者に対し入学への準備を促すことが可能、大学への帰属意識を持たせることが可能」、「入学予定者間の交流の促進させることが可能」などの効果が確認されている。また、入学前教育システムの存在を通じて、本学の教育的取り組みを学外に発信している意義も大きいと考えられる。昨今は多様な学習履歴を持つ学生が入学しているため、入学後に大学教育にスムーズに入れるように本教育をさらに充実させることも重要であると考えられる。

高校教員対象進学懇談会は、高校進路指導担当教員に本学の魅力を理解していただき、生徒に受験を勧めてもらうための重要な催事である。案内状は2,744校に発送され、参加された高校教員は202名である。案内状送付数と参加高校教員の比は10%未満であるが、参加高校教員の絶対数は202名と多いため適切に機能していると考えられる。

高校訪問は、少ない費用で実施されている催事であるが、教職員の時間的負担、労力的負担は極めて高い催事となっている。高校訪問の効率的な実施と、その効果の向上が期待される。その方策としては、これまでの高校訪問により収集、蓄積されたデータの有効活用などが考えられる。

(担当：山口委員)

4.2 入学系／学内(新入生対象)

催 事	活動の意義と現状	開催時期	実施効果	実施費用	参加者と参加者数	教職員等の負担	今後の課題
新入生オリエンテーション(共通)	○必須	2007年 4月	○必須		学部生	共通課程	今後とも効果的な実施方法について検討していく。
学習支援センター利用説明会(学習支援セ)	○必須		△センター利用者の説明会への参加が望まれる。		学部生 (新入生)	学習支援センター	
OB講演会		2007年 4月	○教員内の評価は高い。		学部生 (新入生)	電気系	学生の意見も収集する必要あり。
新入生ガイダンス(各学科)	○新入生に対する教員紹介や学生生活へのガイダンス。	2007年 4月	○必須。必要事項を伝達。大学に早く慣れてもらう。		新1年生	各学科教員	学科間などの連携が十分であるかの見直しを行えば、効率化される可能性がある。同一の連絡を複数回行っていないかの調査など。
新入生歓迎会	学生自治会、八王子祭実行委員会、学科連合で実施学科・履修の案内、学生自治会・学生団体・クラブ・サークルの紹介、オリターと新入生の懇親会。	2007年 4月	○学生大会への参加。学生団体およびクラブ、サークルへの参加等の役割をはたしている。実施する学生にとっても交流が進むなど教育的効果が高い。		学部生 (新入生)	八王子学生課	
オリエンテーションキャンプ	○新入生の交流目的。現在発展途上であるが、概ね良い催事になっていると考えられる。	2007年 4月	○学生の評価は高い。		学部生(新入生)	新宿学生課、引率教員	2回実施した経験をもとに今後の方針を検討する。
オリキャン参加上級生から意見を聞く会	○オリターによるオリキャンの反省会	2007年 4月	○学生の評価は高い。		学部生 (在学生)	学生部 大学院生	上級生の選択に改善の余地あり。次回以降はオリキャン経験済みの3年生以上を入れるなども考えられる。上級生へのプラス効果も考察する必要がある。
事務オリエンテーション	○学生生活・履修登録説明など。	2007年 4月	○必須。		学部生 (新入生) 約1,200名	八王子学生課 学生課職員他7名、 学生アルバイト10名	入学後に多数のガイダンスがあり効率化が期待される。入学前にDVD配布なども検討したい。
健康診断	○健康診断	2007年 4月4日、 5日	○必須。ハシカ検診がオリエンテーションキャンプ参加の条件。	B	学部生 約2,400名	八王子学生課 職員10名、学生アルバイト20名	
新入生基礎学力調査・個人面談(GE)	○新入生の学力調査のために行われる。	2007年 4月5日	○この結果に基づき、学習支援センターで開講される基礎講座への受講勧告対象者を決定する。英語はクラスのレベル分けに活用している。数学は履修の調査などに活用している。		79名	教員2名	学生の学力の経年変化を知るために今後も継続したい。
フレッシュマン講座	昨年度はなし。今後は未定。学生の心がけなどを説明。		昨年度は実施を見合わせた。今後の開催の有無は未定。	C	学部生 約700名	八王子学生課	
大学院進学ガイダンス(新宿)	運営委員長による本学大学院の説明、5専攻の学生からの説明、質疑応答。	2007年 7月5日	○多くの学生がガイダンスに参加。	C	180名	大学院課大学院運営委員は参加(専攻から1名)	
大学院進学ガイダンス(八王子)		2007年 9月13日			80名		

催 事	活動の意義と現状	開催時期	実施効果	実施費用	参加者と参加者数	教職員等の負担	今後の課題
大学院入学式 (新宿)	アーバンテックホールにて。	2007年 4月	○	C	270名 (新入生と父母)	大学院課大学院運営委員等	
TA 説明会			○必須。	C	大学院生	全専攻	

○おおむね機能している △機能しているが課題あり □対策が必要

オリエンテーションキャンプは2回しか開催されていないため評価を行うのはまだ難しいが、新入生からの評価は高く、新入生同士の交流を深めるのに役立っていると思われる。

入学時に行われるオリエンテーション、各種説明会、健康診断などは例年行われている新学期の恒例行事である。この時期は最もイベントの多い時期でもあり、オリエンテーションや説明会などの内容の見直し、整理や統合などの改善が望まれる。

大学院進学ガイダンスは適切に行われており、催事そのものに問題や課題はないが、大学院への進学率の向上のためには何らかの対策が望まれる。

(担当：山口委員)

4.3 教育系／学外

催 事	活動の意義と現状	開催時期	実施効果	実施費用	参加者と参加者数	教職員等の負担	今後の課題
フレンドシップ事業	○ 40回	年間	○受け入れ機関のニーズにより演題を決めており、聴講参加された方の関心に応えるものとなっている。	B	高校生	広報および担当教員 延べ40名	本学の社会的活動として活発に進めているものの一つである。学内のリソースを明らかにしてより幅広い教員の参加を進めるとともに、受け入れ側に対して論題などの提案を積極的に進めたい。
出張講座	○ 10回	年間		B	一般	広報および担当教員 延べ10名	
出張理科教室	○ 別所小学校 福島鏡石教育委員会	2007年 10月20日 12月1日		B	小学生 159名 小中学生 500名	教員6名 学生83名 職員1名 教員6名 学生73名 職員3名	
大学の先生と楽しむ理科教室	○ 4月より準備を始め、学内全体で進めている。また多くの教育委員会の協賛を得て、広報を進めており、参加者も非常に多い。	2007年 8月25日 26日	○参加者の理科への興味や関心を高めることができ、工学院の存在を広く知らせる取り組みとなっている。	A	幼児・小学生・中学生 ほか 6489名	教員160名、職員450名、学生1,800名	これらは本学の社会的貢献の活動として定着しているが、高校生までの児童・生徒を対象とする理科関係行事の相互の連携を強める必要がある。ボランティアな取り組みだけに依存しないで博物館などの設置による常設理科教室を設けてバックアップする体制が必要だろう。
楽しむ科学教室	○平成基礎科学財団の主催であり本学は開催に協力する立場である。	2007年 5月13日			高校生対象 71名	企画 教員7名、職員8名	
サイエンス道場「昆虫ロボット」	○ 理科論文発表会とサイエンス道場を合同で開催。	2007年 10月27日			高校生、顧問教師など 233名		
理科論文入賞論文発表会			○高校でのクラブ活動の成果を発表する場として定着してきている。				
デジタルアート・コンテストおよび作品審査会	○デジタルアート・コンテストの公開審査会である。	2007年 9月22日		B	学生・高校生・一般 197名	企画 情報デザイン学科教員6名、職員11名	始まったばかりの取り組みであるので、今後の発展に期待したい。
インターンシップ成果発表会	○夏期を中心に行われたインターンシップ参加者の体験発表会であり、受け入れ企業の参加を得て行われる。	2007年 11月21日	○インターンシップ受け入れ企業の参加を得て、その成果を確認する場として意義が大きい。	B	学生・企業 教員	新宿教務課 教員約20名、職員10名	インターンシップは、教育的意義が大きく、参加学生をさらに増やす努力が必要である。取り組みの体制についての検討が必要となっている。
博物館実習成果発表会	○博物館実習生の成果発表会であり、受け入れ館からの参加もある。また次年度実習予定者へのガイダンスを兼ねる。	2007年 11月、 2008年 1月	○発表する学生にとっては自らの学習を振り返る機会となり、次年度実習希望者にとっては動機づけの機会となっている。		学生・一般 約100名	教務課 教員3名 職員1名	学内外の広報を行い、参加者を増やしていくべきだ。
プレ八王子祭・八王子祭	○学生団体である八王子祭実行委員会が主体となって開催している。	2007年 5月19日、 20日 10月27日 28日			学生など プレと合わせて 1100名	八王子祭実行委員会・八王子学生課が支援	学生主体の行事であるが、学外者が多数参加する機会であり、大学としても学祭実行委員会と共同での取り組みを今後とも広げる必要がある。
第1部プレ新宿祭・新宿祭	○学生団体である新宿祭実行委員会が主体となって開催している。	2007年 11月22日 23日			学生など 3000名	新宿祭実行委員会・新宿学生課が支援	
プレ水無月祭・水無月祭							

○おおむね機能している △機能しているが課題あり □対策が必要

一般・社会向け教育系行事は本学の社会貢献活動としての教育系行事および学内の教育活動の中で一般参加も可能な行事である。その全体は上記の表の通りである。

全体として活発に行われており、当初の目標をおおむね達成していると思われる。しかし教職員の負担および予算については今後考えていく必要がある。特に理科教室は文部科学省の GP として採択されたが、今後の予算措置が必要である。コンテスト系の行事は入試とも連動しているが、この入賞者からの出願は必ずしも多くはない。学習成果発表の行事では外部からの参加は必ずしも多くはない。行事そのものは教育上必要であることはいうまでもないが、外部からの参加をどのように働きかけるか計画を持つことが必要だろう。

学生行事の内、学園祭は外部からの参加も多いが、大学としてどのように位置づけて取り組むか、学生の主体性を尊重しながらも積極的な広報の機会としてもとらえる必要があるのではないだろうか。

全体として活発な活動をしていることは明らかであるが、その内容や成果を外部に発信することについては必ずしも積極的ではないといわざるを得ない。HP および印刷物などでの広報活動とともに、ビデオなどの映像による広報活動を積極的に進める必要がある。これらの広報活動のそのねらいや対象についての方針が明確であるとはいえない。今後、方針を確立していくことが重要である。

1) 学外で行う催事

高校への講師派遣としてのフレンドシップ事業、教育委員会その他の要請に応じて本学教員を派遣する出張講座および出張理科教室がある。これらは理科や工学その他についての教育啓発活動であり、本学教員の専門性を生かした特色ある活動である。教員の負担との関係で今後どの程度の規模にしていくかの問題はあるが、やや実績のある教員に偏る傾向があり、受け入れ機関に対して演示（講演）テーマなどの提案を積極的に行うことが必要であろう。

2) 学内で行うもの

1) の学外で行う行事と同様の目的であるが学内で行うものとして、大学の先生と楽しむ理科教室、サイエンス道場のほか、本学は開催に協力する立場であるが平成基礎科学財団の主催する楽しむ理科教室が本学では年に1回開催されている。大学の先生と楽しむ理科教室はこの種の行事として本学が最初に始めたものであり、文部科学省の GP に採択されたイベントである。地元の八王子市を始め多くの教育委員会の後援を得て多くの参加者を迎えて行われている。サイエンス道場は次に示す理科論文募集の入選発表会と同時に開催している。これらの成果と評価を積極的に発信していくことが必要であろう。

3) コンテスト系の催事

高校理科論文募集、デジタルアート・コンテストは高校生を対象としたコンクールで

あり、入学試験での特別入試とも連動している。建築論文募集、電気で動くものづくりコンテストも始められた。これらは高校生の課外の研究創造活動を積極的に支援することを目的としている。理科論文募集は本学の実施以後、追随する大学が現れているが本学の特色ある活動として、いっそうその特色をのばす努力が必要である。そのためにはこれらのコンテストの果たしている役割を明らかにし、さらなる発展を目指すために応募校を中心としてのインタビューなどの形で評価を進めることが必要であろう。また、統一的に広報活動を行うことが考えられる。

4) 学習成果発表の行事

これは大学の教育活動の一貫として行うもので、外部にも公開しているものである。これにはインターンシップ成果発表会、博物館実習成果発表会、建築系学科卒業研究作品展などがある。はじめの二つは受け入れ機関の関係者の参加があり、建築系学科卒業研究作品展は広く一般の参加を予定している。これらは大学の教育行事として行われるもので、関係者の参加を認めるものである。今後の状況として教育活動についてもできるだけ外部に情報発信をしていくことが求められることが予想されるので、大学の社会的アピールとしての戦略を持つことが必要である。

5) 学生行事

一般に公開される行事としては、以上のほか学生主催の行事がある。八王子祭、プレ八王子祭（歩け歩け大会）、新宿祭・プレ新宿祭（1部学生自治会）、水無月祭・プレ水無月祭（2部学生自治会）がある。大学としては研究室公開などの取り組みを行っている。これらは学生行事であるので、学生の主体性を大切にすることが重要であるが、多くの学外者が来校し本学をみていただく機会ともなるので、学生団体との調整を図りながら大学としては広報の機会として位置づけ積極的に取り組むことが必要である。

なお、このほかの学生主催の行事として新入生歓迎会、体育祭、学生大会（1部および2部）などがあるがこれらは公開されていない。

（担当：蔵原委員）

4.4 教育系および研究系／学内

[教育上の催事]

催 事	活動の意義と現状	開催時期	実施効果	実施費用	参加者と参加者数	教職員等の負担	今後の課題
2・3・4 年生ガイダンスおよび面談	○2年生以上の学生に対するガイダンスおよび成績不振者への面談が各学科で行われる。学生の学力と学習意欲の低下に伴い、講義履修に関するガイダンスや学生との面談の機会は増え続ける傾向にある。	○2007年4月	△講義についていけない、勉強がつまらないなどの悩みを抱えたまま退学の道を選択しようとする学生に対して、これらの面談が抑止力として働いているかどうかは分析を要する。		○対象:2年生以上の学生	△各学科教員	△学生の満足度を高める努力は今後とも継続すべきであろう。
卒論中間審査(機械系・化学系(環化マテ)・建築系)	○卒業論文の進行状況の報告会	○2007年中旬	○締め切り効果による研究の進展		○4年生	○教員	
修士1年中間審査(機械系)	○修士論文の進行状況の報告会	○2007年11月	○締め切り効果による研究の進展		○修士1年生	○教員	
修士2年中間審査(機械系・化学系(環化マテ))	○修士論文の進行状況の報告会	○2007年9月	○締め切り効果による研究の進展		○修士2年生	○教員	
卒論・卒研・ECPⅢプレゼンテーション(各学科)	○学部生の研究成果のプレゼンテーションを各学科で実施。	○2008年1月	○必須行事		○卒論・卒研・ECPⅢに着手した学部生	○各学科教員	なし
修士論文最終審査(各専攻)	○大学院生の修士論文のプレゼンテーションを各学科で実施。	○2008年2月	○必須行事		○大学院生	○各専攻教員	なし
大学院優秀論文発表会(大学院課)	○宣伝方法:HP、ポスター×5	○2008年2月27日			○40名対象:学生	○教員11名、職員1名準備期間:1ヶ月	
特別研究生研究発表会(南台科技大学大学院生研究成果報告会・懇談会)(国際交流)	○例年3、4名程度が1年間大学院の研究室に留学生として訪れ、研究を実施する(2007年は4名、2008年は1名)。終了時にプレゼンテーションと懇親会を実施。 国際交流センター予算から家賃と交通費の補助がなされる	○2008年3月13日	○プレゼンテーションでは研究発表だけではなく、学生との交流の様子も発表され、学生同士の国際交流の場として機能していることが伺える。		○40名対象:学生、教職員(受け入れ先研究室の学生、教員を中心に)	○大学院での受け入れなので大学院課が関わる。また、宿の幹旋などは国際交流センターが行う。	○今後も継続されることが期待される。また、より人数が増えても良いのではないかと。
FDシンポジウム	○学部の教育に関連した、教員の授業内容や教育方法などの改善・向上を目的とし、学内および学外の講師による講演と討論を行っている。	2007年10月29日 11月19日	○教員の授業内容や教育方法などの改善・向上につながる、毎回有意義な内容である。	C	少ない。	特になし	ちらしやホームページ等による開催案内を行っているが、学内の参加者が多くないので、開催日や時間を工夫し、参加者を増やすことが必要である。今後も継続されることが期待される。
大学院FDシンポジウム	○大学院教育に関連したテーマについて、学外の講師による講演と討論。	2007年6月25日 12月27日	○MOT教育など時宜を得た内容で、有意義である。	C	少ない。	特になし	

○おおむね機能している △機能しているが課題あり □対策が必要

2・3・4年生ガイダンスおよび面談は、長期休暇明けに各学科で開催されることが多い。学生の学力と学習意欲の低下に伴い、講義履修に関するガイダンスや学生との面談の機会は増え続ける傾向にある。学生の満足度を高める努力は今後とも継続すべきであるが、講義についていけない、勉強がつまらないなどの悩みを抱えたまま退学の道を選択しようとする学生に対して、これらの面談が抑止力として働いているかどうかは分析を要する。

学部学生は卒論（審査）発表会、卒論中間（審査）発表会、修士の学生は修士論文最終審査、修士論文中間審査に関する各種の催事が行われており、これらはすべて必須の催事である。なお、博士論文公開審査は、4.5 研究系／学外で取り上げる。

特別研究生研究発表会は海外の提携大学の留学生の発表会で有り、国際交流の取り組みは今後も拡大してゆくことが望ましい。なお、研究上の国際交流については、4.5 研究系／学外を参照されたい。

FDシンポジウムは教員の授業内容や教育方法などの改善・向上を目的とし、学部教育および大学院教育を対象として催されており、内容は有意義でその実施効果は大きいと思われる。しかし、ちらしやホームページ等による開催案内を行っているが、学内の参加者が多くないため、開催日や時間を工夫し参加者を増やすことや、成果を参加できなかった教員に伝えることが課題であろう。

【懇談系の催事】

催 事	活動の意義と現状	開催時期	実施効果	実施費用	参加者と参加者数	教職員等の負担	今後の課題
非常勤教員との懇談会	△担当科目に応じ、各学科で行われている（共通課程では、英語、保健体育、一般教育、総合文化科目など、そして各学科の専門科目）	○ 2月から春にかけて行われる。	○講義の質を高く保つためには非常勤教員との連絡を密に行う必要があり、その意味では必須である。		○対象:非常勤教員	△所属する学科の教員	△現在は学科ごとに懇談会が個別に開催されているが、大学の姿勢を示すという意味では大きな会場を用いた全科目を対象とした懇談会にまとめることも検討されてよいのではないか。
学長室と講師との懇談会(学習支援センター)	○学習支援センター講師との連携を密に保つために開催される。	○2007年7月13日	○支援センターは新しい組織であるので、今後の方針なども含め意見交換が行われる。		○約20名 対象:運営委員会メンバー、センター講師	○運営委員会メンバー	○学習支援センターの重要性が今後も高まることが予想されるので、重要性は高い。
センター会議(学習支援センター)	学習支援センター講師との連携を密に保つために開催される。	○2007年8月3日	○支援センターは新しい組織であるので、今後の方針なども含め意見交換が行われる。		○約30名 対象:運営委員会メンバー、センター講師	○運営委員会メンバー	○学習支援センターの重要性が今後も高まることが予想されるので、重要性は高い。

○おおむね機能している △機能しているが課題あり □対策が必要

懇談系の催事としては、学生の教育を円滑に進めるために「非常勤教員との懇談会」、「学習支援センター講師との懇談会」が開催されている。非常勤教員との懇談会は、新学期に向けての打ち合わせの意味もこめて春に実施されることが多く、学習支援センタ

一講師との懇談会は夏学期の報告も兼ねて夏休み前に行われることが多い。このうち、非常勤教員との懇談会は担当科目に応じて各専門学科で個別に開催されているのが現状であるが、他大学では講義の分野を問わず全ての非常勤教員を大会場に招いて懇談会を実施しているところもある。非常勤の先生に対する大学の姿勢を示すことができるという点ではこのように大学全体の催事とする方が効果的であるとも考えられるため、今後検討の余地はある。

[学生対象サービス系催事]

(実技指導系)

催 事	活動の意義と現状	開催時期	実施効果	実施費用	参加者と参加者数	教職員等の負担	今後の課題
八王子実習工場講習会	○学生創造プロジェクトの使用が主で、機械の操作方法・部品加工方法・及び部品図面等すべての内容について、企業での経験を基に指導。学生創造プロジェクトの学生に対しては、安全講習・機械操作講習を行い使用許可を出している。	○実習工場の技術指導員の時間の取れる時(毎年5・6月が多い)。	○安全講習・機械操作講習を行い使用を許可することにより、安全な機械の使用が行われている。		○各学生創造プロジェクト及び・実習工場の機械を使用した学生。 2008年度は9月の時点で27名。	△技術指導員 3名	△試作室・実習工場・等へ来る場合、作業服等の決まりを守ること。
ECP センター講習会	○以下の安全講習を希望者に開講 1.基礎コース 2.測定コース 3.旋盤コース 4.フライス盤コース その他(光造形機、放電加工機、ワイヤーカット放電加工機、NCF)は希望者には開講。	○学生の希望に応じて随時実施	○GE学部の講義の滑車作りを通して、創意工夫の向上ができた。実験装置など自主的に製作できるようになった。学生の技能習得、向上がはかれる。掃除、整理整頓ができる学生が増えた。		○安全講習受講者:延べ287名 ECPセンター利用者:延べ1420名	△ECPセンター職員(特級技能士)1名	△職員の増員、TAの活用等により、いつも安全に利用できる体制が好ましい。
夢づくり工房講習会	○学生創造プロジェクトメンバーを対象に実施。 1. 工房内安全講習を実施。講習修了者には「工房内安全講習終了証」を発行。2. 工作機械安全講習を実施。講習修了者には「工房内工作機械安全講習終了証」を発行。	○学生の要望に応じて実施するが、5月、6月に集中。	○現在までで、53名が「工房内工作機械安全講習終了証」発行。		○工房内安全講習。2007年度から2008年8月まで学生4名が参加。 工房内工作機械安全教育講習。2007年度から2008年8月まで学生53名が参加	△工房職員1名	△規律を守らない学生が多く、安全上問題になることもあるので、年に2度(前期・後期)「安全講習会」を行い、再教育の場を設ける予定。
TECC 個別指導	○特別に集めた「講習会」と言う形ではなく、卒業生たちの加工品に対してその都度、個別に機械操作指導を行っている。	○随時	○機械によっては、学生だけで使えるようになる。 付きっきりで指導が必要なものもある。		○放電加工機は30人/年、他の機械は10人位。授業で使う人数は1年で250人位	△対応職員1名	△安全に対するの対策が必要である。
新宿工作室個別指導	○特別に講習会は開催していないが、卒業生の加工品にたいしての、加工方法製作技術等を確認して、その都度機械操作、加工指導を行っている。		○ほとんどの学生が問題なく機械加工を行えるようになっている。		○新宿在校学生3・4年生約50名(年間延人数約800人) 大学院生約15名(年間延べ人数約100人)	△対応職員1名	△卒業提出近くになると、夜間の実習の許可願いが発生することがあるので、安全に対するの対策が必要である。

○おおむね機能している △機能しているが課題あり □対策が必要

実技指導系の催事は、工作機械の安全な利用方法などをレクチャーするもので、主に「八王子実習工場」、「ECPセンター」、「夢作り工房」などで行われる。対象は卒論生・修論生および、創造活動で工作機械を利用する学生などである。施設を利用するためには、講習が必要となる。工場・工房職員の尽力により、事故もなく運用ができてはいるが、老朽化した施設・設備の改修や工場・工房職員の増員などの対策など、安全には一層の努力が必要である。

(図書館)

催 事	活動の意義と現状	開催時期	実施効果	実施費用	参加者と参加者数	教職員等の負担	今後の課題
図書館ツアー	△宣伝方法:HP、ポスター5-6枚	○2007年4月 期間:新宿3日間	○新入生等に対して図書館の利用法を解説		△約5名 対象:学生(新1年生、新3年生)	○職員2名 準備期間:約1週間	
検索の早ワザ講座	○宣伝方法:HP、ちらし約220枚、ポスター5-6枚	○2007年6月 期間:新宿2日間、八王子1日間	○学生や大学院生が研究を進める上でのテクニックを解説		○35名 対象:学生、教職員	○職員2名 準備期間:約1週間	
外国文献カンペキ講座	△宣伝方法:HP、ちらし約220枚、ポスター5-6枚	○2007年7月 期間:新宿1日間、八王子1日間	○学生や大学院生が研究を進める上でのテクニックを解説		△11名 対象:学生、教職員	○職員2名 準備期間:約1週間	
検索の早ワザ講座	○宣伝方法:HP、ちらし約220枚、ポスター5-6枚	○2007年9月~10月 期間:新宿3日間	○学生や大学院生が研究を進める上でのテクニックを解説		○32名 対象:学生、教職員	○職員2名 準備期間:約1週間	

○おおむね機能している △機能しているが課題あり □対策が必要

大学での学習・研究を円滑に進める上では図書館の利用方法を早い段階で習得することが重要であり、学生の積極的な利用が望まれる。上記の催事のうち、4月の図書館ツアーの参加人数が少ないのがやや寂しい。また、7月の外国文献カンペキ講座の参加者もやや少ない。ただし、これは宣伝不足というよりは、学生が海外文献を読まなくなっていることも原因としてあるのかもしれない。

(情報科学センター)

催 事	活動の意義と現状	開催時期	実施効果	実施費用	参加者と参加者数	教職員等の負担	今後の課題
PowerPoint 2003 入門講習会	○宣伝方法:HP、ちらし 100 枚	○2007 年 5 月 29 日～ 6 月 30 日 期間:6 日間			○学生 22 名 教職員 1 名 対象:学生、教職員	○職員 5 名 準備期間: :1～2 週間程度	
Excel2003 基礎講習会	○宣伝方法:HP、ちらし 100 枚	○2007 年 5 月 31 日～ 6 月 26 日 期間:6 日間			○学生 12 名 教職員 1 名 対象:学生、教職員	○職員 5 名 準備期間: 1～2 週間程度	
Excel2003 講習会～グ ラフ作成～	○宣伝方法:HP、ちらし 100 枚	○2007 年 6 月 7 日～ 7 月 2 日 期間:5 日間			○学生 9 名 教職員 1 名 対象:学生、教職員	○職員 5 名 準備期間: 1～2 週間程度	
Office2007 新機能講習 会	○宣伝方法:HP、ちらし 100 枚 2007 年 9 月より 情報センターPC が Office2007 にアップグ レードされたため、 新機能の紹介が行わ れる。	○2007 年 11 月 1 日～ 13 日 期間:5 日間			△学生 2 名 教職員 1 名 対象:学生、教職員	○職員 5 名 準備期間: 1～2 週間程度	
PowerPoint 2007 入門講 習会	○宣伝方法:HP、ちらし 100 枚	○2007 年 11 月 6 日～ 26 日 期間:5 日間			△学生 1 名 教職員 1 名 対象:学生、教職員	○職員 5 名 準備期間: 1～2 週間程度	
Excel2007 基礎講習会	○宣伝方法:HP、ちらし 100 枚	○2007 年 11 月 12 日～ 29 日 期間:6 日間			△学生 1 名、 教職員 1 名 対象:学生、 教職員	○職員 5 名 準備期間: 1～2 週間程度	
MSC/Patran 基礎セミナ ー	○宣伝方法:HP、ちらし 100 枚 備考:学外講師	○2007 年 11 月 7 日～ 9 日			○学生 5 名 対象:学生、教 職員	○職員 5 名 準備期間: 1～2 週間程度	
MSC/Patran 基礎セミナ ー	○宣伝方法:HP、ちらし 100 枚 備考:学外講師	○2007 年 11 月 15 日 16 日			○学生 5 名 対象:学生、教 職員	○職員 5 名 準備期間: 1～2 週間程度	
STAR-CD 入門・基礎コ ース	○宣伝方法:HP、ちらし 100 枚 備考:学外講師	○2007 年 11 月 21 日 22 日			○学生 2 名 教職員 2 名 対象:学生、教 職員	○職員 5 名 準備期間: 1～2 週間程度	
MSC/Marc 基礎セミナ ー	○宣伝方法:HP、ちらし 100 枚 備考:学外講師	○2007 年 11 月 28 日～ 30 日			○学生 6 名 教職員 1 名 対象:学生、教 職員	○職員 5 名 準備期間: 1～2 週間程度	
Word2007 基 礎講習会	○宣伝方法:HP、ちらし 100 枚	○2007 年 12 月 1 日～ 6 日 期間:4 日間			△学生 1 名 教職員 1 名 対象:学生、教 職員	○職員 5 名 準備期間: 1～2 週間程度	
研究室ホー ムページ製 作初心者講 習会	○宣伝方法:HP、ちらし 100 枚	○2008 年 3 月 24 日 25 日	○教員の研究に 関する情報を発 信することを促進 する意味で重要 である。		△学生 2 名 教職員 3 名 対象:学生、教 職員	○職員 5 名 準備期間: 1～2 週間程度	

○おおむね機能している △機能しているが課題あり □対策が必要

情報センターの催事は、アプリケーションの利用法の解説講座が多い。MSC/Patran・STAR-CD・MSC/Marc などのように専門性が高いアプリケーションの講座の参加者がやや少ないのはやむを得ないことであるが、Word・Excel・PowerPoint の講座では参加者が少ない回が幾つか有り、せっかくの機会が活かされていないのはもったいない。

[学生主体の催事]

催 事	活動の意義と現状	開催時期	実施効果	実施費用	参加者と参加者数	教職員等の負担	今後の課題
学生の創造活動「春の応募プロジェクトのプレゼンテーション」(学生課)	○創造活動の活動報告が行われ、前期の予算配分などが検討される。	○2007年 4月28日	○鳥人間やロボットコンテストなど、成果を上げている活動も多い。		○100名 対象: 学生、 教職員	○準備期間:1ヶ月	△単位化を含めた創造活動の今後のあり方が検討されている。
第2部学生総会	○第二部自治会主催	○2007年 5月12日			○42名 対象:学生		
第1部学生総会		○2007年 5月27日			○約100名 対象:学生		
学生の創造活動「秋の応募プロジェクトのプレゼンテーション」(学生課)	○創造活動の活動報告が行われ、後期の予算配分などが検討される。	○2007年 10月19日	○鳥人間やロボットコンテストなど、成果を上げている活動も多い。		○100名 対象: 学生、 教職員	○準備期間:1ヶ月	△単位化を含めた創造活動の今後のあり方が検討されている。
体育祭	○学生団体「体育会」が主催し、八王子祭の日程に合わせて秋に開催されている。サークルやクラスなどの友人同士で編成したチームにより、バスケットボール、ソフトボール、フットサル等の球技試合が行われる。雨天のため2007年度は中止。	○2007年 10月27日	○2006年度はフットサルに30チーム以上が参加するなど、盛況であった。		○例年の参加者は約400名		○クラブ活動をしていない一般の学生も参加できるような企画があると良いかもしれない。
リーダーズキャンプ (学生課)	○学生自治会、学科連合委員会、八王子祭実行委員会、新宿祭実行委員会、文化会、体育会、新聞会および各クラブの役員を集めて、特別講演、全体討議等を通して、リーダーシップのあり方、課外活動の活性化、集団生活におけるモラルの高揚等について学習・研修するために、毎年秋に開催している。	○2007年 12月9日	○2007年度は12:30～19:30の日程で新宿消防署協力による普通救命講習、グループ討議、ポスターセッションなどが行われた。アンケートの結果、「時間が長い」という意見も若干あるものの、「他の部と知り合えて良かった」など、おおむね好評を得ている。	C	○80名 対象: 学生、 教職員	○準備期間:2ヶ月	○学生団体新旧代表が一同に会するのはこのイベントくらいしかないので、この機会を啓蒙的な内容のみならず、学生団体横の意見交換などの時間もとるのも良いかもしれない。

○おおむね機能している △機能しているが課題あり □対策が必要

学生主体の催事のうち、外部に公開されていない「創造活動プレゼン」、「学生総会」、「体育祭」、「リーダーズキャンプ」などをここに挙げる。これらは、講義や学問とは違う観点から学生生活を豊かにするという点でいずれも必須の催事と言える。なお、学生

創造活動についてはこれを単位化（授業化）するという議論があり、賛否両論のなか結論は出ていないものの、今後の学生創造活動の位置づけを明確にするために今後も議論の継続が必要であろう。なお、学生創造活動の単位化の議論と密接に関連するのは、工作機械の利用に関する学生の安全面の確保であるが、これは[学生対象サービス系催事]の実技指導系を参照されたい。

（担当：金丸委員）

4.5 研究系／学外

催 事	活動の意義と現状	開催時期	実施効果	実施費用	参加者と参加者数	教職員等の負担	今後の課題
EEC 研究成果報告会	○地震防災・環境研究センター野の発表会。「地震防災および環境共生に関する新技術の応用に関する研究」というプロジェクト、3テーマ、7プロジェクトに分かれて49の発表が行われた。	2007年 5月26日	○地震防災というテーマで関心も高い。外部の共同研究者および学生の参加が多く、報告会終了後の情報交換も盛んである。	C	○参加者数190。 一般・企業85、教職員、学生105	協力した教員40、職員6 準備期間2～3か月。	ちらし500枚、ポスター100枚。ホームページ掲載。
SMBC 研究成果報告会	○マイクロ先進スマート機械・マイクロバイオシステム研究センターの平成18年度の活動報告会。6テーマに分かれて18の発表が行われた。	2008年 3月8日	○外部からの参加者が少ない。先進的な研究課題のため社会に対する実施効果は大きいと思われる。	C	○一般・企業20 教職員34	協力した教員40、職員6 準備期間2～3か月。	ちらし500枚、ポスター100枚。ホームページ掲載。 研究者同士のつながりを利用してもっとアピールする必要がある。
NASIC 研究成果報告会	○ナノ表面・界面研究センターの報告会。4課題に分かれて22の発表が行われた	2008年 3月21日	○外部からの参加者が少ない。先進的な研究課題のため社会に対する実施効果は大きいと思われる。	C	○参加者数67 一般・企業4 教職員・学生63	協力した教員45、職員6、準備期間2～3か月。	ちらし400枚、ポスター100枚。ホームページ掲載。研究者同士のつながりを利用してもっとアピールする必要がある
プロジェクト研究成果報告会	○総合研究所のプロジェクト研究の報告会。6テーマについて6の発表が行われた。	2007年 12月8日	△いろいろな分野の報告会になっているので、関心が課題単位になっている。	C	△参加者数34 一般・企業7 教職員・学生27	協力した教員8、職員5、準備期間2～3か月。	ちらし400枚、ポスター100枚。ホームページ掲載。研究者同士のつながりを利用してもっとアピールする必要がある。
博士学位請求論文公開発表会	論文博士 3回 課程博士 6回	2007年 9月3日 12月20日 2008年 1月26日 ～2月23日		C	教員・学生・一般、18～42名	大学院課、 毎回教員3名 職員1名	
南台科技大交流	○大学院生歓迎、新学長との懇談会、大学院生研究成果報告会	2007年 6月5日 10月12日 2008年 3月13日			教員・学生 40名 懇談会は10名		
海外大学交流	○中国科学院の先生歓迎会 北京航空航天大学との交流、釜山大学から理科教室参加、韓国Suwon大学教員との懇談会	2007年 5月23日 8月24日 8月25日 2008年 2月12日			海外10～16名 教員15～16名		
国際シンポジウム ISAT-6	○情報、建築、芸術、バイオ、化学など広範囲な分野における「感性」に関する国際シンポジウム	2007年 11月4日 ～6日		B	参加者数100 学生・教職員		

○おおむね機能している △機能しているが課題あり □対策が必要

本学の総合研究所には、3研究センターが開設されており、外部資金の助成のもと特色ある研究活動が行われている。すなわち、地震防災センター（EEC）は平成3年から5年間、マイクロ先進スマート機械・マイクロバイオシステム研究センター（SMB

C) は平成 15 年から 5 年間、ナノ表面・界面研究センター (N A S I C) は平成 17 年から開始されている。また、本学の教員が他機関の研究者などと協力して複数年度にわたって研究を行う総合研究所プロジェクト研究が行われている。これらの研究センターや研究所の 1 年間の研究成果を学内および学外にむけて発信するイベントは、成果報告会という形で行われている。これらの成果報告会への主な参加者は、教員、学生、共同研究者や企業関係者であるが、報告会によっては、外部からの参加者の多いものと少ないものがあり、ばらつきがみられる。ちらしやポスターを作成し、参加を呼びかけてはいるが、統一的な広報活動の展開や、研究者同士のつながりを利用して更にアピールすることが期待される。

南台科技大学や北京航空航天大学など、海外の大学との懇談会や大学院生の研究成果報告会も行われている。また、本学と学術交流協定を結んでいる、北京化工大学、南台科技大学との共催による **International Symposium on Advanced Technology (ISAT)** も開催されており、このような国際社会に貢献できる活動を通じて、広く情報を発信していくことが望まれる。

(担当：大塚委員)

4.6 一般系／学外

催 事	活動の意義と現状	開催時期	実施効果	実施費用	参加者と参加者数	教職員等の負担	今後の課題
創立記念日シンポジウム(学務課)	○HP,チラシ 20,000枚で周知	2007年 10月31日	○学生、教職員、一般、父母、企業向け、一般に広く募集 創立記念特別企画として定着してきた催事であり、時代を反映したテーマを取り上げ工学院大学にふさわしい情報発信ができていると考える。	C	291名	教員、職員を動員 準備期間 約5カ月	
技術士 CPD講座(企画)	○「原子力に関する最近の話」、HP,チラシ 500枚、ポスター20枚で周知。 (技術士会員 ¥2,000、一般 ¥4,000)	2007年 9月1日	○学生、教職員、一般向け 技術士の存在と活動の社会的意義を普及する活動として意義深い。		152名	職員3名 準備期間約1カ月 (手配は日本技術士会)	
技術士講演会(第1回)(企画)	○「技術士制度と修習技術者」、HP,チラシ 500枚、ポスター20枚で周知(無料)。	2007年 10月20日	○学生、教職員、一般向け 技術士の存在と活動の社会的意義を普及する活動として意義深い。地道な活動を続ける意味は大きいと考える。		48名	職員3名 準備期間約一カ月	
技術士講演会(第2回)(企画)	○「地震と技術者」、HP,チラシ 500枚、ポスター20枚で周知(無料)。	2007年 11月22日			58名	職員3名 準備期間約1カ月	
知財シンポジウム(企画)	○「知財保護と戦略」	2007年 12月8日 (第5回)	学生、教職員、一般、父母、企業向け	B	114名	教員3名 職員7名 準備期間約3カ月	△対象を絞って効果的に広報を行う努力が必要。
エクステンションセンター開設記念講演会(エクス)	○「失敗学のすすめ」	2007年 9月14日	○エクステンションセンターのお披露目として大きな役割を果たした。		約700名		
公開講座全6講座(エクス)	物質と宇宙の究極を探る(¥4,000)	2007年 11月8日 …29日 (全4回)	△エクステンションセンターは、設立間もなく、その方針を手探りで定めつつある状態の開催であるため、これだけの評価は難しい。		申込9名		朝日カレッジとして行う、生涯学習の対象者のニーズと、工学院大学のエクステンションセンターとしての役割や方針との整合性をどのように確保するかが今後の課題であろう。その中で、大学としてどのように積極的ににかかわっていくかを検討する必要がある。
	メタボリックシンドロームと糖尿病(¥3,000)	2007年 11月6日 …27日 (全2回)			0名 (中止)		
	ソーラーカーの開発とエネルギー利用(¥1,000)	2007年 11月17日 (全1回)			申込2名		
	成長中国の実力を探る(¥8,000)	2007年 11月10日… 12月15日 (全6回)			申込4名		
	初歩から学ぶ Jw.cad(¥36,000)	2007年 11月2日… 12月14日 (全12回)			申込8名		
	パソコン講座 A,B(¥4,500)	2007年 11月8日 …29日 (4回)			0名 (中止)		

催 事	活動の意義と現状	開催時期	実施効果	実施費用	参加者と参加者数	教職員等の負担	今後の課題
建築・パソコン・CISSP など 全5講座 (エクス)	毎日学ぶネイティブ英会話(エクス)	2007年 6月28日 7月3日	△エクステンションセンターは、設立間もなく、その方針を手探りで定めつつある状態の開催であるため、これだけでの評価は難しい。 より効果の高い開催にするには、エクステンションセンターの方針や、生涯学習のプログラム構成の中での位置づけを明確にし、対象者のイメージを絞り込んだ募集や運営が望まれる。 その中での大学教員の果たす役割や、外部との連携において、工学院大学のブランドをどのように生かすかについても考慮することが望ましい。		22名		
	2級建築士試験(学科)講座	2007年 2月3日… 6月29日			28名		
	CISSP 資格取得講座	2007年 10月1日… 12月15日			9名		
	GIS・GPS の実用的利用	2008年 3月1日… 3月22日			0名 (中止)		
	工手学校出身の世界的映画監督 成瀬巳喜男の世界	2007年 1月12日			19名		
セキュリティシステム設計技術者の育成シンポジウム (CPD)	○プログラム最終年度にあたり、成果発表会のシンポジウムを開催した。	2007年 12月15日	○以下の観点からの報告がなされた。 ・セキュリティシステム設計技術者育成の方針と実施結果 ・PBLを中心とした実践型教育 ・セキュリティシステム設計技術者への期待 プロセスの改善やその成果などに高い評価を得た。		100名強		
Enric Ruiz Geli / CLOUD 9 講演会 (建築学科)	○「ヨーロッパ・アジア・パシフィック 建築の潮流 2006-2007」関連企画	2007年 5月10日	○最新のテクノロジーを駆使しつつ建築の枠を超えた新しい試みに挑戦し続けているスペインの若手建築家の講演		300名		
建築設計優秀作品展 (建築都市デザイン学科)	○卒業計画・卒業設計・修士研究プロジェクトの優秀作品の展示。	2007年 8月2日～ 5日	○学内外に本学の設計教育の到達点を示すことにより、後輩学生には動機づけとなり、見にこられる一般の方々には本学をアピールする良い機会となっている。	C	417名	教員1名。 担当教員の研究室の院生・学生が手伝う。	展示会場を建築設計室から他のもっと適した展示スペースへの変更。既卒者の作品の保管や運搬などの課題が残されている。
現代GP特別講演会 (GE学部)	○「Global Engineering」	2007年 6月15日	○学生が110名、父母が10名参加 グローバルエンジニアに求められる能力を考察し、Harvey Mudd College および工学院大学での教育の取り組みについて紹介する意義のある講演会		120名	教員12名 職員1名	
家主説明会 (八王子学生課)	○八王子校舎開設直後は学寮もなく、アパートも少なかったため、学生たちにアパートの紹介を始めた。その当時から貸室を提供いただいた家主さんたちを集めて説明会を開催するようになった。	2007年 11月10日	○家主さんの顔が見えた貸室を大学が学生に提供できている。 比較的家賃が安い物件を探すことができてよかったという反応を得ている。	C	約100名		家主さんの提供する物件が古くなってきている。家主さんの高齢化、代替わりの時期に来ている。

催 事	活動の意義と現状	開催時期	実施効果	実施費用	参加者と参加者数	教職員等の負担	今後の課題
地震防災訓練(総務課)	○超高層ビル初の試みとして大規模発災対応型防災訓練を実施	2007年 12月6日	○超高層ビルでの大規模な発災対応型防災訓練は初めての試みで、NHKニュースに放映されるなど大きな反響があった。今後は、訓練結果の分析とマニュアル整備や対応組織体制の改善などに取り組む。		教職員 学生 約1,000名		
地域交流シンポジウム	○「大学はいかに地域に貢献できるかその方策を探る」基調講演とパネル(無料)	2008年 1月17日	○産学公連携についての工学院大学のスタンスを示し、八王子市における工学院大学の存在感を高め維持し、一定の成果を上げている。地元のニーズを聞く機会として有益であった。		155名		科学計測・分析装置等については、工学院大学は設備面で充実しており、例えばセンター化して技官を置くなど体制を整えれば、材料分析などの地元のニーズにこたえることが可能となり、大学の研究との両立および予算の有効利用の道も開けてくると考えられる。

○おおむね機能している △機能しているが課題あり □対策が必要

大学が社会貢献として一般社会に提供する催事は、おおむね成果を上げていると評価することができる。しかし、催事の目的や性格により、課題が残されているのも事実である。以下、催事の種類ごとに現状と課題を総括する。

1) 大学の持つ知識を広く一般に提供する催事

創立記念日シンポジウムなどがこれにあたる。工学院大学にふさわしい発信ができていと総括する一方で、一般の人が工学院大学に抱いているイメージや期待とのマッチングが、どうであるのかの視点からも検討が必要であろう。今後さらに集客力が高まる工夫が望まれる分野である。

2) 先端的、専門的知識を提供する催事

工学院大学が得意とする分野の先端的、専門的知識を、機会をとらえて、専門分野に興味を持つ一般の人たちに提供する催事で、技術士関連の講演会や、知財シンポジウム、建築関連の講演会や作品展などがこれにあたる。工学院大学らしい催事が開催できていると考えるが、この催事に参加したいと考える見込み聴衆層へのアプローチを的確に行わなければ、せっかくの催事の効果が発揮できないという悩みがある。催事の企画時に、テーマの設定とあわせて、それに興味を持つであろう聴衆層の特定や有効なアプローチの検討などをより効果的に行う工夫が求められる。

3) 社会人等への教育機会を提供する催事

エクステンションセンターの催事がこれに当たる。エクステンションセンター開設記念講演会は、センターのお披露目として大きな効果を発揮したが、今後どのような層にどのような教育機会を提供するかの方針と、大学が果たす役割について、整合を図りながら進めていく必要がある。セキュアシステム設計技術者育成シンポジウムは、成果発表会としての意味付けも明確で高い評価を得ている。

4) 地域交流等を狙いとする催事および特定の目的の催事

この種類の催事は、目的が明確であり、活動の現状は的確で実施効果が高いと言える。地域交流においては、大学の基本的なスタンスに沿った催事の開催という視点から、大学としての基本スタンスをどう定めるかが、今後の大きな課題である。なお、地震防災を中心とした学生支援G Pが平成20年度より採択された。今後の取り組みが期待される。

(担当：大木委員)

4.7 就職系／学内および学外

催 事	活動の意義と現状	開催時期	実施効果	実施費用	参加者と参加者数	教職員等の負担	今後の課題
JOB 懇談会	○個別企業と希望学生との面談	○2007年 4月16日～ 6月13日	○同一日に複数企業と個人面談が可能のため好評。	C	○100名 企業18社	○就職支援センター職員のみ	
公務員ガイド ンス	○公務員試験の流れ、試験日程の概要説明	△2007年 4月19日 26日	○公務員試験の流れや日程についての概要説明。	C	○83名	○就職支援センター職員のみ	合格のための心構え・準備内容も追加する。
公務員プレ講 座	○公務員試験の面接対策や問題傾向の解説	○2007年 5月11日～ 7月6日	○面接対策や問題傾向を教えているため好評。		○70名	○就職支援センター職員のみ	授業時間を増やすことを検討
就職活動報告 会	○前年度の就職状況の解説	△2007年 5月30日 31日	○昨年の就職状況等のデータやアンケート内容を公開しているため学生には好評である。	C	○309名	○就職支援センター職員のみ	開催時期を毎年変動する求人時期に合わせる。
キャリアデザイ ン講座(八王 子)	○企業人、本学OBによるキャリアデザイン講座	△2007年 5月30日～ 11月28日	○様々な企業の人やOBから生の声を聞けることから学生の評価が高い。	C	○45名	○就職支援センター職員のみ	
面接小セミナ ー	○面接基本事項に関するセミナー	△2007年 6月16日	○面接の基本事項を説明しており内容的には学生評価も高い。		△12名	○就職支援センター職員のみ	同上、時期を早めれば参加者が増える可能性大
コンピテンシー 診断	○職業適正診断	○2007年 6月22日、 27日、 7月9日	○自身の特性や向いている職業の指針となる。	C	○516名	○就職支援センター職員のみ	開催時期を毎年変動する求人時期に合わせる
八王子合同企 業セミナー	○八王子校舎で開催する合同企業セミナー	△2007年 6月26日	○合同企業セミナーは新宿校舎中心で開催されるので、八王子校舎の学生にとっては貴重な機会。	C	○50名 企業33社	○就職支援センター職員のみ	開催回数を増やす。
就職スタートガ イダンス	○就職活動の進め方、基本知識のガイダンス	○2007年 7月7日、 27日	○就職活動の流れや概要を知るには効果大。	C	○660名	○就職支援センター職員のみ	
公務員試験夏 季集中対策講 座	○公務員試験の実践的対策講座	○2007年 9月3日 ～7日	○参加者は少ないが、公務員希望の学生にとっては不可欠な講座。		△7名	○就職支援センター職員のみ	公務員試験の受験者を増やすための対策が必要。
コンピテンシー 解説	○コンピテンシー診断結果についての解説講座	△2007年 9月19日、 21日	△診断結果そのものが丁寧なので解説の効果は少ない。		○200名	○就職支援センター職員のみ	開催を求人時期に合わせることと内容の検討。
業界研究会	○各方面業界人との面談	○2007年 9月25日、 26日、27日	○様々な業界の人の生の声を聞けることから学生の評価が高い。	C	○127名	○就職支援センター職員のみ	
公務員試験対 策通年講座	○公務員試験の実践的対策講座	○2007年 9月25日～ 12月21日	○参加者は少ないが、公務員希望の学生にとっては不可欠な講座、受講料12,000円		△21名	○就職支援センター職員のみ	公務員試験の受験者を増やすための対策が必要。
筆記試験対策 講座(基礎編)	○基礎的な筆記試験の対策講座	○2007年 10月1日～ 3日	○参加者が多く、就職希望学生にとって不可欠な講座		○240名	○就職支援センター職員のみ	
環境ビジネス セミナー	○環境ビジネスと会社の選び方	○2007年 10月4日	○環境ビジネスだけでなく、会社の選び方まで解説。		○80名	○就職支援センター職員のみ	
企業研究会	○個別企業と希望学生との面談	2007年 10月5日～ 12月17日	○同一日に複数企業と個人面談可能なため好評	C	○1553名 企業32社	○就職支援センター職員のみ	

催 事	活動の意義と現状	開催時期	実施効果	実施費用	参加者と参加者数	教職員等の負担	今後の課題
履歴書・エントリーシート対策講座	○履歴書とエントリーシートの書き方対策講座	○2007年 10月29日、 11月2日、 15日	○履歴書の書き方中心の講座		○352名	○就職支援センター職員のみ	エントリーシートの時間配分
SPI・一般常識テスト	○SPI・一般常識の模擬試験	△2007年 10月6日、 13日、20日	○SPI・一般常識テストの対策をしていない学生には効果大。受験料一部大学負担	C	○188名	○就職支援センター職員のみ	開催日がすべて同じ曜日・時間であり要検討
就職ガイダンス・内定者懇談会	○内定学生からのアドバイス	△2007年 11月3日	○就職活動の生の声を聞けるため好評。	C	○97名	○就職支援センター職員のみ	開催時期を毎年変動する求人時期に合わせる
キャリアデザイン講座(新宿)	○企業人、本学OBによるキャリアデザイン講座	△2007年 11月3日、 12月7日、 14日	○様々な企業の人やOBから生の声を聞けることから学生の評価が高い。	C	△15名	○就職支援センター職員のみ	就職活動に直結した内容も考慮すべき。
就職活動マナー・面接対策講座	○就職活動全般のマナーと面接対策講座	△2007年 12月1日	○就職対策不足学生に効果がある。	C	○330名	○就職支援センター職員のみ	具体的体験談も含める。
産学懇談会	○次年度求人情報と当該年度採用実績、卒業生情報など意見交換	△2007年 12月5日	○例年、参加企業も多く、全学部学科の就職担当教員と交流をもてるので企業側の満足度も高い。	B	○370名	△教員77名 平日で八王子講義教員の負担大	スケジュール調整が厳しい就職委員の負担軽減
面接試験直前対策講座	○面接の基本と実践対策	△2008年 1月28日	○面接の基本から相手の見ているポイントまで解説し、学生の就職力アップに高い効果がある。	C	○250名	○同上	開催時期を毎年変動する求人時期に合わせる
合同企業セミナー	○同一日に複数企業のセミナーに参加可能	○2008年 1月30日、 2月2日、 14日、15日	○参加企業が多く、優良企業が多いため学生の満足度は高い。	B	○1,085名 参加企業数241社	○就職支援センター職員のみ	学生がより多くの企業を回れる仕組みを考える。
模擬面談会	○グループ面接と個人面接の対策	○2008年 2月8日～ 3月12日 (新宿8回) (八王子3回)	○グループ面接、個人面接共に対応してくれ、学生満足度は高い。	C	不明	○就職支援センター職員のみ	八王子校舎での開催増
エントリーシート直前対策講座	○エントリーシートの書き方の基本対策講座	△2008年 2月21日	○エントリーシート作成が苦手な学生に対する基本講座	C	○350名	○就職支援センター職員のみ	添削結果の返却期日の短縮。
春季公務員集中講座	○公務員試験の対策集中講座	○2008年 2月25日～ 28日	○公務員希望学生にとって不可欠な講座、受講料14,600円		不明	○就職支援センター職員のみ	公務員試験受験者増加対策
教員採用試験オリエンテーション	○3年生対象に教員採用試験の説明と懇談会	2007年 12月上旬	○教員採用試験合格者の先輩の話が聞けるので好評。	C	○約40名 (年によって波があり、前年度は約80名)	○教職担当教職員	

○おおむね機能している △機能しているが課題あり □対策が必要

就職関連全般の今後の課題

就職系の行事は、近年の社会、文化、そして経済などのグローバル化の進展による社会環境の変化に対応できるように、従来の単なる就職先の斡旋という形ではなく、教育の一環としての行事という面が強くなり、年間を通じて全ての学年の学生を対象とす

るようになってきた。そのために、就職系の行事は質・量ともに年々向上しつつあり、これらの行事を支える就職支援センターの努力は高く評価される。今後の課題としては、以下の項目について検討することにより、更なる発展が期待される。

- ・八王子キャンパスに卒論生の半分以上が通学している現状を考えれば、新宿で開催される就職関連行事に量・質ともに近づけるべきである。
- ・就職を対象とする業界の幅を広げるべきである。
- ・1、2年生対象の就職関連行事を開催する。
- ・就職活動の早期化により、社会人になるというイメージができていないまま就職活動をしている学生が見受けられるので、少なくとも2年次から進路について考える機会を設ける必要がある。
- ・会場の大きさの制約から合同企業セミナーのブースの設置数が物理的に少ないので、開催日数を増やしたり、参加希望企業を原則として全て受け入れるなどの対応が必要ではないか。合同企業セミナーの開催日数を増やすことが困難ならば、午前と午後に分けることも考えられる。
- ・各就職関連行事の目的を学生にわかりやすく伝える工夫が必要である。わかりやすくしないと理解できない学生もいるようである。
- ・学生参加数が少ない催事については、理由を分析して、取りやめる可能性も検討すべきである。
- ・就職に消極的な学生への対策として、各学科とのさらなる協力体制づくりを検討すべきである。例えば、学科ガイダンスを利用した就職ガイダンスなど。
- ・全学で2年後期にキャリア教育科目が実施されるようになったので、これまでに行われていた就職関連の対策講座などを当該科目に取り込むことにより、対策講座を整理することを検討してよいのではないか。
- ・各就職関連行事については、本学の就職実績に対応した内容で行われているかどうか毎年確認し、行事の内容に反映させていくべきである。
- ・教員採用関連の行事としては、教員採用試験オリエンテーションを開催しているが、教職採用状況は非常勤講師等の経験者に有利になっているので新卒での採用は極めて難しいのが現状である。科目等履修生や教職特別課程生の採用が多く、毎年約30名(専任・非常勤)程度の採用実績である。
- ・学芸員資格取得者の就職指導については、募集そのものが少ない状況で、行事としてではなく、個別指導で対応している。

(担当：八戸委員)

4.8 後援会およびOB対象

[後援会関連のイベント]

催事	活動の意義と現状	開催時期	開催回数 (年当たり)	実施効果	実施費用	参加者と参加者数	教職員等の負担 (人・日)	今後の課題
入学式後の父母説明会	○入学式後会場(体育館)で父母に後援会活動の現状を示した後、各支部に分かれて次期代議員候補者選を兼ね説明を行う。懇親会は無い。	4月1日	1	○	C	○約1,000名	○教員10名 職員5名	
父母懇談会	○全国21支部が現地で支部総会、父母懇談会(全体会、個別面談)、懇親会を教員交えて開催する。後援会の主要な活動項目である。	5月25日 ～ 7月19日 (土、日)	21	○	A	○840名 (会員)	△教員307名 職員31名	
定期総会	○後援会の今年度事業報告、次年度役員改選、次年度活動計画等の審議・承認。懇親会開催。必要なセレモニー。	5月17日	1	○	B	○約230名	○教員20名 職員4名	
支部活動	○各支部(主に東京、千葉、埼玉、神奈川の四支部)が会員の研修と親睦を兼ねて見学会、講演会等の行事を行う。ほとんどの行事に、教員(幹事会又は横山学長補佐)1～2名が同行している。	8月～3月 (土、日)	23	○	B	○670名	○教員29名 職員2名	
キャンパス見学会	○新宿校舎と八王子校舎を教員の説明で見学する。一日に両校舎同時に開催。懇親会開催。ご父母へのサービスとして必要と思われる。	10月4日、 11日	4	○	B	○531名	○教員60名 職員6名	
本部役員研修会	○本部役員(26名)、幹事会(9名)、事務員(2名)が懇親をかねて一泊研修する。新人の後援会本部役員の活動の出発点となっている。	10月25日 26日	1	○	B	○38 (人・日)	○教員12名 職員7名	
全国支部長会議	○全国21支部長、本部役員による後援会活動報告・審議。懇親会開催。	11月15日	1	△	B	○68名	○教員13名 職員3名	
就職に関する懇談会	△就職について全体説明と各系列学科に分かれて説明・質疑応答。懇親会は無い。(キャンパス見学会に含む)	2月16日	1	△ご父母はある程度満足しているようだ。		○396名 (父母)	○教員30名 職員2名	資料の準備は担当者任せになっており、組織的な援助が必要。
備考					総額A	会員数 6,538名		

○おおむね機能している △機能しているが課題あり □対策が必要

本学の後援会活動は、大学と父母との情報交換の場、コミュニケーションの場であり、大学と父母をつなぐ重要な催事である。後援会関連の多くの催事は、父母が主体となって活発な活動を行っており、自主的に運営されている。このような後援会活動は、他の大学には見られないユニークなものであり、本学の後援会活動の特徴である。

通常の活動には、大学側からの参加者は、役職幹事2名および学科系列幹事7名と数名の職員が参加しているが、父母懇談会、キャンパス見学会、就職に関する懇談会は特別なイベントで有り、教職員の参加が多いのが特徴である。特に、父母懇談会は、

後援会活動の主たるイベントで、最も重要な行事であり、他大学には見られない、本学の後援会活動の特徴である。多くの教職員が5月下旬から7月下旬まで、土曜日と日曜日に日本全国の21支部におもむき、懇談会に参加している。この父母懇談会への延べ動員数は、教員307人、職員31人と、他の行事に比べて飛びぬけて多くなっており、授業期間中における父母懇談会への出席は、教員や職員にとっての負担は少なくないと思われる。教員や職員のロードの低減のための何らかの取り組みが必要と考えられる。

【OB関連のイベント】

催事	活動の意義と現状	開催時期	実施効果	実施費用	参加者と参加者数	教職員等の負担	今後の課題
ホームカミングデー	○ホームカミングデーは、学園各学校の卒業生に、学園の現状を直接ご覧いただき、懐かしい恩師や学友との再会と交流・親睦を深めていただくために、平成13年から開催されている。	2007年 11月3日	○毎年、約250名の参加者があり盛大に行われている。懇親会では、懐かしい同窓生や恩師との再会等、卒業生の楽しい歓談風景が随所に見られ、コミュニケーション、情報交換の場として成功していると思われる。	B	○招待年次の卒業生、全国各地の中学校・高等学校で教員をされている卒業生、校友会関係者、学園各学校を退職された元教員など 250名	△この時期催事が多いことと、例年、文化の日の祭日開催であるため参加は教職員の負担になっていると思われる。	毎年、約250名の参加者があり盛大に行われている。祭日開催であるため学内の教員の参加が少ないように思える。この時期は催事が多いので、他の時期の開催も検討してみよう。

○おおむね機能している △機能しているが課題あり □対策が必要

ホームカミングデーは、学園各学校の卒業生に、学園の現状を直接ご覧いただき、懐かしい恩師や学友との再会と交流・親睦を深めていただくために、平成13年から開催されている催事である。毎年、約250名の参加者があり、盛大に行われている。開催日は11月3日の文化の日である。この時期、創立記念日などの催事が集中していること、また、祭日開催であるため学内の教員の参加が少ないようにも思える。ホームカミングデーはOBと教員との親交を深める重要な催事であり、多くの教員に参加していただくことが必要と思われるので、催事が多いこの時期を避け、他の時期の開催も検討してみよう。

(担当：長島委員)

5. まとめ

第8期自己評価運営委員会では、三浦宏文学長から『大学関連各種催事の評価』を検討課題とする諮問を受け、本学が行っている催事活動について、総合的に点検・評価するとともに、より効果的な催事のあり方を模索し、提言することにした。本委員会は、まず、催事の現状を調べる目的で、2007（平成19）年度の大学・法人の各部門の催事についてアンケートを実施した。これらのアンケート結果をまとめて、「2007年度催事一覧表」を作成し、催事一覧表をもとに催事の分類を行い、「2007催事分類一覧表」を作成し、各種催事について点検・評価項目を

- 1) 活動の意義と現状
- 2) 開催時期
- 3) 実施効果
- 4) 実施費用
- 5) 参加者と参加者数
- 6) 教職員等の負担
- 7) 今後の課題

の7項目に定めて、具体的な点検・評価作業を遂行した。なお、個々の催事に対する点検・評価の詳細については、第4章に詳しく記載した。本章では、点検・評価項目別に催事の評価結果のあらましをまとめ、次いで催事活動について提言する。

5.1 点検・評価結果

4章において行った8つの分野の催事活動の評価結果について、評価の全体像をつかむためにまとめたものが表5.1である。この表をベースにして、7つの評価視点からのまとめについて次項で述べる。ただし、各評価視点における評価結果には、○、△、□の付いていない未評価の催事があるので、その催事数は除外して議論する。

なお、本委員会としては、個々の催事に対してその存否等を判断する立場にはない。それぞれの催事を主管する部門等、適切な形で具体的な評価、検討を行うことをお願いしたい。

表 5.1 催事活動の評価結果

	評 価 催 事 数	活動の意義と 現状			開催時期			実施効果			実施費用			参加者と 参加者数			教職員等の負担			今後の課題		
		○	△	□	○	△	□	○	△	□	○	△	□	○	△	□	○	△	□	○	△	□
入学系/学外	13	5	0	0	-	-	-	11	0	0	-	-	-	-	-	-	1	1	0	-	-	-
入学系/学内	15	8	0	0	-	-	-	12	1	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
教育系/学外	13	12	0	0	-	-	-	7	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
教育系および 研究系/学内	40	35	3	0	37	0	0	25	1	0	-	-	-	31	7	0	28	7	0	5	9	0
研究系/学外	8	7	0	0	-	-	-	3	1	0	-	-	-	3	1	0	-	-	-	-	-	-
一般系/学外	24	13	0	0	-	-	-	11	11	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	1	0
就職系/ 学内および学外	28	28	0	0	13	13	0	27	1	0	-	-	-	22	4	0	27	1	0	-	-	-
後援会 および OB 対象	9	8	1	0	-	-	-	7	2	0	-	-	-	9	0	0	7	2	0	-	-	-

5.1.1 活動の意義と現状

本学で行っている催事は教育、研究、学生募集および広報、社会貢献など、本学の幅広い活動の成果として行われるとともに、それらの活動を具体的に示すものでもある。非常に多彩な催事が行われており、基本的な目標を達成しているといえる。反面、教職員の負担とその片寄り、対費用効果、催事の集中など、今後検討していくべき課題も明らかになった。それを次に分野別に述べる。

○ 入学系／学外（受験生および高校向け）

オープンキャンパス、入学前教育、高校教員対象進学懇談会、高校訪問など、受験生や高校向けの入学系の13の催事について点検・評価を実施した結果、5つの催事が○印、つまり39%が概ね機能しているという評価になった。△および□は0という結果になった。すなわち、受験生が減少している厳しい社会状況において、これらの催事は、志願者、入学者の確保するための重要な催事であり、いくつかの課題は残されているものの、継続あるいは拡大していくと考えられる。

○ 入学系／学内（新入生向け）

新入生向けの15の催事について点検・評価を実施した結果、○は53%、△および□は0という結果となった。これらの催事は、新1年生に対して毎年行われている各種オリエンテーションが主であり、必須の催事である。新入生ガイダンスは、学科によっては個人面談や基礎学力調査などが行われようになり、生活面のアドバイスなど学生一人一人への対応や、入試の多様化による学生のレベルの調査に力点が置かれる傾向にある。2007年度からはオリエンテーションキャンプが行われるようになったが、新入生の評価も高く、概ね好評であり、成功していると思われる。

○ 教育系／学外

大学の社会貢献活動としての教育系催事と、学内の教育活動の中で一般参加も可能な13の催事について点検・評価を実施した結果、○は92%、△および□は0となった。これらの催事は、全体として活発に行われており、当初の目標をおおむね達成していると評価された。しかし、催事の内容や成果を外部に発信することについては必ずしも積極的とはいえず、広報活動を積極的に進める必要があるとの課題も指摘された。

○ 教育系および研究系／学内

学内向け教育系および研究系の催事は、教育上の催事10、懇談系催事3、学生対象サービス系催事21、学生主体の催事6、と多岐にわたり、全40の催事について点検・評価が行われ、○は88%、△は8%、□は0という結果になった。幾つかの検討課題はあるものの、多くの催事はおおむね機能していると評価された。なお、学生支援系の催事は、学生の学力と学習意欲の低下に伴い、講義履修に関するガイダンスや学生との面談の機会は増え続ける傾向にあり、学生の満足度を高める努力は今後とも継続すべきであろう。

○ 研究系／学外

学外向け研究系催事は、8つの催事について点検・評価を実施した結果、○は88%、△および□は0という結果となり、ほとんどの催事がおおむね機能しているという

評価が得られた。研究成果報告会は、研究センターにおける1年間の成果報告会という形で行われており、参加者は、教員、学生、共同研究者や企業関係者であるが、報告会によっては、外部からの参加者の多いものと少ないものがある。ちらしやポスターを作成し、参加を呼びかけてはいるが、さらにアピールすることが期待される。

○ 一般系／学外

大学が社会貢献として一般社会に提供する24の催事について、○は54%、△および□は0という評価となった。約半数の催事はおおむね機能していると評価されたが、催事の目的や性格により、課題が残されているのも事実であり、本学の情報を学外に向けて的確に発信できているのか、催事に参加したいと考えている「見込み聴取層」への的確なアプローチがなされているのかなど、催事の対象により4つの課題が指摘された。

○ 就職系／学内および学外

就職系の催事は、28の催事について点検・評価を行った結果、○は100%、△および□は0という評価となった。就職系の催事は、その必要性が認識され、全てがおおむね機能しているという評価となった。これらの催事は、学生の就職活動の支援という目的で行われており、必須のイベントであり、年々増加する傾向にある。さらに、最近では、教育の一環としての催事という面が強くなり、年間を通じて全学年の学生を対象とするようになってきている。とくに、八王子キャンパスに卒論生の半分以上が通学している現状を考えれば、八王子における就職関連催事の充実ということは、対応していかなければならない課題である。

○ 後援会およびOB対象

後援会関連の8つの催事とOB対象の1つ、合計9の催事についての点検・評価は、○は89%、△は11%、□は0という評価となり、就職に関する懇談会を除けば、ほとんどの催事は、おおむね機能しているという評価が得られた。後援会関連の多くの催事は、父母が主体となって運営されているが、その中でも、「父母懇談会」、「キャンパス見学会」、「就職に関する懇談会」は教職員の参加の多いことが特徴である。とくに、父母懇談会は、後援会活動の最も重要な催事であるため、多くの教職員が参加しており、教職員の負担の低減が課題となっている。

5.1.2 開催時期

「2007年度催事一覧表」(付録4)を基に、2007年度の各月別の法人、大学、学部・学科における催事の開催月ごとの催事数を表したグラフが図5-1である。法人の月別の催事数は、年度初めは催事が少なく、10月、11月、12月に増加する傾向がある。また、大学の授業期間の終わった1月、2月、3月において、7～10の催事数を示しているのは、この時期にフレンドシップが行われていたためである。

大学の月別催事数は、年度始めの4月が最も多く、5月、6月、7月が増加傾向であるのと、10月、11月に催事が多くなる傾向が見られる。

学部・学科の月別催事数は、4月に新入生対象の催事が集中するため最も多くなっている。また、法人や大学が、夏休み期間や春休み期間に催事が減少する傾向があるのに対し、学部・学科は年間を通してコンスタントに催事が行われているのが特徴である。

法人、大学、学部・学科を含めた全体の催事数で見ると、入学関連の催事が集中している4月が1番大きなピークを示している。2番目のピークは11月になっているが、これは、法人は出張講座、大学は創立記念日関連の催事、理科論文、学園祭などが行われていることと、学部・学科ではオープンキャンパス、卒論中間審査など、恒例の秋の行事が集中しているためである。3番目のピークは7月であるが、これは、法人は6月から続くフレンドシップ、大学は5月からはじまる父母懇談会、学部・学科ではオープンキャンパスや工場見学など、夏休みを前にして、いわば駆け込み的に催事が行われており、これらがこの時期に重なっているためである。

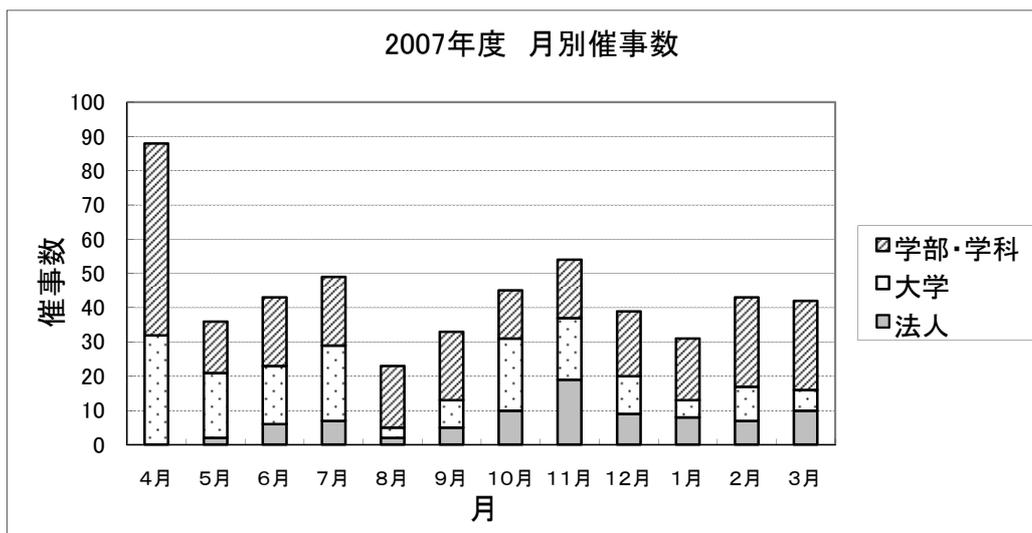


図5-1 法人、大学、学部・学科の各月別の催事数（2007年度）

5.1.3 実施効果

これまで8つの分野について点検・評価を行ってきたが、本学の催事の実施効果についての概要を把握し、比較するために8分野を以下に示す大きな3つの分野に分けた。

- ・ **入学系*** : 入学系／学外、入学系／学内
- ・ **教育・研究系*** : 教育系／学外、教育系および研究系／学内、研究系／学外
- ・ **一般系*** : 一般系／学外、就職系／学内および学外、後援会およびOB対象

表 5.1 をもとに、実施効果について算出した結果、○印（概ね機能している）の評価は、**入学系***は82%、**教育・研究系***は57%、**一般系***は74%となった。このことから、入学系催事の多くは実施効果があると評価されていることが分かる。ただし、**教育・研究系***および**一般系***については、未評価の催事が多く含まれているため、同列で評価することは難しいと思われる。

なお、4.4 教育系および研究系／学内【教育上の催事】において、ほとんどの催事は実施効果があるという評価を受けたが、「2・3・4年生ガイダンスおよび面談」の実施効果については分析を必要とするとの評価となった。

5.1.4 実施費用

高校生を対象とした入学系においては、オープンキャンパスが最も費用が掛かっている。その他に、新宿・八王子体験ツアー、入学前教育関連にも費用がかさんでいる。

教育系／学外では、フレンドシップ、出張授業、出張理科教室の費用が多いが、「大学の先生と楽しむ理科教室」が約3,000万円と最も多い。なお、「理科教室」は、文部科学省のGPとして採択されたものであり、今後の予算措置が必要である。

教育系および研究系／学内は、学内の行事が主であるため、リーダーズキャンプに多少の実施費用がかかるのを除けば、他の催事にはほとんど費用は掛かっていない。

研究系／学外は、国際シンポジウムを除けば、実施のための費用は多くない。

一般系／学外においては、幾つかのシンポジウムにおいて費用の掛かっているものはあるが、公開講座については、参加費を徴収してはいるものの、申し込み数が少なく、採算が取れていないことが伺える。また、朝日カレッジとしては、生涯学習の対象者のニーズを把握し的確に対応することが必要であろう。

就職系については、キャリアデザイン講座やコンピテンシー診断などを除けば、ほとんど費用がかかっておらず、就職関係は催事の数が多い割には、実施費用が少ない。

後援会関連では、主たるイベントである父母懇談会の実施費用が最も多い。

5.1.5 参加者と参加者数

オープンキャンパスの参加者は、高校生とその保護者が4,312人、学内の教員460人、職員321人、学生1,447人と高校生向けの入学系イベントとしては最も参加者が多く、トップクラスの催事である。

「大学の先生と楽しむ理科教室」は、幼児・小学生・中学生ほか6,489人、学内の教員160人、職員450人、学生1,800人が参加する本学の大イベントになっている。

研究系／学外においては、研究者同士のつながりを利用してもっとアピールして参加者を増やすことも必要であろう。

一般系／学外の公開講座は有料のためか参加者が少ない。また、教育系における、学生対象の講習会の参加者が少なく、せっかくの機会が生かされていないので、参加者を増やすための対策が必要であろう。

5.1.6 教職員および学生の負担

オープンキャンパスは本学の広報活動の中でトップクラスの催事である。入学者の確保は大学にとって極めて重要であるため、年々、開催日数が拡大しており、今後、さらに拡大される傾向にあると考えられる。しかし、開催日数の拡大により、研究室の学生や教員に対する負担が増加している実態があり、最近では学生に協力を依頼する場面が多くなっており、教職員だけではなく学生の負担についても考える必要がある。

高校訪問の高校数は349校、参加人数は351名に及んでおり、高校訪問は、教職員の時間的負担、労力的負担は極めて高い催事となっている。

高校への講師派遣としてのフレンドシップ事業、教育委員会その他の要請に応じて本学教員を派遣する出張講座および出張理科教室は、本学教員の専門性を生かした特色ある活動であるが、年々増加する傾向にあり、教員の負担との関係で今後どの程度の規模にしていくか、大学として取り組む範囲を明確にしておく必要がある。また、やや実績のある教員に偏る傾向があり、負担の不公平感は否めない。

「大学の先生と楽しむ理科教室」は、本学独自の地域社会貢献のための催事であり、参加者約6,500名と全国に例を見ない大規模な催事となっている。また、教員160名、職員450名、学生1800名の協力によって支えられており、多くの学内構成員の参加によって成り立っているのも特徴である。「理科教室」の演示を支援するために参加している学生にとって、顕著な教育的効果があることも検証されているが、協力する教職員や学生の負担についても考える必要があり、とくに八王子校舎勤務の教職員へ負担が集中する傾向がある。

父母懇談会は、後援会活動の主たる催事で、最も重要な行事であり、多くの教職員が協力している。とくに、授業期間中における教員の父母懇談会への出席は、土曜日の授業や、学会活動と重なることも多く、面談担当教員の手配は年を追うごとに困難になりつつある。また、父母懇談会への出席は、事前準備や、事後の学生への対応な

ど、教育上必要なことではあるが、教員にとっての負担は少なくないと思われる。今後、大学後援会とも調整を図りながら、教職員の負担の低減に向けての取り組みが必要であろう。

5.1.7 今後の課題

オープンキャンパスの参加者のうち約23%が保護者であり、今後さらに増加することが予想される。せっかく来ていただいた保護者に対し、本学をアピールするような、保護者を対象とした企画も検討してみたいか。

高校訪問は、教職員の時間的負担、労力的負担は極めて高い催事となっている。高校訪問の効率的な実施とその効果を高めるためには、これまでに高校訪問により収集され、蓄積された多くのデータを有効に活用することが必要であろう。

入学系の催事において、対象が「受験生」、「高校教員」、「入学予定者」あるいは「学外」か「学内」かによって、催事の担当部課が異なっている。どの催事を担当するかは、部課の業務内容とも関係し、業務分担の平準化の結果とも考えられるが、担当部課の統一、あるいは連携により、さらなる効率化が可能になると思われるので、見直しをお願いしたい。

一般・社会向け教育系の課題については、催事の内容や成果を外部に発信することについては必ずしも積極的ではないので、HP および印刷物などでの広報活動とともに、ビデオなどの映像による広報活動を積極的に進める必要がある。

就職系においては、就職関連のイベントが教育の一環であるとの傾向が強くなり、年間を通じて全ての学年の学生を対象とするようになってきている。八王子キャンパスに卒論生の半分以上が通学している現状を考えれば、1,2年生対象の催事も含めて、八王子における就職関連行事の充実に向けて、対応していくことが必要であろう。

後援会関連では、父母懇談会は、後援会活動の最も重要な催事である。多くの教職員が参加しており、授業期間中における父母懇談会への出席については、5.1.6「教職員および学生の負担」でも述べたように、教職員の負荷の低減のための取り組みが今後の課題であろう。

なお、第12回運営委員会において、学内の複数の事務部門に対し、効率的な催事の実施に向けて、催事の共催や統合などについて提案していただくよう、アンケート(付録7)を行うことを決定し、実施した。しかし、データ不足のため全体の方向性をまとめるまでには至らなかった。

5.2 催事活動についての提言

本運営委員会は、今期の催事活動についての点検・評価を通して、本学の催事活動の現状を調査し、催事の見直しを行った。その結果、本学で行われている催事の開催時期や相互の関連など、広い視野でその全体像を初めて明らかにすることができたと考えている。しかし、より一層の工夫や改善、いわゆる効率的・効果的な催事活動のためには、まだまだ多くの課題を残しており、ようやく催事全体の開催状況を見ながら改善の検討を始めるための条件が整った段階であると認識している。そこで、検討課題として今後の催事活動の更なる効果的な実施にむけて、次の5つの提言を行う。

1) 4月および10、11月の催事集中の緩和

4月の入学時期に催事が集中している要因は、恒例の大学事務、共通課程、各学科などの様々なオリエンテーションやガイダンスがこの時期に行われているためであるが、これらの催事は、新入生のための必須の行事であり、この時期だからこそ必要であり、集中するからといって他の時期に開催することはできない催事である。また、学生にとっては、たくさんのオリエンテーションやガイダンスを短期間に受けるため、消化不良になりやすいのが現状であろう。したがって、オリエンテーションの内容をCDなどにまとめたものを入学前に学生に配布しておき、入学後のオリエンテーションは要点だけを話すというのも一つの方法であろう。また、4月の入学時期の催事を減らすためには、大学事務部門と各学科が協力し、催事の統合や共催など効率化に向けて話し合い、検討する場が必要であろう。

10、11月の催事については、他の時期に開催しても差し支えない催事は、催事の少ない時期に移動し、開催時期を分散することにより、催事の集中を緩和することが可能であろう。特に、創立記念日、理科論文発表会、ホームカミングデーが続く10月下旬から11月上旬にかけては、催事の集中する時期であり、この時期の催事を分散させる取り組みが必要であろう。

2) 受験生対象の対外的催事

フレンドシップ、出張講座、高校訪問など、受験生・高校生や高校を対象とした催事の急激な増加が目立っている。昨今の受験事情から、受験生の獲得という事情もあり、やむ負えない面はあるが、人的資源は有限であり、公平な負担、担当する部課の統一など、効率的な運営が望まれるところである。

3) 学園祭と他の行事の共催

学生主催の行事として、八王子祭、新宿祭などの学園祭がある。これらは学生行事であるので、学生の主体性を大切にすることが重要である。本学の学園祭は、年々参加者が増加してはいるものの、校舎が新宿と八王子に分かれているという地理的条件もあり、運営の難しさもあるが、学生が主体となって毎年行われていることは評価できる。

他大学の例では、学園祭においてオープンキャンパスを開催したり、父母を対象とした後援会行事や、卒業生を対象としたホームカミングデーを実施しているところもある。学園祭に高校生、父母、卒業生が参加することによって、学園祭と他の催事の相互作用により、お互いの活性化をはかることもできる。本学においても、学生団体との調整を図りながら、学園祭と他の催事の共催について検討してみてはいかがだろうか。

4) 教職員および学生の負担の低減

学生や教員に対する負担が増加している実態がある。最近、各種の催事において教職員だけではなく、学生に協力を依頼する機会が多くなっており、学生の負担についても考える必要がある。催事が学生に与える教育的効果も検証されてはいるが、学生の学習や研究の時間を狭めていることも事実である。協力する教職員の負担については、特定の部門、特定の人員などに偏らないよう、負担の公平化について全学的に取り組むことが必要であろう。

5) 実施効果の検討

催事を実施した後、それによる効果の有無、効果の程度、費用対効果など、実施効果についてはほとんど分析されていないのが現状である。実施してもあまり効果のない催事は縮小、統合、取りやめるなどの措置を検討すべきである。これにより、年々増え続ける催事に歯止めをかけることができ、教職員の負担の低減にもつながると思われる。

付 録

目 次

1. 学長諮問
2. 催事アンケート依頼文
3. 催事アンケート回答用紙
4. 2007年度 催事一覧表
5. 2007年度 催事分類一覧表
6. 第8期自己評価実施計画
7. 催事の効率的実施についてのアンケート
8. 自己評価運営委員会規程・自己評価に関する覚書
9. 第8期自己評価運営委員会の委員構成
10. 第8期自己評価運営委員会活動日誌

1. 学長諮問

平成 19 年 11 月 22 日

自己評価運営委員会委員長 殿

学長 三浦宏文

自己評価委員会の今期の課題に関する諮問

第 8 期自己評価委員会が活動を開始するに当たり、検討課題として、下記について諮問いたします。

記

検討課題： 大学関連各種催事の評価

理科教室、オープンキャンパス、創立記念日講演会、理科・科学論文、出張講座、フレンドシップ事業、産学懇談会、各種シンポジウム、公開講演会など大学各部署が主催あるいは参加する行事が、多数実施されている。これらはそれぞれの目的を持って設置されたもので、毎年、計画・実施されてきた。一方で、数多くの行事を実施する必要があることから、日程調整の複雑化や実施費用、教職員の負担増加も否めない。また、予算と実務担当部署が法人、大学に分かれている場合もある。そこで、各種催事についてその目的、実施状況、費用、効果について評価を行い、今後、より効果的な催事の計画・実施に向けての検討が必要と考えられる。

第 7 期の自己評価委員会においてもこれらの一部については、広報戦略の視点から「社会との連携と社会貢献」の課題で取り上げたが、第 8 期においては、学生募集、教育・研究成果、就職支援の公表などの視点から各種催事の目的、実施方法、効果について自己評価を行い、今後の実施体制、実施方法についての方向を示す必要がある。

以上

2. 催事アンケート依頼文

2007年12月26日

主任教授 各位

企画室、総務課、情報システム部、広報課、エクステンションセンター、技術者能力開発センター、八王子庶務課、学務課、新宿教務課、八王子教務課、大学院課、学生相談室、八王子学生課、大学後援会事務室、入学課、就職課、図書館管理課、図書館課、研究推進課、学習支援センター、国際交流センター 各位

自己評価運営委員長
後藤芳樹

年末も押し迫り、お忙しいところ申し訳ございませんが、自己評価運営委員会より自己評価運営委員会規程第8条5号に基づき、各学科、各センター、各部署においての2007年度の行事・催事についてのアンケートを別紙の添付ファイルのとおり、作成くださるようお願いいたします。

本委員会では、本年度の自己評価のテーマとして、大学関連各種行事・催事の評価について検討しており、その分析のためのアンケート調査になります。

大学のみならず、法人各部署にアンケート調査をお願いするのは、教員が法人の各種行事・催事にも携わることが多いため、委員会として大学のみならず学園全体の把握も必要とされるためです。何卒、ご理解・ご協力くださるようお願いいたします。

締切は、誠に申し訳ございませんが、1月17日（木）までをお願いいたします。

アンケートについて、ご不明な点がございましたら、事務局（学務課）までご連絡くださるようお願いいたします。

以上

3. 催事アンケート回答用紙

2007年度催事一覧(各学科、各部専用)

学科または所属部署名:

記入者名:

開催日	催事期間	催事および行事名	参加者数	予算額	実額金額	対象(対象者にCOをつけて下さい。複数選択の場合は、内記入欄をその上に記載)			協力機関		宣伝方法		準備期間	開催(協力)部署	その他、特記すべき事項
						学生	職員	一般	企業	父兄	教員	職員			
1															
2															
3															
4															
5															
6															
7															
8															
9															
10															
11															
12															
13															
14															
15															
16															
17															
18															
19															
20															
21															
22															
23															
24															
25															

注) 4月から開催開始にご記入ください。
催事かどうか判断に困るものについても、行事名だけでもご記入ください。

4. 2007年度催事一覧表

企画室	総務課	広報部広報課	人事課	エクステンションセンター	CPDセンター	八王子事務部庶務課	学務課	新卒教務課	八王子教務課	大学院課	学生課	学生部 ステューデントサポート室	八王子学生課
4月							4/1 第2部入学式 4/3 大学辞令交付式	4/13-14 履修登録 4/20-24 履修登録変更	4/1 大学入学式	4/5 大学院入学式	4/3 第2部事務系オリエンティング 4/3-5 定期健康診断 4/5 日本学生支援機構奨学金募集説明会(情報1年) 4/9 日本学生支援機構奨学金募集説明会(学部生) 4/11 日本学生支援機構奨学金募集説明会(大学院生) 4/28 学生の創造活動「春の応募プロジェクトのプレゼンテーション」	4/7-8 オリエンテーションキャンプ(機械システム工学科) 4/7-8 オリエンテーションキャンプ(応用化学科) 4/7-8 オリエンテーションキャンプ(マテリアル科学科) 4/14 オリエンテーションキャンプ(情報デザイン学科) 4/14-15 オリエンテーションキャンプ(機械工学科) 4/14-15 オリエンテーションキャンプ(環境化学工学科) 4/14-15 オリエンテーションキャンプ(情報通信工学科) 4/28 オリエンテーションキャンプ(建築系学科)	4/3 事務系オリエンテーション 4/3-5 新入生歓迎会 4/4 フレッシュマン講座 4/4-5 健康診断
5月	5/13 楽しみ科学教室	5/25 高校教員対象進学懇談会									5/12 第2部学生総会	5/12 オリエンテーションキャンプ(建築系学科) 5/12 オリエンテーションキャンプ(コンピュータ科学科) 5/12 オリエンテーションキャンプ(電気システム工学科) 5/28 オリエンテーションキャンプ(建築系学科)	5/19-20 プレ八王子祭 5/25 第1部学生総会
6月		6/15 フレンドシップ 神奈川県立横浜北高 6/23 新発見！オープンキャンパス 6/26 フレンドシップ 埼玉県立浦和東高 6/27 フレンドシップ 東京都私立保善高 6/28 フレンドシップ 都立新宿山校高		6/28, 7/3 毎日学ぶネイティブ英会話					6/4 大学院6月入試 6/25 大学院FDシンポジウム			6/2 オリエンテーションキャンプ(機械製造工学科)	
7月	7/6 暑期消防訓練 7/27 災害向上訓練	7/7 フレンドシップ 東京都私立大東文化第一高 7/19 フレンドシップ 都立杉並工業高 7/29-30 夏のオープンキャンパス(八王子)		7/8...9/9 建築士試験(製図)講座 7/23...8/6 パソコン講座			7/12-26 前期定期試験 7/27-8/26 夏期語学研修		7/7 大学院進学がテーマ(新宿)			7/10 オリエンテーションキャンプ参加上級生から意見を聴く会(八王子) 7/11 オリエンテーションキャンプ参加上級生から意見を聴く会(新宿)	
8月		8/4-5 夏のオープンキャンパス(新宿) 8/25-26 大学の先生と楽しむ「理科教室」											
9月	9/1 技術士CPD講座 9/22 デジタルアートコンテスト審査会	9/20 フレンドシップ 茨城県立総和高 9/26 新宿・八王子校舎体験学習ツアー		9/14 エクステンションセンター開校記念講演会						9/3 博士學位請求論文公開発表会 9/7 大学院9月入試 9/22 大学院進学がテーマ(八王子)			
10月	10/20 工学院大学技術士会講演会 10/27 サイエンス選考 昆虫ロボット	10/31 創立120周年記念表彰及び懇談会 10/10 フレンドシップ 都立青橋総合高 10/13 出張講座 日高市民会館 10/27-28 秋のオープンキャンパス 10/30 フレンドシップ 北海道函館市立函館高 10/31...11/21 出張講座 船橋教育委員会		10/1...12/10 CSSP資格取得のための講座		10/31 大学表彰式 10/26 理科学論文発表会 10/27 理科学論文発表会 10/29 FDSシンポジウム			10/11 日本学生支援機構奨学金大学院予約採用説明会 10/19 学生の創造活動「秋の応募プロジェクトのプレゼンテーション」 10/22 大学院進学優秀学生ならびに大学成績優秀学生表彰式 10/31 大学入試試験成績優秀者特別奨学金受給者と学長との懇談会	10/27 体育祭 10/27-28 八王子祭			
11月	11/22 工学院大学技術士会講演会	11/3 ホームカミングデー 11/6 フレンドシップ 青武高 11/8 フレンドシップ 都立葛飾野高 11/9 フレンドシップ 山梨県身延高 11/12 フレンドシップ 山梨県甲府東高 11/16 フレンドシップ 都立葛飾野高 11/17 出張講座 横須賀市北下浦公民館 11/21 フレンドシップ 千葉県立小金高 11/28 フレンドシップ 千葉県立四街道高 11/29 フレンドシップ 埼玉県立大宮光陵高 11/29 フレンドシップ 都立成城高		11/2...12/14 初夢から学ぶJw_cad 11/6...11/13 パソコン講座 11/8...11/27 公開講座 メタリックシンドロームと糖質制限 11/7 公開講座 ソーラーカーの開発とエネルギー利用 11/8...11/29 公開講座 物質と宇宙の発祥を探る 11/10...12/15 公開講座 成長中国の実像を探る		11/13 八王子校舎消防訓練 11/19 FDSシンポジウム 11/21 インタビュー成果発表会		11/22-24 新宿祭 11/28 日本学生支援機構奨学金返還説明会		11/10 家主説明会			
12月	12/8 知財シンポジウム(第5回)	12/1 出張理科教室(福島県石町) 12/13 フレンドシップ 聖パウロ学園高 12/14 フレンドシップ 東京電機大学高 12/15 フレンドシップ 桐蔭学園高 12/18-21 フレンドシップ 都立科学技術高 12/20 フレンドシップ 神奈川県立鶴岡高		12/15 「e-キャッシュシステム設計技術者の育成」シンポジウム		12/25 金刀比羅祭礼 1/7 八王子校舎新年会		12/17 大学院FDシンポジウム 12/20 博士學位請求論文公開発表会	12/9 リーダーズキャンプ				
1月	1/17 地域交流シンポジウム	1/7 新年会 1/21 フレンドシップ 埼玉県立草加高 1/24 フレンドシップ 府模学院高 1/25 フレンドシップ 茨城県立江戸崎総合高 1/31 出張講座 いかがい大学東松山学園		1/12 公開講座 工科大学出身の世界的映画監督 成瀬巳喜男の世界		1/7 八王子校舎新年会		1/26 博士學位請求論文公開発表会					
2月		2/6 フレンドシップ 明善高 2/13 フレンドシップ 八千代松陵高 2/13 フレンドシップ 埼玉県立大宮武蔵野高 2/14 フレンドシップ 埼玉県川口市立川口高 2/16 フレンドシップ 小野学園女子高 2/20 フレンドシップ 都立深川高 2/21 フレンドシップ 埼玉県立岩槻高				2/25-27 入学前教育ステージ		1/26, 2/7, 2/9, 2/22, 2/23 博士學位請求論文公開発表会 2/23 大学院2月入試 2/27 大学院生優秀論文発表会					
3月		3/9 出張講座 八王子学園都市文化ふれあい劇団 3/12 フレンドシップ 都立源江高 3/13 フレンドシップ 都立板橋高 3/17 フレンドシップ 埼玉県立浦和東高 3/17 フレンドシップ 都立田無工業高 3/26 春休み学習体験(新宿) 3/27 春休み学習体験(八王子)		3/31 退職慰労会 3/1...3/22 公開講座 GIS-GPSの実用的利用		3/15 西東京バスとの懇談会 3/19 学位授与式							

	大学後援会	アドミッションセンター入学課	就職支援センター	学習支援センター	国際交流センター	総合研究所	図書館	情報科学研究教育センター
4月	4/1 入学式後の父母説明会		4/19.26 公務員ガイダンス 4/16...6/13 JOB懇談会	4/2 新入生向けオリエンテーション(八王子) 4/2 新入生向けオリエンテーション(新宿) 4/19 学習支援センター利用説明会(八王子) 4/13 学習支援センター利用説明会(新宿)			図書館ツアー	
5月	5/19 大学後援会 定期総会 5/27 父母懇談会(長野支部)	5/11 付属高校生徒対象工学院大学説明会	5/11...7/6 公務員プレ講座 5/30...11/28 キャリアデザイン講座(八王子) 5/30-31 就職活動報告会		5/23 中国科学の先生歓迎懇談会	5/26 EEC研究成果報告会 5/28 SMBC第19回研究会		5/29...6/30 PowerPoint2003入門講習会 5/31...6/26 Excel2003基礎講習会 6/7...7/2 Excel2003基礎講習会
6月	6/2 父母懇談会(北陸支部) 6/3 父母懇談会(西尾支部) 6/9 父母懇談会(茨城支部) 6/10 父母懇談会(新潟支部) 6/16 父母懇談会(千葉支部) 6/16 父母懇談会(南九州支部) 6/17 父母懇談会(北九州支部) 6/24 父母懇談会(栃木支部) 6/30 父母懇談会(北海道支部)		6/16 面接小セミナー 6/26 八王子合同企業セミナー 6/22.27.7/9 コンピテンシー診断		6/5 南台科技大学からの大学院生歓迎交流会		検索の早ワザ講座	
7月	7/1 父母懇談会(神奈川支部) 7/7 父母懇談会(西尾支部) 7/8 父母懇談会(中国支部) 7/8 父母懇談会(山梨支部) 7/14 父母懇談会(静岡支部) 7/14 父母懇談会(近畿支部) 7/15 父母懇談会(中京支部) 7/21 父母懇談会(東北支部) 7/22 父母懇談会(奥羽支部) 7/29 父母懇談会(群馬支部) 7/29 父母懇談会(埼玉支部)	7月～9月 高校訪問	7/27 就職スタートガイダンス	7/13 学長室と講師との懇談会		7/12 SMBC第20回研究会 7/25 NASIC第7回研究会	外国文献閲覧講座	
8月				8/3 センター会議	8/24 北京航空航天大学訪問団との交流会 8/25 釜山大学校からの理科教室参加者歓迎懇談会			
9月			9/3～7 公務員試験夏期集中対策講座 9/19.21 コンピテンシー解説講座 9/25-26.27 業界研究会 9/25...12/21 公務員試験対策通年講座				検索の早ワザ講座	
10月	10/13 キャンパス見学会(新宿・八王子) 10/20 キャンパス見学会(新宿・八王子) 10/27-28 本部役員研修会		10/13 筆記試験対策講座 10/4 環境ビジネスセミナー 10/5...12/17 企業研究会 10/6.13.20 SPI-1 一般常識テスト 10/29.11/2.15 履歴書・エントリーシート対策講座	10/12 南台科技大学の新学長との懇談会		10/9 SMBC第21回研究会		
11月	11/17 全国支部長会議	11/10～12 推薦・特別選抜	11/3 就職ガイダンス・内定者懇談会 11/30.12/7.14 キャリアデザイン講座		11/4～6 国際シンポジウムISAT-6	11/21 NASIC第8回研究会		11/1...13 Office2007新機能講習会 11/6...26 PowerPoint2007入門講習会 11/7～9 MSC/Patran基礎セミナー 11/12...29 Excel2007基礎講習会 11/15-16 MSC/Nastran基礎セミナー 11/21-22 STAR-CD入門・基礎コース 11/28～30MSC/Marc基礎セミナー
12月	12/9 編入学試験 12/19 付属高校2年生向け出張講座		12/1 就職活動マナー・面接対策講座 12/5 産学懇談会 12/21 エントリーシート直前対策講座			12/4 SMBC第22回研究会 12/8 フロンティア研究成果報告会		12/1...6 Word2007基礎講習会
1月		1/20-21 大学センター入試試験 1/30 一般入試(S日程)	1/28 面接試験直前対策講座 1/30...2/14.15 合同企業セミナー			1/25 SMBC第23回研究会		
2月	2/16 就職に関する懇談会	2/5～8 一般入試(A日程) 2/20 一般入試(B日程)	2/8...3/12 模擬面接会 2/25～28 春期公務員集中講座	2/26 退任する講師の送別会	2/12 韓国Suwon大学教員との交流会			
3月		3/3 一般入試(第2部一般)			3/13 南台科技大学からの大学院生研究成果報告会・懇談会	3/8 SMBC研究成果報告会 3/21 NASIC研究成果報告会		3/24-25 研究室ホームページ制作初心者講習会

	共通課程	機械工学科・機械システム工学科	応用化学科	環境化学科	マテリアル科学科	電気システム工学科	情報通信工学科・電子工学科	建築学科	建築都市デザイン学科	情報学部		
										コンピュータ科学科	情報デザイン学科	GE学部機械創造工学科
4月	4/2 新入生ガイダンス(1部) 4/2 新入生ガイダンス(2部) 4/4 非常勤教員との懇親会(外国語科) 4/4 非常勤教員との懇親会(保健体育科) 4/23 新任教員歓迎会	4/2 1年生ガイダンス 4/4 2・3年生学科ガイダンス 4/5 TA説明会 4/7・8 オリエンテーションキャンプ 4/14 1・2年生ガイダンスグループ面談	4/1 教員紹介グループ面談 4/2 学修ガイダンス 4/5 TA説明会 4/7・8 オリエンテーションキャンプ 4/14 1・2年生ガイダンスグループ面談	4/4 2年生ガイダンス 4/7 新入生オリエンテーション 4/11 3年生ガイダンス及び懇親会	4/1 新入生面談 4/7・8 オリエンテーションキャンプ	4/1 新入生ガイダンス 4/1 新入生OB講演会(2部) 4/9 編講ガイダンス(1部 電気) 4/19 輪講配属発表	4/1 新入生ガイダンス 4/1 新入生OB講演会(2部) 4/4 新2年生ガイダンス 4/6~16 4年生対象研究室配属説明会・面接 4/28 建築・環境・都市導入ワークショップ	4/1 入学式・新入生ガイダンス(建築) 4/4 新2年生ガイダンス 4/6~16 4年生対象研究室配属説明会・面接 4/28 建築・環境・都市導入ワークショップ	4/1 入学式・新入生ガイダンス(建築) 4/4 新2・3・4年生ガイダンス 4/6 2年生学修面談 4/6~16 4年生対象研究室配属説明会・面接 4/28 建築・環境・都市導入ワークショップ 4/16 新任教員歓迎会	4/1 新入生ガイダンス 4/2 新入生学修ガイダンス 4/6 2年生学修面談 4/6 オリエンテーションキャンプ(ジオフォトグラフィング) 4/16 新任教員歓迎会	4/1 新入生ガイダンス 4/2 新入生学修ガイダンス 4/3 新入生個人面談 4/4 2・3年生学科ガイダンス 4/5 院生対象 TA説明会 4/6 JABEE説明会 4/10 ECPⅡA, Bの説明会 4/10 ECPⅢの説明会	
5月	5/25 非常勤教員との懇親会(一般教育部) 5/25 総合文化科目担当者会議			5/12 スポーツ大会				5/10 Enric Ruiz Gel/ CLOUD9講演会 5/11 附属高等学校生徒対象工学院大学説明会 5/12・26建築・環境・都市導入ワークショップ 5/25 高校教員対象進路相談会 5/26 編入入学試1	5/10 Enric Ruiz Gel/ CLOUD9講演会 5/11 附属高等学校生徒対象工学院大学説明会 5/12・26建築・環境・都市導入ワークショップ 5/25 高校教員対象進路相談会 5/26 編入入学試1			5/30~6/13 英語でENGINEERINGを学ぼう!
6月	6/25 共通課程研究懇話会(講師:森先生)	6/21セミナー説明会	6/8 応化・マテ科特別講座(3年生対象) 6/23 新発見!オープンキャンパス		6/8 応化・マテ科特別講座(3年生対象) 6/23 新発見!オープンキャンパス		6/9 進路相談会 6/4~16 3年生対象セミナー説明会 6/6~13 ワイスコンセン大会との国際交流 6/21~27 3年生対象セミナー履修1次面接 6/23 新発見!オープンキャンパス	6/9 進路相談会 6/4~16 3年生対象セミナー説明会 6/6~13 ワイスコンセン大会との国際交流 6/21~27 3年生対象セミナー履修1次面接 6/23 新発見!オープンキャンパス			6/2 留学生歓迎会 6/15 現代OP特別講演会	
7月	7/23 暑気払い	7/26 新任教員歓迎会 7/28~9/9特別講義工場見学会	7/26 化学系懇親会 7/29~30 夏のオープンキャンパス 八王子	7月末 卒論中間審査会	7/26 化学系懇親会 7/29~30 夏のオープンキャンパス 八王子		7/3~6 3年生対象セミナー履修2次面接 7/5 超高度建築の設計事例に関する特別講演会 7/26 研究室対抗ソフトボール大会 7/29~30 夏のオープンキャンパス	7/3~6 3年生対象セミナー履修2次面接 7/5 超高度建築の設計事例に関する特別講演会 7/26 研究室対抗ソフトボール大会 7/29~30 夏のオープンキャンパス			7/25 ECPⅢ中間プレゼン 7/26 新任教員歓迎会	
8月			8/4~5 夏のオープンキャンパス 新宿 8/23~26 理科教室AO入試 8/25~26 理科教室		8/4~5 夏のオープンキャンパス 新宿 8/23~26 理科教室AO入試 8/25~26 理科教室		8/2~5 建築設計優秀作品展 8/4~5 夏のオープンキャンパス 8/25~26 理科教室	8/2~5 建築設計優秀作品展 8/4~5 夏のオープンキャンパス 8/25~26 理科教室	8/4~5 情報学カフェ(オープンキャンパス内イベント)	8/4~5 情報学カフェ(オープンキャンパス内イベント)		
9月		9/8 修士2年修論中間審査	9/22 1・2年生ガイダンスグループ面談	9/22 学科ホームカミングデー	9/20 特別講義 9/27 卒論中間報告会		9/22 3年次コース配属ガイダンス 9/28 卒業計画詳細説明会 9/29 構造系中間発表会 9/26 高校3年生対象新宿・八王子体験ツアー	9/29 構造系中間発表会 9/26 高校3年生対象新宿・八王子体験ツアー	9/11 1・2年生学修指導(成績不振者対象) 9/22 デジタルアートコンテスト応募作品審査会	9/11 1・2年生学修指導(成績不振者対象) 9/22 デジタルアートコンテスト応募作品審査会	9/8 修士2年修論中間審査	
10月			10/6 応化スポーツ大会 10/16 応化・マテ科特別講座(1・2年生対象) 10/27-28 秋のオープンキャンパス 新宿		10/13 スポーツ大会 10/16 応化・マテ科特別講座(1・2年生対象) 10/25 特別講義10/27-28 秋のオープンキャンパス 新宿		10/13-20 秋のキャンパス見学会 10/20 推薦入試1	10/13-20 秋のキャンパス見学会 10/20 推薦入試1				
11月		11/17 修士1年修論中間審査 11/17~11/24 卒論中間審査 11/30 コース分けガイダンス(機械工学)	11/4~6 ISAT6 11/21 インターンシップ成果発表会		11/29 特別講義 11/29 卒論仮配属ガイダンス(1部 電気)		11/6 ISAT6 11/10-11 推薦入学2・3 11/21 インターンシップ成果発表会	11/6 ISAT6 11/10-11 推薦入学2・3 11/21 インターンシップ成果発表会	9/11 1・2年生学修指導(成績不振者対象) 9/22 デジタルアートコンテスト応募作品審査会	9/11 1・2年生学修指導(成績不振者対象) 9/22 デジタルアートコンテスト応募作品審査会	11/8 特別公開講義「国際企業論」 11/17 修士1年修論中間審査	
12月	12/3 総合文化科目担当者会議	12/7 JABEEコース分けガイダンス(機械)	12/26 化学系忘年会		12/6 特別講義 12/26 化学系忘年会	12/13 卒論仮配属発表会	12/13 卒論仮配属発表会 12/5 産学懇談会 12/6 発災対応型防災訓練 12/8 編入入学試2 12/20 附属高校推薦入試合格者に対するガイダンス 12/26 入学前オリエンテーションスクーリング	12/5 産学懇談会 12/6 発災対応型防災訓練 12/8 編入入学試2 12/20 附属高校推薦入試合格者に対するガイダンス 12/26 入学前オリエンテーションスクーリング				
1月	1/8 共通課程FO研究会 1/15 新年会	1/21 第1部卒業論文ガイダンス 1/23 第2部卒業研究・セミナーガイダンス 2/12-13卒論・卒研発表審査 2/21 修論最終審査修論終了懇親会	1/25 新宿駅周辺滞留者対策実行演習 1/25 新卒就職円滑化対策訓練 1/26 卒業設計公開審査会		1/19 研究室公開 1/17 非常勤教員との懇親会(工学科・電気系・情報学部共) 1/17 非常勤教員との懇親会(工学科・電気系・情報学部共) 1/25 新卒就職円滑化対策訓練 1/26 卒業設計公開審査会 1/29 S日程入試	1/17 非常勤教員との懇親会(工学科・電気系・情報学部共) 1/17 非常勤教員との懇親会(工学科・電気系・情報学部共) 1/25 新卒就職円滑化対策訓練 1/26 卒業設計公開審査会 1/29 S日程入試	1/19-20 センター試験 1/25 新卒就職円滑化対策訓練 1/26 卒業設計公開審査会 1/29 S日程入試	1/19-20 センター試験 1/25 新卒就職円滑化対策訓練 1/26 卒業設計公開審査会 1/29 S日程入試	1/17 教員懇親会(非常勤教員・退職教員含む)(電気系・情報学部合同) 1/17 教員懇親会(非常勤教員・退職教員含む)(電気系・情報学部合同)	1/17 教員懇親会(非常勤教員・退職教員含む)(電気系・情報学部合同) 1/17 教員懇親会(非常勤教員・退職教員含む)(電気系・情報学部合同)	1/23 ECPⅢ最終プレゼン	
2月	2/18 共通課程研究懇話会(講師:山崎先生) 2/25~27 入学前教育(主権ではないが実質的に運用実施)		2/13 応化卒論発表会 2/29 化学系兼任専任懇親会	2/14 卒論発表会 2/19 修論発表会 2/19 修論審査会	2/15 卒論発表会 2/19 修論発表会 2/29 化学系兼任専任懇親会	2/12-13 卒論発表会 2/12-13 卒論発表会 2/15-16 修論発表会	2/12-13 卒論発表会 2/12-13 卒論発表会 2/15-16 修論発表会	2/4~7 A日程入試 2/1~12 卒論発表会 2/16 就職に関する懇談会 2/20 B日程入試	2/4~7 A日程入試 2/1~12 卒論発表会 2/16 就職に関する懇談会 2/20 B日程入試		2/21 修論最終審査 修論終了懇親会	
3月	3/4 岩原先生送別会 3/10 卒業研究生(建築2部・建築セミナー)の発表会	3/12 非常勤講師との教育懇談会及懇親	3/14 化学系送別会	3/8 卒論配属	3/14 化学系送別会 3/13 卒論着手発表会 3/14 電気・電子・情報(2部) 3/21 退職教員送別会(電気系・情報学部合同) 3/6 TA説明会(大学院生)	3/13 卒論着手発表会 3/14 電気・電子・情報(2部) 3/21 退職教員送別会(電気系・情報学部合同) 3/6 TA説明会(大学院生)	3/4 M日程・2部入試 3/15 望月教授・高教授の専任講義 3/19 学位授与式 3/26 高校1・2年生対象春休み体験学習	3/4 M日程・2部入試 3/15 望月教授・高教授の専任講義 3/19 学位授与式 3/26 高校1・2年生対象春休み体験学習	3/21 退職教員送別会(電気系・情報学部合同) 3/21 退職教員送別会(電気系・情報学部合同)	3/21 退職教員送別会(電気系・情報学部合同) 3/21 退職教員送別会(電気系・情報学部合同)	3/12 非常勤講師との教育懇談会及懇親会	

5. 2007年度催事分類一覽表

学外のカテゴリ

	高校生・予備校生	小・中学生	一般・企業	父母	教員
1. 入学系	<p>オープンキャンパス 6・7・8・10月(4回)(広報)</p> <p>春休み体験学習 新宿・八王子(2回)(広報)</p> <p>新宿・八王子校舎体験学習ツアー(広報)</p> <p>入学前教育スクーリング(新宿教務)</p> <p>入学前教育(共通)</p> <p>推薦・特別選抜(入学課)</p> <p>編入学試験(入学課)</p> <p>大学入試センター試験(入学課)</p> <p>一般入試(S日程・A日程・B日程・2部一般)</p> <p>理科室AO入試</p> <p>本学附属高校生対象工学院大学説明会(3年生)(入学課)</p> <p>附属高校2年生向け出張講座(入学課)</p>				<p>高校教員対象進学懇談会(広報)</p> <p>高校訪問</p>
2. 教育系	<p>フレンドシップ 40回(広報)</p> <p>出張講座 10回(広報)</p> <p>デジタルアートコンテスト応募作品審査会(情報)</p> <p>デジタルアートコンテスト(企画)</p> <p>理科学論文発表会(新宿教務課)</p>	<p>出張理科室 別所小学校(広報)</p> <p>出張理科室 福島鏡石(広報)</p> <p>大学の先生と楽しむ「理科室」(広報)(応化)</p> <p>(楽しむ科学教室(企画))</p> <p>サイエンス道場「昆虫ロボット」(企画)</p>	<p>インターンシップ成果発表会(新宿教務課)</p> <p>プレ八王子祭・八王子祭(八王子学生課)</p> <p>新宿祭(学生課)</p>		
3. 研究系			<p>博士学位請求論文公開発表会(3回)(大学院課)</p> <p>EEC研究成果報告会(総合研究所)</p> <p>プロジェクト研究成果発表会(総合研究所)</p> <p>SMBC研究成果発表会(総合研究所)</p> <p>NASIO研究成果発表会(総合研究所)</p> <p>国際シンポジウムISAT-6(国際交流)(応化)</p> <p>南台科技大交流関連 2回(国際交流)</p> <p>海外大学交流・懇親 4回(国際交流)</p>		
4. 就職系			産学懇談会		
5. 一般系 (社会貢献)			<p>創立記念日シンポジウム(学務課)</p> <p>技術士CPD講座(企画)</p> <p>技術士講演会(2回)(企画)</p> <p>知財シンポジウム(企画)</p> <p>地域交流シンポジウム(企画)</p> <p>エクステンションセンター開設記念講演会(エクス)</p> <p>公開講座 6講座(エクス)</p> <p>毎日学ぶネイティブ英会話(エクス)</p> <p>建築・パソコン・CISSPなど 5講座(エクス)</p> <p>セキュアシステム設計技術者の育成シンポジウム(CPD)</p> <p>Enric Ruiz Geli/CLOUD9講演会(建築系)</p> <p>建築設計優秀作品展(建築系)</p> <p>現代GP特別講演会(GE)</p> <p>家主説明会(八王子学生課)</p> <p>新宿駅周辺滞留者対策予行演習</p> <p>地震防災訓練(総務課)</p>		

学内の分類

	学部生	大学院生	教職員	OB	父母
1. 入学系	新入生歓迎会(八王子学生課) オリエンテーションキャンプ 13回(学生課) オリキャン参加上級生から意見を聞く会(学生部) 事務オリエンテーション(八王子学生課) 健康診断(八王子学生課) 新入生オリエンテーション(学習支援セ) 学習支援センター利用説明会(学習支援セ) OB講演会 2回(電気系) 新入生ガイダンス(全科) 新入生基礎学力調査・個人面談(GE) フレッシュマン講座(八王子学生課) 図書館ツアー(図書館) 大学院入試 6・9・2月(大学院課) 大学院進学ガイダンス 新宿・八王子(大学院課)	大学院入学式(大学院課) TA説明会(GE)(機械系)(化学系)			
2. 教育系	第1部入学式(八王子教務課) 第2部入学式(学務課) 学位授与式(学務課) 2年生以上学修ガイダンス(全科) 応化・マテ科特別講座(1, 2年対象, 3年対象) セミナー説明会(機械系) 1・2年生ガイダンス(応化, 春秋2回) 体育祭(八王子学生課) 1部・2部学生総会(八王子学生課・学生課) スポーツ大会(応化)(建築)(都市) 前期・後期定期試験(教務課) 夏季語学研修(教務課) JABEE他ガイダンス 4回(機械系) リーダーズキャンプ(学生課) 学生の創造活動プレゼン(学生課) 検索のはやわぎ講座 3回(図書館) Excell・PowerPoint講習会 5回(情報センター) Office・Word講習会 2回(情報センター) MSC 基礎セミナー 3回(情報センター) STAR-CD・ホームページ講習(情報センター)	大学院学位授与式	非常勤教員との懇談会(GE)(機械系)(化学系)(電気系)(情報) 大学院FDシンポジウム(2回)(大学院課) FDシンポジウム 2回(教務課) 学長室と講師との懇談会(学習支援セ) センター会議(学習支援セ) 非常勤教員との懇談会(一般・外国語・保健)(共通) 総合文化科目担当者会議(共通) 共通課程FD研究会(共通) 化学系送別会		父母懇談会21回(後援会)
3. 研究系	卒業論文発表会(化学系)(電気系)(建築系) ECPⅢ最終プレゼン(GE) 卒論・卒研最終審査(機械系) 卒論中間審査(機械系)(マテ)(建築)(都市)	大学院生優秀論文発表会(大学院課) 修士2年中間審査(機械) 修士1年中間審査(機械) 修士論文最終審査(全専攻) 特別研究生研究発表会(国際交流)	SMBC研究会 5回(総合研究所) NASIC研究会 2回(総合研究所) 共通課程研究懇話会(共通) 卒業研究生の発表会(共通)		
4. 就職系	合同企業セミナー(就職課) 八王子合同企業セミナー(就職課) 就職ガイダンス・内定者懇談会(就職課) 企業研究会(就職課) 就職活動報告会(就職課) JOB懇談会(就職課) 就職スタートガイダンス(就職課) 業界研究会(就職課) コンピテンシー診断・解説 2回(就職課) 面接セミナー・講座等 3回(就職課) SPIテスト・筆記試験対策講座 2回(就職課) 環境ビジネスセミナー(就職課) エントリーシート対策講座 2回(就職課) 公務員関連講座等 5回(就職課) キャリアデザイン講座 2回(就職課)				就職に関する懇談会
5. 一般系 (社会貢献・ 支援・その他)	大学院進学優秀学生ならびに大学成績優秀学生表彰式(学生課) 日本学生支援機構奨学金説明会等 5回(学生課)		大学辞令交付式(学務課) 大学表彰(学務課) 創立120周年記念表彰及び懇親会(総務課) 新任教員歓迎会(機械系)(情報)(共通) 災害図上訓練(総務課) 春期消防訓練(総務課) 新年会(総務課)(共通) 退職教員送別会(全科) 消防訓練・新年会・金刀比羅祭礼(八王子庶務) 退職慰労会(人事) 暑気払い(共通), 化学系懇親会 送別会(学習支援セ)(共通)(化学系) 西東京バスとの懇親会(八王子庶務)	ホームカミングデー(広報)	入学式後の父母説明会(後援会) 後援会定期総会(後援会) キャンパス見学会2回(後援会) 全国支部長会議(後援会)

6. 第8期自己評価実施計画

2008.05.19

教授総会構成員 各位

自己評価運営委員会
委員長 後藤 芳樹

第8期自己評価実施計画

自己評価運営委員会では、これまでに7回の委員会審議を経て、今期の自己評価実施計画を下記のようにとりまとめましたので、よろしく検討をお願いします。

1. これまでの活動について

2007年11月の学長諮問を受け、第8期自己評価運営委員会は7回の委員会を開催し、今期の自己評価の課題について検討した。その主な検討項目は、今期のテーマ、法人・大学各部門の催事実施状況、催事の分類、評価項目についてである。

2. 第8期の課題について

本委員会としては、今期の課題を次のようにしたい。

「本学における催事活動の現状と今後の課題」

—より効果的な催事の計画と実施のために—

本学では、教育研究活動の一環として、多くの催事を行なっている。催事は、学外に向けては、入学、教育、研究、就職などの様々な場面において実施され、単に情報を得るだけではなく、一緒に学んだり、体験したりする、直接的なふれあいやコミュニケーションの場となっており、その対象は、小・中学生、高校生、教職員、一般と広範囲にわたっている。また、学内においても、本学の構成員が、様々な催しに参加し、体験を共有することにより、互いに理解し、親睦を深める機会ともなっている。これらの催事は、大学の各部署で多数実施されており、それぞれの目的を持って企画され、毎年、計画・実施されてきたが、一方では、数多くの催事を実施する必要があるために、日程調整の複雑化、実施費用や教職員の負担の増加が懸念されている。そこで、本委員会では、各種催事について以下の7項目について評価を行なうこととする。

1) 活動の現状

- 2) 開催時期
- 3) 実施効果
- 4) 実施費用
- 5) 参加者と参加者数
- 6) 教職員等の負担
- 7) 今後の課題

これらの評価に当たっては、客観的な評価をするために、学内外から広く意見を聴いて取りまとめ、本学が、今後、より効果的な催事の計画・実施が行なえるようにしていきたい。大学のさらなる発展のために、教授総会構成員のご協力をお願いするしだいです。

自己評価の体制

系列選出委員（任期：2007年4月～2009年3月）

共通課程	蔵原 清人	共通課程教授
機械系学科	八戸 英夫	機械システム工学科准教授（2008年4月～）
	後藤 弘太郎	機械システム工学科講師（2007年4月～2008年3月）
化学系学科	長島 珍男	応用化学科教授
電気系学科	山口 実靖	情報通信工学科准教授
建築系学科	大塚 毅	建築学科准教授
情報学部	大木 榮二郎	情報デザイン学科教授
GE 学部	金丸 隆志	機械創造工学科講師
学長指名委員	後藤 芳樹	機械工学科教授
	於保 英作	情報デザイン学科教授
職務上委員	宇田川 光弘	教務部長
	佐藤 光史	学生部長
事務局	田村 省三	教務部事務次長、学務課課長
	岡本 信彦	学務課職員（2008年4月～）
	須崎 宏和	学務課職員（2007年4月～2008年3月）

以 上

7. 催事の効率的実施についてのアンケート依頼文

2008.11.17

催事アンケートのお願い

法人および大学の各部門 各位

第8期自己評価運営委員会 委員長 後藤 芳樹
副委員長 於保 英作

自己評価運営委員会では、現在、今期の課題となっている催事の効率的な実施に向けて評価を進めているところですが、催事が、法人と大学、あるいは大学内の複数の部門に関係するものなどがあり、効率的な実施についての評価を進める上で分かりにくい面が多々あります。そこで、各部門で実際に催事を担当されている方々に、アンケート形式で直接、ご意見を伺い、評価の参考にしたいと考えております。昨年度、運営委員会では、各部門から頂いたアンケートをもとに、別紙の2007年度催事一覧表を作成いたしました。これをご覧いただき、下表の「1. 自部門の催事」欄に、そしてこれと関連する他部門の催事を、「2. 関連する他部門の催事」欄に記入していただき、効率的な催事の実施に向けて、例えば、他部門との共催や統合など、「こうやったら無駄を減らせる」とか、「こういう風にすればもっと教職員のロードを減らせる」といった日頃考えておられることを「3」の欄にご記入ください。なお、このアンケートの回答につきましては、自己評価運営委員会の検討の参考とさせていただき、運営委員会以外では使用いたしませんので、どうぞ忌憚のないご意見をお聞かせ頂ければ幸いです。ご協力のほどよろしく申し上げます。

1. 自部門の催事	2. 関係する他部門の催事	3. 共催や統合など催事の効率的な実施に向けての提案

8. 自己評価運営委員会規程・自己評価に関する覚書

自己評価運営委員会規程

平成5年6月14日

(目的及び設置)

第1条 本学の教育研究水準の向上を図り、本学の目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動等の状況について自ら点検・評価を行う組織として、教授総会の下に自己評価運営委員会(以下、「運営委員会」という。)を置く。

(活動)

第2条 運営委員会は教授総会の諮問に応じ、次の各号に定める大学の教育研究活動等の状況について、調査に基づき点検・評価を行い、教授総会に報告する。

- (1) 教育理念及び目標
- (2) 教育組織及び教育課程
- (3) 研究組織及び研究体制
- (4) 構成員の一般的環境及び社会との関係
- (5) 管理運営体制及び財政

2 学長は、別に必要な事項について運営委員会に諮問することができる。

3 運営委員会は、前2項に定めるほか、独自に点検・評価項目を設定し、調査等を行うことができる。

(委員)

第3条 運営委員会は、次の各号に掲げる委員をもって構成する。

- (1) 共通課程から選任される教員 1名
- (2) 機械工学科及び機械システム工学科から選任される教員 1名
- (3) 応用化学科、環境化学工学科及びマテリアル科学科から選任される教員 1名
- (4) 電気システム工学科及び情報通信工学科から選任される教員 1名
- (5) 建築学科及び建築都市デザイン学科から選任される教員 1名
- (6) 情報学部から選任される教員 1名
- (7) グローバルエンジニアリング学部から選任される教員 1名
- (8) 学長が指名する教員 若干名
- (9) 教務部長及び学生部長 各1名

2 前項第1号から第8号までの委員の選任又は指名は、教授総会において承認を求めるものとする。

(任期)

第4条 前条第1項第9号以外の委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

2 前項第1項第9号の委員は、その役職に在任中委員となる。

3 委員が任期途中で交代した場合の後任委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長及び副委員長)

第5条 運営委員会に委員長及び副委員長1名を置く。

- 2 委員長及び副委員長は、委員の互選により選出する。
- 3 委員長は、運営委員会の議長となり、その会務を総理する。
- 4 副委員長は委員長を補佐し、委員長に事故あるときはその職務を代理する。

(定足数)

第6条 運営委員会は、委員の過半数の出席がなければ議事を行うことができない。

- 2 運営委員会の議事は出席委員の過半数により決し、可否同数の場合は議長の決するところによる。

(専門委員)

第7条 専門の事項を調査するため必要があるときは、運営委員会に専門委員を置くことができる。

- 2 専門委員は運営委員会の議決に加わらない。

(委員会)

第8条 運営委員会に、特定分野又は個別事項に係る調査及び点検・評価を行うため、若干数の個別自己評価委員会(以下、「委員会」という。)を置くことができる。

- 2 各委員会は、それぞれ運営委員会の委員及び専門委員で組織する。
- 3 運営委員会は、委員会の構成についてあらかじめ教授総会の承認を求めなければならない。
- 4 各委員会の議事等については、本規程の第4条から第7条までを準用する。
- 5 運営委員会又は委員会は、学内に設置された各種委員会組織又は事務組織に調査を委嘱することができる。

(庶務)

第9条 運営委員会及び委員会の庶務は、教務部学務課が処理する。

(改廃)

第10条 この規程の改廃は教授総会がその議により行う。

付 則

この規程は、平成5年6月14日から施行する。

付 則

この規程は、平成11年4月1日から施行する。

付 則

この規程は、平成13年4月1日から施行する。

付 則

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

自己評価に関する覚え書き

平成5年6月14日

1.自己評価の考え方

- (1).自己評価は、大学設置基準に明文化されたから義務的、受動的に行うものではなく、大学への社会的な期待に対し大学の責任として当然行うべきものである。本学は既に教学分科会報告(1984.11.20)等で実質的な自己評価の経験があり、今回の自己評価規程等はこれを明確にするものである。
- (2).自己評価は、大学にとって自発的、自律的、自覚的な運営と質的向上を図ることを目的とするもので、組織の向上及び活性化を通じて各個人の向上をも目指すものであり、決して個人を単位として評価することが目的ではない。言うまでもなく大学人としての自己規律と職業倫理とはおのずから求められるものである。
- (3).自己評価は、各機関が本来の職務上行う評価とは別のものであり、自己評価機関の設置又は自己評価の実施は既存の機関の権限を制限するものではない。また、自己評価の結果に対する反論・批判等は自由に認められる。
- (4).自己評価は、内外の検討や批判に耐え得る客観性をもち、かつ公平なものでなければならない。評価を巡って意見の対立や違いが明らかになったとしても、学園の将来への発展を願う真摯な討論が行われるならば、価値ある努力であり、また多様な意見の吟味により、より客観的な認識に近づける。
- (5).教育研究の内容に関する自己評価は、学問の分野ごとの特殊性を考慮し、教員の学問・思想・信条・研究スタイルを尊重して慎重に進めるものとする。
- (6).自己評価の結論・提言は直ちに実施することを義務づけるものではないが、当該機関等は(改善)実施の是非・時期等の方針を速やかに見解として示すことが求められる。

2.自己評価の手順

- (1).自己評価運営委員会は、自己評価を実施するに当たり、教授総会に対して自己評価実施計画を提出し、承認を受ける。自己評価実施計画には次の内容が含まれる。
 - ①自己評価の課題内容と個別委員会の構成員案
 - ②自己評価の進め方の概要
 - ③評価実施期間
- (2).自己評価運営委員会及び個別委員会は、必要に応じ学内各機関に対して必要な資料の提示を求めることができる。ただし、取り扱いについて最終決裁は学長が行う。
- (3).運営委員会は、毎年1回以上教授総会に対して報告を行う。
- (4).評価実施期間が1年を越える場合は、少なくとも毎年1回中間報告を行う。
- (5).個別委員会が作成する評価報告書は、運営委員会が(必要ならば運営委員会の参考意見を付記して)教授総会に提出する。
- (6).自己評価の結論・提言の実施は、責任を持つ当該機関が所定の手続きを経て行う。
- (7).報告書の外部への発表は(必要ならば)学長が行う。

9. 第8期自己評価運営委員会の委員構成

第8期の自己評価運営委員会の体制は下記のとおりである。

系列選出委員（任期：2007年4月～2009年3月）

共通課程	*蔵原 清人	教授
機械系学科	八戸 英夫	准教授（2008年4月～2009年3月）
	後藤 弘太郎	講師（2007年4月～2008年3月）
化学系学科	長島 珍男	教授（2007年4月～2009年3月）
電気系学科	山口 実靖	准教授（2007年4月～2009年3月）
建築系学科	大塚 毅	准教授（2007年4月～2009年3月）
情報学部	大木 榮二郎	教授（2007年4月～2009年3月）
GE 学部	金丸 隆志	講師（2007年4月～2009年3月）

学長指名委員	*後藤 芳樹	教授（委員長）	（2007年4月～2009年3月）
	*於保 英作	教授（副委員長）	（2007年4月～2009年3月）

職務上委員	宇田川 光弘	教授（教務部長）	（2007年4月～2009年3月）
	佐藤 光史	教授（学生部長）	（2007年4月～2009年3月）

事務局	*小島 孝治	教務部事務部長、学務課課長	（2008年10月～2009年3月）
	田村 省三	教務部事務次長、学務課課長	（2007年4月～2008年9月）
	*岡本 信彦	学務課職員	（2008年4月～2009年3月）
	須崎 宏和	学務課職員	（2007年4月～2008年3月）

（委員名の*印はワーキンググループ委員）

10. 第8期自己評価運営委員会活動日誌

第1回 2007年11月22日(木) 13:10~14:15

【 委員長及び副委員長選出 】

第2回 2007年12月19日(水) 10:00~11:30

【 テーマについて、今期本運営委員会のスケジュールについて 】

第3回 2008年1月24日(木) 13:00~14:30

【 2007年度催事アンケート結果について、テーマについて 】

第4回 2008年2月28日(木) 13:05~14:45

【 2007催事分類一覧、テーマについて 】

第5回 2008年3月13日(木) 13:05~14:45

【 2007年度催事一覧表、テーマについて 】

第6回 2008年4月10日(月) 13:05~14:35

【 催事の評価項目、自己評価実施計画について 】

第7回 2008年5月15日(木) 13:00~14:35

【 催事評価と自己評価実施計画について 】

第8回 2008年6月26日(木) 13:00~14:35

【 催事評価報告について 】

第9回 2008年7月17日(木) 13:05~14:40

【 催事評価報告について 】

第10回 2008年9月1日(月) 13:00~15:05

【 催事評価報告について 】

第11回 2008年10月2日(木) 16:30~18:25

【 催事評価報告について 】

第12回 2008年11月13日(木) 16:30~18:20

【 催事評価報告について 】

第13回 2008年12月4日(木) 16:30~18:35

【 催事評価報告について 】

第14回 2009年1月15日(木) 13:00~15:15

【 報告書のまとめ 】

第15回 2009年1月29日(木) 13:00~15:10

【 報告書のまとめ 】

催事関係参考資料

目次

1. オープンキャンパス 「キミも明日の鳥人間」
2. ひと足早く大学生春休み学習体験
3. オリエンテーションキャンプ (オリエンテーションキャンプ実施報告書 (2007年6月26日) より抜粋)
4. 高等学校と大学を結ぶフレンドシップ制度
5. 大学の先生と楽しむ理科教室
6. 楽しむ科学教室
7. 第14回全国高等学校理科・科学クラブ研究論文入賞論文発表会、
2007年工学院大学サイエンス道場 昆虫ロボット
8. 工学院大学デジタルアートコンテスト
9. 工学院大学学外研修 (インターンシップ) 成果発表会
10. KOGAKUIN UNIVERSITY 58th SHINJYUKU FESTIVAL
11. シンジュクミナヅキサイ 新宿水無月祭
12. 八王子祭
13. 体育祭
14. 地震防災・環境研究センター (EEC) 研究成果報告会
15. マイクロ先進スマート機械・マイクロバイオシステム研究センター (SMBC)
研究成果最終報告会
16. 第2回ナノ表面・界面研究センター (NASIC) 研究成果報告会
17. 工学院大学総合研究所プロジェクト研究成果報告会
18. (国際シンポジウム) ISAT 6th
19. 学校法人工学院大学学園創立120周年記念表彰式
20. 120周年創立記念日シンポジウム
21. 知財・国際シンポジウム
22. 工学院大学エクステンションセンター：秋・冬講座のご案内
23. エクステンションセンター開設記念特別講演会
24. 「セキュアシステム設計技術者の育成」プログラム成果発表会
25. 地震防災訓練
26. 地域交流シンポジウム&工学院大学スチューデントセンター竣工記念
27. 合同企業セミナー
28. エントリーシート対策講座
29. 就職マナー・面接対策講座
30. FDシンポジウム (第16回～第18回)
大学院FDシンポジウム (第3回～第5回)
31. 外国文献カンペキ講座
32. 検索の早ワザ講座
33. 後援会のご案内 (父母懇談会日程一覧表)
34. 第7回ホームカミングデー ～懐かしき母校、再発見の日～

1. オープンキャンパス - キミも明日の鳥人間 -


 Engineer our Future
 2012

OPEN CAMPUS

キミも明日の鳥人間

夏のオープンキャンパス
 八王子キャンパス
7/29(日)・30(月)

新宿キャンパス
8/4(土)・5(日)

開催時間 **10:30~16:30**

秋のオープンキャンパス(新宿キャンパス)
10/27(土)・28(日)

TOKYO URBAN TECH
工学院大学

お問い合わせ
03-3340-0126 (広報部)
www.kogakuin.ac.jp

※オープンキャンパスは申込不要です。

2. ひと足早く大学生春休み学習体験

Let's be a one day student!

ひと足早く大学生 春休み学習体験

みんなでキャンパスへ行こう!

ご家族でのご参加 大歓迎!

3月26日(水)
in 新宮キャンパス

3月27日(木)
in 八王子キャンパス



1日大学生 プログラム内容

- 大学の発展ってどんなの? ~大学の発展を体験!~
- 大学ってどんなところ? ~キャンパスをじっくり見学してみよう~
- コンピュータで立体模型をプロデュース!
- センパイの声を聞いてみよう ~研究や学生生活の事など疑問を解決!~
- 学長特別体験
- 国際進学相談・付属高校ガイダンス

キャンパスライフをたっぷり1日体験できます!

皆さんは大学にどんなイメージを持っていますか? この体験によって大学生活の楽しい、勉強の大切さを感ずることができると幸いです。皆さんぜひ一緒に楽しみましょう!

工学院大学
社会エコロジャー工学研究室スタッフ

投票テーマ例

- 体感しよう ロボット技術!
- 海の生物が作る医薬品
- エネルギー問題と宇宙開発
- 未来の航空機を考える
- 建築と都市の魅力

※この他にも様々な分野から、全18テーマをご用意いたしました。興味ご参加ください。

新宮キャンパス

受付 9:30~10:00
開演 10:35~11:25

その他、キャンパス見学、コンピュータ体験、学習ランチ体験など実施いたします。

Aコース：レーシングカーのエアロダイナミクス
Bコース：体感しようロボット技術!
Cコース：海の生物が作る医薬品
Dコース：最新の生物が作る海の未来へ
Eコース：チノの視点の地球を眺ろう 衛星画像の世界
Fコース：未来の通信ユビキタスネットワーク
Gコース：驚かすつくり：最近の寸法を把握しよう
Hコース：建築と都市の魅力
Iコース：情報化社会
Jコース：自分のロゴマークを作りましょう
Kコース：未来の航空機を考える

八王子キャンパス

受付 10:00~10:20
開演 10:35~11:25

その他、キャンパス見学、コンピュータ体験、学習ランチ体験など実施いたします。

Lコース：自動工作機械マシニングセンターによる加工実習
Mコース：ハイオマズが作る未来
Nコース：エネルギー問題と宇宙開発
Oコース：風も匂いも感じるよう! 電気屋敷実習の体験~
Pコース：室内型実環境の可視化
Qコース：ものづくりからのビューアマンインターフェース
Rコース：人間が作り出す人工的生態系コンピュータで観る

アクセス



「新宮キャンパス」は、新宮駅南口から徒歩5分、新宮大江戸線駅南口から徒歩10分、西武新宮駅南口から徒歩10分です。

「八王子キャンパス」は、八王子駅南口から徒歩10分、八王子駅西口から徒歩15分、八王子駅東口から徒歩15分です。

3月27日(木)は、3月26日(水)と同様に新宮キャンパスが会場となります。このイベントには予約制売場とさせていただきます。

3月27日(木)は、3月26日(水)と同様に新宮キャンパスが会場となります。このイベントには予約制売場とさせていただきます。

お問い合わせ先
工学院大学広報部
Mail: koho_open@kogyakuin.ac.jp
2012

3. オリエンテーションキャンプ

オリエンテーションキャンプ実施報告書（2007年6月26日）から抜粋

各学科の日程・宿泊地	日程・宿泊地
機械工学科	4/14, 15 山梨県河口湖
機械システム工学科	4/7, 8 長野県東山高原
応用化学科	4/7, 8 山梨県鳴滝村
環境化学工学科	4/14, 15 群馬県高利根
マテリアル科学科	4/7, 8 長野県東山高原
電気システム工学科	5/12
情報通信工学科	4/14, 15 群馬県高利根
建築学科	4/29, 5/12, 5/26
建築都市デザイン学科	(建築学科と合同実施)
コンピュータ科学科	5/12
情報デザイン学科	4/14
情報創造工学科	5/26

学科別の主な催事1（宿泊を伴うキャンプ）	主な催事
機械工学科	OB訪問 距離と大会 ラフスタート大会 カレー作り
機械システム工学科	卒業プロジェクト展示 ドッジボール大会 バーベキュー
応用化学科	バスツアー 観音堂 オリエンテーション カレー作り
環境化学工学科	芝居見物（年間行事部活） スライム大会（ラフスタート部、ラフスタート部、観音堂のメンバー） バーベキュー
マテリアル科学科	学生生活ガイダンス 観音堂 バーベキュー
情報通信工学科	講演 ドラゴンボール大会 バーベキュー

学科別の主な催事2（学科実施および日帰りキャンプ）	主な催事
電気システム工学科	ダム施設・実習所見学
建築学科	ワークショップ形式の導入教育
建築都市デザイン学科	(建築学科と合同催事)
コンピュータ科学科	絶好どころまで行く
情報デザイン学科	シオ・フォトクラフティング
環境創造工学科	講演会等

平成19年7月2日

学生部長

オリエンテーションキャンプ参加上級生から意見を聞く会について

□経緯

学生生活委員会内の学生相談検討WGでピアサポート（上級生が下級生の悩み相談に乗ること）について検討している。その中でオリエンテーションキャンプに参加してくれた上級生がキャンプ後に新入生から相談や質問を受けているかどうかを知りたいので、上級生にアンケートをとってはどうか、という話になった。ピアサポート室ではもとも、「上級生から見たオリエンテーションキャンプの反省点を聞き、来年の改善点としたい」という思いがあったため、学生相談検討WGとピアサポート室の両方の話を聞く事ができる利点から、意見を聞く会を実施することになった。

□参加予定者

上級生(約130名)
オリエンテーションキャンプ参加教員及び学生相談検討WGメンバー(約50名)
SSSメンバー(約10名)

□日時

7月10日(火) 八王子校舎 松風舎
7月11日(水) 新宿校舎 アカルティ
両日ともに16時30分から3時間程度を予定。

□目的

1. オリエンテーションキャンプに参加してくれた上級生がキャンプ後に新入生から相談や質問を受けているかどうかを知りたい。
2. 上級生から見たオリエンテーションキャンプの反省点を聞き、来年の改善点としたい。

□スケジュール

6月11日：新宿校舎および八王子校舎の実施場所の確保。
6月26日：上級生及び先生への会のお知らせ発信。
7月2日：上級生及び先生の出席の有無を確認。
7月10日及び11日：上級生にアンケートを記入してもらう。

以上

4. 高等学校と大学を結ぶフレンドシップ制度①

高等学校と大学を結ぶ フレンドシップ制度

工学院大学では、社会貢献活動の一環として、「出張講座」制度を実施してきました。

この「フレンドシップ制度」も、高大連携への積極的な取り組みの一つとして、今年で9年目を迎えております。

毎年約2000校の皆様に、この制度のご案内をさせていただいております。



Case Study

模範授業

専門分野講義

- テーマを絞った専門分野中心の話 (IT、環境、ロボット、マテリアル、建築等)
- 理工系大学での学習内容について
- その他高等学校で企画したイベントの連携

人文・社会系分野講義

- 大学と高等学校の授業の違い
- 大学で学ぶことの意義
- 広く人間形成を目的とした話
- その他高等学校で企画したイベントの連携

受験・小論文指導

- 理工系進学者に対する進路相談
- 受験のための小論文作成指導
- 工学院大学が主催する「理科論文」応募のためのアドバイス

質疑応答・指導

- 物理、化学等の分野を中心とした実験演示、および指導者での連携

講演会

ご父母対象

- ご父母の皆様を対象にした進路相談および講演
- 本学で学ぶ事の意義
- 本学での就職指導について
- その他高等学校で企画したイベントの連携

教員対象

- 一つの高等学校内に留まらず、地域学校間に行われている研究討合や研修会、履修会等のコンテンツが核として、意見交換を主たる目的としたもの



Engage our Future
2012

TOKYO URBAN TECH
工学院大学

4. 高等学校と大学を結ぶフレンドシップ制度

皆さんの学校に大学の先生が行きます

INFORMATION

工学院大学では、無償で教員を派遣する「フレンドシップ制度」を実施しています。理科・科学の話、実験のアドバイス、産業技術の話などについて、本学の教員が皆さんの学校に出向いてお話をします。下記のようなものをはじめ、さまざまなテーマがあります（派遣を依頼された学校の費用負担は一切ありません）。

詳細につきましては、ホームページをご参照願います。 <http://www.kogakuin.ac.jp/friendship/index.html>

【申込・問合せ】工学院大学広報部TEL:03-3340-0126 FAX:03-3340-2440 E-mail:koho@kogakuin.ac.jp

地球シミュレーター

超高速、高性能の並列計算機を用い、地球大気・海洋の変動及び地球内部の変動を定量的に評価・予測し、自然災害からの人類の生命・財産の保全及び気候変動に対する的確な環境・資源管理をする試み。

e-Japan計画

インターネットが普及し、いろいろな手続きを電子的に処理することが盛んになった。その国家的プロジェクトの概要と、そこに直面する問題についてお話しする。

タイムスタンプとは

電子商取引が盛んになってきた。誰が後か先か、何時成立か、世界を舞台に、共通の時刻をどう定めるのだろうか。受付時刻スタンプの電子的押印方法についてお話しする。

携帯電話の秘密

携帯電話には、様々な技術が集約されている。自さどう処理するかも人間様だ。音処理の経路について紹介する。

地上で宇宙の始まりを再現

電子と陽電子に、それぞれ50万[eV]の電場を、距離20kmにわたってかけ、正面衝突させ、ナノスケールの領域に宇宙の始まりを再現する壮大な実験計画、5000人規模の国際実験所を日本に誘致しようとしている。

重力波を探る

重力波は電磁波によって伝達されるように万有引力は重力波によって伝わると思われている。電磁波より40倍も小さな力である重力波は重力波を検出することは極めて難しい。その試みを紹介する。

カーナビと相対性理論

人工衛星を用いて、精度高く位置を測定する装置がカーナビである。精度1mにするには、一般相対論の知識も用いなければならぬ。相対論は我々にも身近な話である。

尿で癌を診断する

癌の早期発見にはどのような手段があるだろうか。ここでは癌があると、特異的に増える物質を尿の中から抽出し、簡単に癌の有無を診断するお話を紹介する。

人工骨、人工歯の素材

身体の部品も、人工物で置き換えることができるようになってきたが、部品として、身体に馴染むかどうか重要な問題もある。ツブタイトなどの開発についてお話しする。

水がなくなる

水は無尽蔵にあるのではない。地球の水の僅か0.5%が淡水である。25年後に世界の人口の半分以上が深刻な水不足に陥ると言われている。水の循環の水危機について警告する。

発光ダイオードの秘密

クリスマスツリーのランプが安くなった。全てが、消費電力の小さな発光ダイオードである。色の違いは何だろうか。どんな色も可能なのだろうか。その秘密を探る。

ダーティな炭からクリーンな水素エネルギーを生成

牛の糞を分解して、水素を発生できないであろうか。土壌中の微生物を用いて、水素発生に成功したお話し。

量子力学の世界

粒子と波の二重性をもつ電子のしたがう運動法則である量子力学を直観的に解説。なぜすべての水素原子は同一なのか。導体と絶縁体はどこが違うのか。絶対0度で熱運動が停止するとはどういうことか。の理解を促進します。プロジェクターを使用。

湯川秀樹、朝永振一郎と日本の物理学の発展の歴史

湯川秀樹と朝永振一郎の生誕百周年を記念して、日本における物理学の発展の歴史を振り返り、現代物理学のメッセを日本のオリジナル(湯川、朝永、江崎、小柴など)を中心に紹介します。プロジェクターを使用。

素粒子物理学入門

物質構造の基本粒子である素粒子とはどのような特徴をもつ粒子なのか。どのようにして作られるのか。そして検出されるのか。素粒子物理学への入門を、話題になることが多い素粒子であるニュートリノに重点をあてて行います。プロジェクターを使用。

若きアインシュタインの夢

「光の速と同じ速さで動いていたら？」というアインシュタインの16歳の夢は、10年後に相対性理論として実りました。若き日のアインシュタインのエピソードの紹介と、相対性理論のやさしい解説を行います。プロジェクターを使用。

相対論早わかり

宇宙が始まって137億年の間自然の中にそっと潜んでいた相対性理論に、アインシュタインは気づきました。相対性理論とは何でしょう。であるだけ短時間で話します。但し、簡単な数式は使います。

膨張する宇宙

宇宙はビッグバン以来膨張し続けている。最近の超新星の観測結果から、膨張速度は加速していることがわかってきた。もしそうなら、宇宙のエネルギーの起源の謎が未知のものとなる。

音楽の感性に適合したダンスの自動生成について

音楽を聴くと色を連想する世界について

これからの社会で活躍するエンタテインメント・ロボットについて

近未来情報社会を支える技術の概要

ロボット技術はどこまで進んだか

一日総合大学「古代ローマの建築論」

建築と地震防災

情報社会のインパクト

セラミックス科学入門

ITとマルチメディアインターネットのしくみ

生活の質「Quality of Life」(QOL)をささえる医療・福祉材料

建築の骨組と安全性

環境保全及び省資源を目的とした材料の機能化と廃棄物の資源化の試み

都市計画とは何か、都市デザインとは何か

グローバルエンジニアになるための新しいトレーニングプログラム

自動車为例にした「もの作り」と「計測」

宇宙で使われる先端材料

これからの燃料電池

5. 大学の先生と楽しむ理科教室

第14回
工学院大学わくわくサイエンス祭

大学の先生と楽しむ 理科教室

2007.
8/25 ± 26日
10:00~16:00 雨天実施

自由参加・参加無料
当日、直接会場にお越し下さい

自分で体験してみよう

- 糸電話の原理を応用したオリジナル楽器「ストリングラフィ」の演奏をきいてみよう
- めんしん(免震)て???

科学でものづくり

- 水中カラフルボール「海ほたる」を作ろう!
- ペットボトルで風車を作ろう!
- 立体万草鎖を作ろう!

一緒に実験してみよう

- 飾り炭を作ろう
- カラダのスーパーパワーを調べよう! =酵素の働き
- 「かみなり」って何だろう?(高電圧の放電実験)

全85テーマ!
いろんなテーマにチャレンジしてみよう。

ニャンダー博士 ▲

にゃご助 ▶

平成18年度
文部科学省
「特色GP」補助事業

高校生向けテーマも用意しました!

- コンピュータと工作機械でオリジナルネームプレートを加工しよう
- 映像で綴る世界の建築デザイン
- フーコーの振り子 他

会場 工学院大学八王子キャンパス (東京都八王子市中野町2685-1)

参加対象 小学生・中学生・高校生

お問い合わせ 工学院大学「理科教室」事務局

ホームページ <http://www.kogakuin.ac.jp/rikak/> **E-mail** rikak@kogakuin.ac.jp

理科教室テレフォンサービス(24時間利用可能) / 03-3340-0246~7
理科教室事務局(広報部) / 03-3340-0126

主催 / 学校法人 工学院大学
(大学、附属高等学校、附属中学校、専門学校)
後援 / 八王子市、八王子市教育委員会、財団法人八王子市学園都市文化ふれあい財団、日野市教育委員会、相模原市教育委員会、立川市教育委員会、多摩市教育委員会、町田市教育委員会、あきる野市教育委員会、昭島市教育委員会、福生市教育委員会、青梅市教育委員会、羽村市教育委員会

工学院大学八王子キャンパス

会場
京王八王子駅3番
JR八王子駅北口6番

西東京バス約20分
●工学院大学行 → 工学院大学下車
●相模原行(工学院大学西経由) → 工学院大学西下車

※1時限に5~6分運行します。また、当日は臨時臨時バスも運行しますので、ご利用ください。

お車でのご来場はご遠慮ください

7. 第14回全国高等学校理科・科学クラブ研究論文入賞論文発表会、
2007年工学院大学サイエンス道場 昆虫ロボット

第一部 13:30~15:10

第14回 全国高等学校理科・科学クラブ研究論文 入賞論文発表会

全国の高等学校から応募された理科・科学クラブ研究論文の発表式及び発表会を行います。募集テーマは数学、物理、化学、生物、地学、工業(機械・電気・情報)、情報、環境、そのほか自然科学分野に関する内容で、今年度の応募は49校66編。その中から学芸部員(教員等賞)1編、優秀賞3編に選ばれた論文の内容について、ご興味いただいた高校生自ら発表を行います。

第二部 15:30~17:30

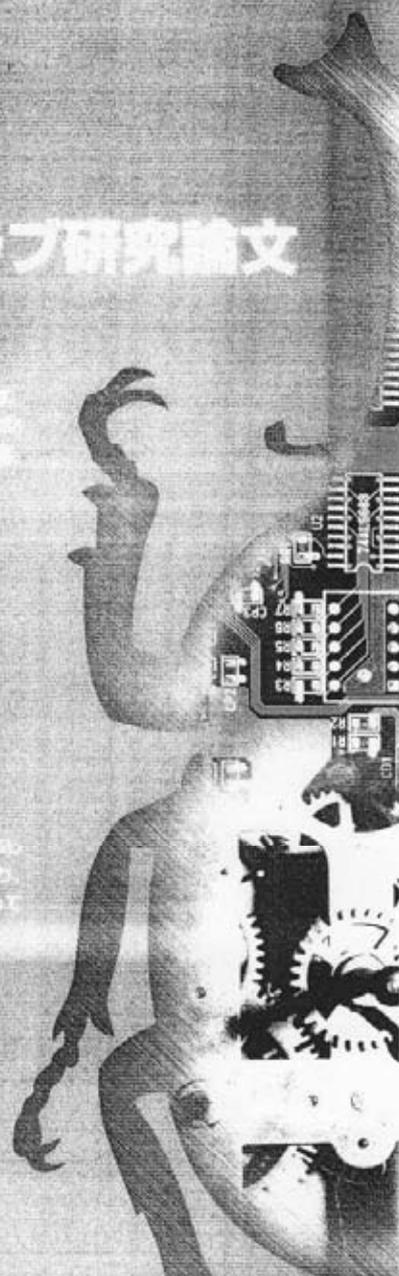
2007年 工学院大学サイエンス道場 昆虫ロボット

昆虫は、動物の種の数の4分の3を占めると言われており、地球上のあらゆる環境に適応し、繁栄してきた「成功者」です。体は小さくて単純ですが、羽ばたきにより自由に空を飛んだり、水面上を移動したり、群れを作って餌を集めるなど、小動物ならではの優れた能力を持っています。これらは、小さいロボットを作る際のヒントやアイデアとなります。昆虫の構造や機能に学んだ様々なロボットについて紹介します。

講演1 昆虫ロボットとマイクロ技術
鈴木 健司 (工学院大学工学部機械システム工学科 准教授)

講演2 昆虫ロボットの動作実験
小池 裕之 (工学院大学大学院理工学専攻 修士1年)

司会：山田 作新 (工学院大学CPDセンター 客員教授)



2007年
10月27日(土)

工学院大学 新館124号室
入賞論文発表会



ACCESS

- ・JR「新大塚」下車、西口より徒歩5分
- ・京王線、小田急線、地下鉄有楽町線「新大塚」下車、徒歩5分
- ・京浜東北線「新大塚」下車、徒歩3分
- ・西武新大塚線「西武新大塚」下車、徒歩10分

お問い合わせ先
学校法人工学院大学CPDセンター
〒163-8677 新宿区西新宿1-24-2
TEL.03-3340-0359 FAX.03-3345-0228
E-mail: office@cpd.kogakuin.ac.jp

TOKYOURBANTECH
工学院大学

8. 工学院大学デジタルアートコンテスト

**工学院大学
デジタルアートコンテスト**

応募分野：①コンピュータ グラフィクス (CG、アニメーションなどを含む)
②インタラクティブ コンテンツ (ゲーム、学習ソフトなどを含む)
応募資格：高校生及び高等専門学校生
応募締切り：8月29日 (必着)
応募・お問い合わせ先：〒163-8677 東京都新宿区西新宿1-24-2
工学院大学企画室 デジタルアートコンテスト係
TEL: 03-3340-0339 FAX: 03-3345-0228
E-mail: digitalart@ac.kogakui.ac.jp

応募方法：応募用紙に記入の上で応募してください。
応募用紙は、www.kogakui.ac.jpに掲載されているデジタルアートコンテスト用
ホームページへアクセスし、ダウンロードしてください。
審査：2007年9月22日 (土)
工学院大学新宿キャンパスにて当コンテストの公開審査会を開催いたします。
詳細につきましては、上記、工学院大学HPよりご確認ください。

賞：最優秀賞2点	奨学金：各5万円
優秀賞4点	奨学金：各3万円
審査員特別賞2点	奨学金：各1万円
学校賞	奨学金：10万円 (総額)

2007 DIGITAL ART CONTEST

2012

工学院大学
KOGAKUI UNIVERSITY

9. 工学院大学学外研修（インターンシップ）成果発表会

工学院大学
学外研修（インターンシップ）成果発表会

記

日 時 平成19年11月21日（木）
午前の部 9:30～13:00
午後の部 14:00～17:30
（開始30分前より受付を開始いたします）

場 所 東京都新宿区西新宿1-24-2 工学院大学
新宿キャンパス高層棟 8階

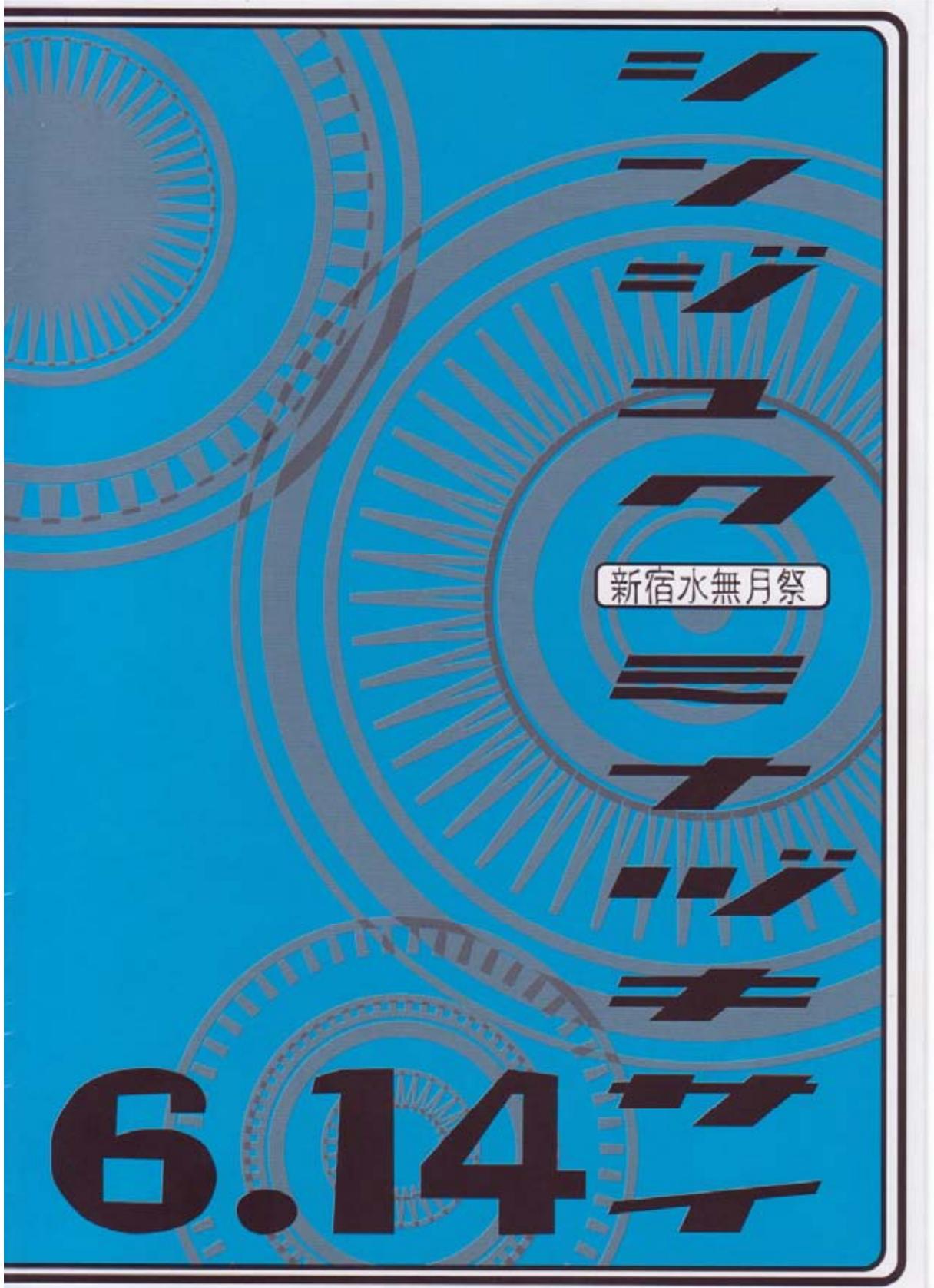
【最寄り駅】

JR線、小田急線、京王線、地下鉄丸の内線・・・新宿駅西口（徒歩5分）
地下鉄大江戸線・・・都庁前（徒歩2分）

この件に関するお問い合わせ先
工学院大学 教務部新宿教務課（ ■・■ ）
電話03-3340-0129 FAX 03-3342-5304
E-mail ■■■■■@■.kogakuin.ac.jp
■■■■■@■.kogakuin.ac.jp

10 . KOGAKUIN UNIVERSITY 58th SHINJYUKU FESTIVAL

11. シンジュクミナヅキサイ 新宿水無月祭



12. プレ八王子祭

第36回

**八王子～新宿間
歩け歩け大会!**

5月18日(日)

0:00スタート

集合 23:30
1号館前

**PSP
ディズニー
ペアチケット
もらえるかも!!**

参加者募集!!

5月7日(木)～当日

昼休み アンフイーにて

参加費 ¥1000円 (保険代)

第46回八王子祭実行委員会

13. 八王子祭



14. 体育祭

2007年10月27日(土)

★★★★★ ※雨天等の場合、予備日28日(日)

体★育★祭



★ 競技種目★

ソフトボール
フットサル
ドッジボール

参加者求む!!!



★ 詳細は申し込み用紙を参照して下さい★

15. 地震防災・環境研究センター（EEC）研究成果報告会

日時 平成19年 **5月26日**(土)
12:30～17:30

会場 工学院大学新宿校舎
大学棟6階

当日は下記研究課題のもと、約50件の小テーマによる研究成果報告会です。
4つの会場でテーマ別に同時進行となります。
ご自由にご参加ください。

研究プロジェクト名

研究成果報告会

地震防災および環境共生に関する新技術の応用に関する研究

文部科学省学術フロンティア推進事業（平成18年度～20年度）
工学院大学総合研究所

第1会場 12:30～17:30 **教室** 0652
I-1：建築物の地震防災新技術の応用研究

第2会場 13:00～17:20 **教室** 0615
I-2：機械機器の地震防災技術の応用研究
I-3：電気機器・電力供給システムの地震防災技術の応用研究

第3会場 13:00～17:20 **教室** 0656
II-1：環境共生型建築生産技術の応用研究
II-2：環境共生型居住環境技術の応用研究

第4会場 13:00～17:00 **教室** 0611
III-1：地震防災と環境共生のまちづくりに関する研究
III-2：地震防災対策と投資効果に関する研究

- 懇親懇談会：17:30～19:00
- 会場：大学棟 第一会議室（28階）
- ご参加いただくにあたりましてはすべて無料です。

TOKYOURBANTECH
工学院大学

お問い合わせ先・お申込み先
工学院大学総合研究所事務局
〒163-8677 東京都新宿区西新宿1-24-2
Tel.03-3340-3440 / Fax.03-3345-0228
<http://www.kogakuin.ac.jp/>
（ホームページに新宿キャンパスアクセスマップ掲載）

キ リ ト リ 線

EEC参加票（恐れ入りますが5月22日（火）必着でお願いします。当日受付可）

氏 名	住所・所属等	TEL 又は FAX

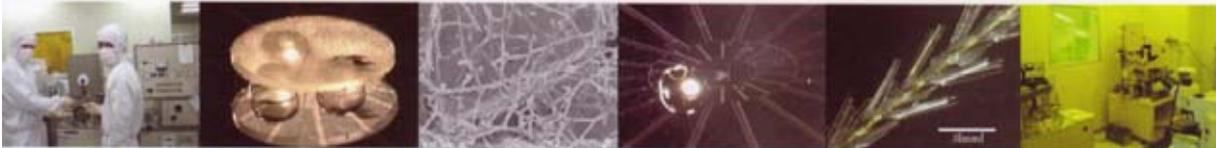
16. マイクロ先進スマート機械・マイクロバイオシステム研究センター（SMBC） 研究成果最終報告会

文部科学省ハイテク・リサーチ・センター整備事業(平成15年度～平成19年度)
工学院大学総合研究所

**マイクロ先進スマート機械・
マイクロバイオシステム研究センター (SMBC)
研究成果最終報告会**

日時 平成20年 **3月8日** (土), 13:00～17:00

会場 工学院大学新宿校舎
アーバンテックホール (3F) **参加無料**



当日は下記大テーマのものの複数の小テーマによる研究成果報告会です。

大テーマ	研究責任者
① 機能性マイクロ機械要素・デバイスの開発と特性評価	マテリアル科学科教授 木村 雄二
② 3次元マイクロ・ナノ形状加工技術開発に関する研究	機械創造工学科特専教授 畑村 洋太郎
③ マイクロ環境下システム・要素の特性評価診断技術の開発研究	機械工学科教授 小久保 邦雄
④ マイクロエネルギーシステムに関する研究	機械工学科教授 小泉 安郎
⑤ マイクロ環境下フルイディクデバイスの開発研究	機械システム工学科教授 廣木 富士男
⑥ マイクロシステム統合化技術	機械システム工学科教授 小林 光男

◎懇親懇談会 17:15～18:30 会場：生協食堂（中層棟7F）
◎報告会参加：無料 ◎懇親懇談会：無料

お問い合わせ先・お申込み先
工学院大学総合研究所事務局
TEL. 03-3340-3440 FAX. 03-3345-0228
〒163-8677 東京都新宿区西新宿1-24-2
<http://www.kogakuin.ac.jp/>
(ホームページに新宿校舎アクセスマップ掲載)



工学院大学
KOGAKUIN UNIVERSITY

TOKYO URBANTECH KOGAKUIN UNIVERSITY

17. 第2回ナノ表面・界面研究センター（NASIC）研究成果報告会

文部科学省
ハイテク・リサーチ・センター整備事業
(平成17年度～平成21年度)



● 工学院大学総合研究所 ●

**第2回 ナノ表面・界面研究センター(NASIC)
研究成果報告会**
(Nano Structured Surfaces and Interfaces Research Center)

開催日時
平成20年 **3/21 (金)**
13時00分～17時00分

会場
八王子校舎
15号館(Cキューブ) 208教室

懇親懇談会
八王子校舎15号館(Cキューブ) 15-106教室
(17時10分～18時30分)



報告分野(分野責任者)

「生体機能とナノテクノロジー」
マテリアル科学科教授 **橋本 和彦**

「ナノ薄膜」
電気システム工学科教授 **鷹野 一郎**

「ナノ界面」
機械システム工学科准教授 **鈴木 健司**

「ナノ粒子」
マテリアル科学科教授 **門間 英毅**

「デバイスへの応用」
情報通信工学科教授 **齋藤 進**

お問い合わせ先・お申込み先
工学院大学総合研究所事務局 〒163-8677 東京都新宿区西新宿1-24-2
Tel. 03-3340-3440(直) Fax.03-3345-0228

工学院大学八王子校舎案内
〒192-0015 東京都八王子市中野町2665-1 JR八王子駅からバス20分、工学院大学下車

NASIC参加票 (恐れいりますが3月18日(火)必着をお願いします。尚、当日受付可)

氏名	住所・所属等	TEL又はFAX

18. 工学院大学総合研究所プロジェクト研究成果報告会

平成19年度工学院大学総合研究所

プロジェクト研究成果報告会

学内研究者が中心となり、
外部機関の研究者と実施した共同研究の成果報告会です。
今年度は3～4年間にわたった継続研究で
平成18年度に終了したプロジェクト研究**6**テーマの
研究成果を報告いたします。

日時 平成19年**12月8日(土)** 13:00～17:10
会場 新宿校舎 0542教室 (高層棟5階)

発表テーマ

生分解性を有する乳化燃料のディーゼルエンジンへの高度利用に関する研究
田中 淳 彦 (機械工学科講師)

電界放出用電極の放電瞬時成形法に関する研究
武 沢 英 樹 (機械製造工学科准教授)

微小液滴を伴う空気冷却(ミスト冷却)における熱工学特性に関する研究
大 竹 浩 靖 (機械工学科准教授)

憲法と制度改革:国際化と地域化の市民生活への影響に関する研究
長 谷 川 憲 (共通課程教授)

コンビニエンスストア強盗抑止のための防犯環境設計支援エキスパート
システムの構築
村 上 正 浩 (建築学科准教授)

CAD利用技術向上のための空間計画及び情報教育環境の整備に関する研究
安 原 治 機 (建築都市デザイン学科教授)



お問い合わせ先
工学院大学総合研究所事務局
〒163-8677 東京都新宿区西新宿1-24-2
Tel. 03-3340-3440(直) Fax. 03-3345-0228
<http://www.kogakuin.ac.jp/> (ホームページに詳細キャンパスアクセスマップ掲載)

工学院大学
KOGAKUIN UNIVERSITY

19 .(国際シンポジウム) ISAT 6th



20. 学校法人工学院大学学園創立120周年記念表彰式



学校法人工学院大学
学園創立120周年記念表彰式

- 日時 平成19年10月31日(水) 10時30分～12時
場所 工学院大学新宿校舎3階 アーバンテックホール
- 次第
- 1 開式
 - 2 理事長挨拶
 - 3 永年勤続者表彰並びに感謝状贈呈
 - 4 成績優秀学生・生徒表彰
 - 5 学園表彰
 - 6 大学表彰
 - 7 スポーツ奨励表彰
 - 8 中学校・高等学校生徒表彰
 - 9 125周年ロゴマークデザイン案コンテスト表彰
 - 10 名誉賛助員及び賛助員称号贈呈
 - 11 閉式

21. 120周年創立記念日シンポジウム



生活のなかの 危険と安全を考える

120周年
創立記念日
シンポジウム

日時
平成19年 **10月31日** 水
13:30~16:30

会場 工学院大学
新宿キャンパス3階 アーバンテックホール

基調講演

- 「身の回りに潜む危険 一失敗学から危険学へ」
畑村洋太郎 (工学院大学 グローバルエンジニアリング学部
機械創造工学科教授)
- 「鉄道事故 一利用者から見た鉄道への不安」
曾根 悟 (工学院大学 エクステンションセンター長)
- 「大震災と安全 一想定される地域と建物の被害」
久田嘉章 (工学院大学 工学部建築学科教授)

コーディネーター
高 英雄 (工学院大学 工学部建築都市デザイン学科教授)

●新宿キャンパス案内図●



ACCESS

- ・JR「新宿駅」下車、西口より徒歩5分
- ・京王線、小田急線、地下鉄有楽町線「新宿駅」下車、徒歩5分
- ・都営大江戸線「都庁前駅」下車、徒歩3分
- ・西武新宿線「西武新宿駅」下車、徒歩10分

TOKYO URBAN TECH
工学院大学

工学院大学 教務部学務課 TEL.03-3340-0128 (直通)
〒163-8677 東京都新宿区西新宿1-24-2 <http://www.kogakuin.ac.jp/>

22. 知財・国際シンポジウム

日時

2007年 **12月8日(土)**

第1部
シンポジウム 13:00~17:45 (開場12:00)
工学院大学新宿キャンパス 高層棟3階 アーバンテックホール

第2部
情報交換会 18:00~19:00
工学院大学新宿キャンパス 中層棟8階 ファカルティクラブ

講演

【テーマ】WTO加盟における知財保護の現状
Ms. LE THI QUYNH NHU
Official of Legislation and Policy Division,
National Office of Intellectual Property of Vietnam

【テーマ】貿易投資と知財保護
魏 啓学 氏
北京林達劉知識産権代理事務所 共同経営者 弁護士・弁理士
工学院大学CPDセンター客員教授

【テーマ】戦略的知財とは
中島 淳 氏
日本弁理士会会長 / 太陽国際特許事務所 所長 弁理士
工学院大学CPDセンター客員教授

【テーマ】自動車業界における知財の将来戦略
江崎正啓 氏
トヨタ自動車株式会社 理事 知的財産部主査

【テーマ】食の安全
劉 新宇 氏
北京林達劉知識産権代理事務所 所長 弁理士
工学院大学CPDセンター客員教授

知財・国際シンポジウム

「知財保護と戦略」

過去数年間平均7%を上回るアジア有数の高い経済成長を続けており、その成長率はインドをも上回り、またWTOへ加盟したことにより今後も高い成長率が続くことが予測されているベトナム、中小企業においても経済交流がますます深化し続けている中国、知財立国の実現に向けて急速な進展を遂げている日本から、知財の専門家を招いて、「知財保護と戦略」のシンポジウムを開催します。

**参加無料
先着300名**

聴講ご希望の方は、氏名、職業をご記入の上、E-mailまたはFAXでお申し込みください。



〒163-8677 東京都新宿区西新宿1-24-2
Tel.03-3340-0359 / Fax.03-3345-0228
E-mail : office@cpd.kogakuin.ac.jp



工学院大学
125th Anniversary
Engineer our Future
2012

TOKYOURBANTECH

工学院大学

（お問い合わせ先）
学校法人工学院大学 企画室

23. 工学院大学エクステンションセンター：秋・冬講座のご案内

工学院大学エクステンションセンター 秋・冬講座のご案内

秋・冬講座一覧

講座名(回数)	曜日	時間	開始日
毎日学ぶネイティブ英会話(50回)	月～金	時間は曜日毎の選択制	9月25日
CISSP資格取得講座(20回+模擬試験1回)	月・水	18:30～20:30	10月1日
初歩から学ぶJw_cad(12回)	水・金	18:00～21:00	11月2日
パソコン講座A(3回)	火・木	13:30～15:30	11月6日
パソコン講座B(3回)	火・木	10:30～12:30	11月6日
メタボリックシンドロームと糖尿病(2回)	火	18:30～20:00	11月6日
物質と宇宙の究極を探る(4回)	木	18:00～19:30	11月8日
成長中国の実像を探る(6回)	土	14:00～15:30	11月10日
ソーラーカーの開発とエネルギー利用(1回)	土	14:00～15:30	11月17日
世界的映画監督『成瀬巳喜男』の魅力を探るシンポジウム(1回)	土	14:00～16:30	2008年 1月12日
2級建築士講座(25回)	日・祝	10:00～17:15	2月3日
GIS・GPSの実用的利用(4回)	土	14:00～15:30	3月1日

24 . エクステンションセンター開設記念特別講演会

エクステンションセンター

開設記念特別講演会

失敗学のすすめ

主催：工学院大学エクステンションセンター

2007年9月14日

於：工学院大学アーバンテックホール

工学院大学

機械創造工学科

教授 畑村洋太郎

25. 「セキュアシステム設計技術者の育成」プログラム成果発表会

文部科学省科学技術振興調整費 新興分野人材養成プログラム
 「セキュアシステム設計技術者の育成」プログラムシンポジウム


 Engineer our Future
2012

「セキュアシステム設計技術者の育成」 プログラム成果発表会

日時：平成19年12月15日(土) 14:00～18:00
会場：工学院大学新宿キャンパス 3F アーバンテックホール

21世紀の高度情報化社会の発展の中で、社会インフラを支えるシステムの大規模化、ネットワーク化は、これまでにない新たなリスクをもたらすこととなり、日常生活をおびやかすほどになっています。本プログラムでは業務の効率化に並行して組織の説明責任を支援する情報システムの設計、構築、運用がリードできる設計技術者を、平成15年度から5年計画で育成してまいりました。シンポジウムでは、設計技術者を育成する実践的カリキュラムの実施成果について、以下の観点から報告致します。

講演者

1. セキュアシステム設計技術者育成の方針と実施結果
2. PBL(Project Based Learning) を中心とした実践型教育
3. セキュアシステム設計技術者への期待

入場無料
先着300名
要申込

「セキュアシステム設計技術者の育成」プログラム

- ① 概要・人材育成方針と主な成果
小野 諭 工学院大学大学院工学研究科 教授
- ② PBLの概要と進め方
小西 克巳 工学院大学情報学部 講師
- ③ PBLの評価
立川 崇之 工学院大学CPDセンター 講師

IT 統制と情報セキュリティ監査
大木 栄二郎 工学院大学情報学部 教授

セキュアシステム設計技術者への期待
田尾 剛一 セコム株式会社 顧問

情報交換会
工学院大学 中階棟 8F ファカルティクラブ 18:00～20:00

詳細は随時、工学院大学CPDセンター Web ページ
<http://www.cpd.kogakuin.ac.jp/>
 に掲載していきます。



主催
学校法人工学院大学CPDセンター

申込方法
申込はメール、またはFAXで下記へ氏名および職業を記入して送信して下さい。受付の返信をいたします。

お問い合わせ先
学校法人工学院大学 企画室
〒163-8677
東京都新宿区西新宿1-24-2
TEL.03-3340-0359
FAX.03-3345-0228
URL: <http://www.kogakuin.ac.jp/> E-mail: sympo2007@cpd.kogakuin.ac.jp



工学院大学

26. 地震防災訓練

学校法人工学院大学 (2007年12月6日)
 工学院大学新宿高層キャンパスにおける地震防災訓練の案内 (見学者用)

大規模地震が都市部で発生した場合、警報・消防など公的機関による救護や消火活動は期待できず、地震時にはまず各自が自らの安全を確保し、次に学内にいる学生と教職員がともに協力し、災害対策本部を立ち上げ、初期消火・怪我人の搬送・重傷者の搬送、閉じ込め者の救出などの応急対応、低層階への避難、学生・教職員の安全確認、外部からの流入者への対応などを行うことが必要となります。また、大規模災害の直後には交通機関の麻痺、延焼火災や治安の悪化などから、大多数の学生・教職員は帰宅困難となり、教日間は学内に滞在せざるを得ない状況になると考えられます。そのような被害を想定し、都心に高層校舎を持つ大学として実践的な防災訓練を実施いたします。

日時：2007年12月6日 15時30分～18時
 見学・取材の場合は、15時までに1階受付にお集まりください。15時30分以降はエレベーターが停止するため、上層階での見学は不可能になります。
 場所：工学院大学新宿キャンパス

主な訓練内容 (地震防災訓練)：
 ① 緊急地震速報・リアルタイム地震観測システムの活用訓練：15時30分から5分程度緊急地震速報を活用し、地震動が到達する直前にエレベーターが最上階へ自動停止します (エレベーター停止は約1時間続きます)。続いてリアルタイム地震観測システムによって新宿校舎の被害状況をモニタリングし、安全の確認やパニック防止を目的とした館内アナウンスを行います。この間、電灯は消え、非常灯が点灯します。なお本訓練における緊急地震速報は、独立行政法人防災科学技術研究所より提供を受けております。

→ 場所：防災センター：STEC情報ビル (新宿より隣りのビル) の地下1階
 ② 発災対応型防災訓練：15時35分から16時30分 (高層階のみ実施)
 14階以上の高層階の学生・教職員を対象として、地震直後の発災状況 (火災・発煙・重傷者・閉じ込め発生など) を作り出し、教職員と学生との協働による応急対応訓練 (初期消火・AED・応急手当・バーン・ハンマー利用など) を実施し、対応した状況は各学科事務室 (6箇所) で集約され、防災センターおよび災害対策本部に連絡される予定です (この間、約25分)。その後、重傷者の低層階への搬送、および学科単位にて中層階の指定された避難場所 (5～8階) への避難訓練を行い、安全確認やアンケート調査を実施します (16時半に終了)。

→ 場所：高層棟14階以上 (28階・20階を除く)
 ③ 講義型防災訓練：15時35分から16時30分 (中層階のみ実施)
 11階以下の中層教室階の学生・教職員を対象として、指定された避難場所 (3～6階) に避難し、地震への備えや対応法などを内容とする講演会を行います。その後、安全確認・アンケート調査を実施します (16時半に終了)。講演は橋本俊夫氏 (東京都・総合防災部・防災管理課)、藤林文男氏 (新宿区・区長室・危機管理課)、中川和之氏 (時事通信社) を予定しています。

→ 場所：3階アバンホール (菊池氏)、5階542号室 (藤林氏)、6階652号室 (中川氏)
 ④ 体験型防災訓練：15時35分から18時 (1階・広場、B1および4階にて実施)
 1階アトリウムにてAED、応急救護、救助・救出、初期消火、伝送トイロ設置の訓練、パネル展示、1階広場にて消火器使用および起震車による地震動体験、地下1階にて吹き出し、4階廊下にて団体運動などの訓練を実施します。本訓練では東京消防庁・新宿消防署および日本赤十字社・東京都支部の協力を頂いております。

→ 場所：1階アトリウム (展示・AED・救護など)、南口広場 (応急訓練)、広場 (消火器、救出) (地下1階)
 ⑤ 発災直後に本学学長・理事長をトップとする総務員による災害対策本部を2階JOB Stationに立ち上げます。災害対策本部の総務員と入手される内外の災害情報をもとに、被災状況の把握、方針の決定、重傷者や火災・安全確認、帰宅困難者・流入者等への対応を行い、発災直後を想定した緊急対応訓練を実施します。

→ 場所：2階JOB Station
 ⑥ その他の実働的訓練：15時30分から18時
 上記訓練と平行して、下記の先端的な実働を実施します。

・アクティブタグ (電池内蔵型ICタグ) による仕組・避難状況のリアルタイム把握実験：
 学生証にアクティブタグを利用し、学生の仕組・避難状況を災害本部にてリアルタイムに把握する実験を行います。本実験は独立行政法人 情報通信研究機構との共同で実施します。
 ・Webタグ・IP電話・FAXによる情報収集・伝達・共有実験：
 本部、防災センター、警備室、高層階事務室、本学八王子校舎の間をWebタグおよびIP電話・FAXで結び、互いの状況を伝達・共有する実験を行います。本実験は総務省消防庁消防大学校 消防研究センターとの共同で実施します。
 ・学生・教職員がアンケートによる周辺被害情報の収集実験：
 帰宅困難者となる大学の学生・教職員をボランティアとして活用し、ICTを活用した新宿周辺での地域被害状況把握、鉄道・ライフラインなどの情報を収集する実験を行います。本実験は独立行政法人 情報通信研究機構との共同で実施します。
 ・被災地外部からの広域的な実被害情報の提供と共有実験：
 被災地外部 (相模市) に情報共有サーバを設置し、NPO・情報ボランティアとの協働による新宿やその他の首都圏における広域的な災害関連情報を集約・提供する実験を行います。本実験は大妻女子大学および皇様女子短期大学との共同で実施します。

→ 場所：2階JOB Station
 講師：本訓練は、文部科学省・学術7077事業・工学院大学地震防災・震害研究センター、科学研究費・基礎研究、国土交通小・建設技術研究開発費による補助金を頂いております。

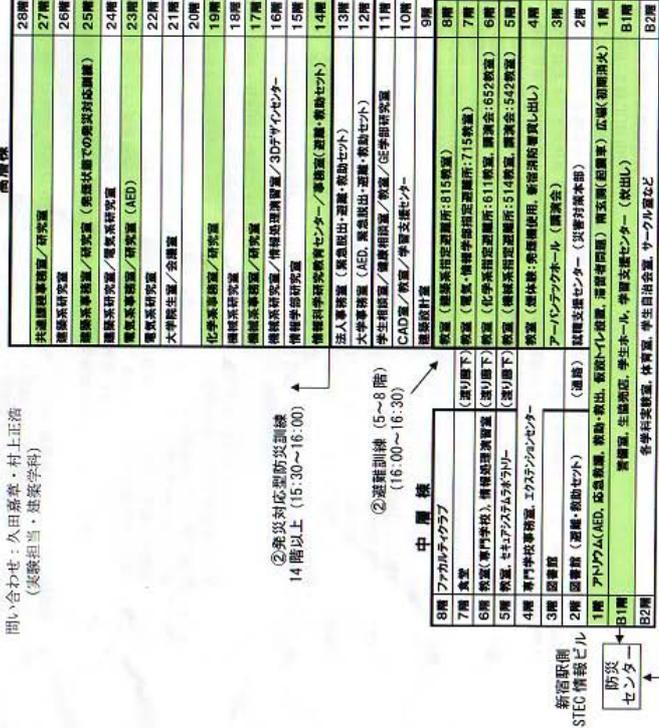


図1 工学院大学地震防災訓練における案内

27. 地域交流シンポジウム & 工学院大学学生センター竣工記念

地域交流シンポジウム
&
工学院大学学生センター竣工記念

産学公連携

大学はいかに
地域に貢献出来るか
その方策を探る

参加無料
先着300名
(要申し込み)



2008年
1月17日 木 13:00~16:30 (交流会17:00~18:30)

八王子キャンパス
学生センター いぶきホール

開会挨拶

三浦 宏文 氏 (工学院大学学長)
滝本 徹 氏 (経済産業省関東経済産業局総務企画部長)
黒須 隆一 氏 (八王子市長)
船津貞二郎 氏 (社団法人研究産業協会専務理事・事務局長)

基調講演

地場産業の創造と育成に果たす大学の役割と期待
河本 洋次 氏 (相模原商工会議所会頭 東邦電子株式会社取締役会長)

**中小企業における
特許戦略と大学保有特許が果たす役割**
中島 淳 氏 (日本弁理士会会長 太閤国際特許事務所所長)

**工学院大学における
ベンチャー起業戦略とアントレプレナー教育**
水野 明哲 氏 (工学院大学副学長・工学部教授)

パネルディスカッション

●テーマ
**産学公連携
大学はいかに地域に貢献出来るか その方策を探る**

●パネリスト

井深 丹 氏 (クマティールエルオー株式会社代表取締役社長)
甲谷 勝人 氏 (サイバーシルクロード八王子会長)
岡崎 英人 氏 (社団法人首都圏産業活性化協会 (TAMA産業活性化協会) 事務局長)
安田 耕平 氏 (電気通信大学TLO 株式会社キャンパスクリエイティブ代表取締役社長)
伊藤 伸 氏 (東京農工大学TLO 農工大ティールエルオー株式会社代表取締役社長)
本目 精吾 氏 (株式会社エリオニクス代表取締役社長)
上野 保 氏 (東成エレクトロビーム株式会社代表取締役社長)

●モデレータ
木村 雄二 氏 (工学院大学総合研究所所長・工学部教授)

■当日は11時から研究センターの見学会も行いますのでご参加ください。

●お問い合わせ
参加ご希望の方は、氏名、職業と産学公連携・シンポジウム・交流会それぞれの参加希望をご記入の上、E-mailまたはFAXでお申し込みください。返信の返信をいたします。 E-mail: office@cpd.kogakuin.ac.jp
FAX: 03-3345-0228 (FAXでお申し込みの場合は必ずFAX番号をご記入ください。)

●お問い合わせ
工学院大学地域交流シンポジウム実行委員会 〒163-8677 東京都新宿区西新宿1-24-2
TEL: 03-3340-0398 E-mail: office@cpd.kogakuin.ac.jp

主催：工学院大学地域交流シンポジウム実行委員会 (工学院大学、八王子商工会議所、相模原商工会議所、クマティールエルオー株式会社、社団法人首都圏産業活性化協会 (TAMA産業活性化協会)、社団法人研究産業協会)
後援：経済産業省関東経済産業局、八王子市、日本経済新聞社、工学院大学産学フォーラム

KEIRIN

00

この事業は、競輪の補助金を
受けて実施するものです。
<http://ringring-keirin.jp/>



QRコードを携帯で読み取る
携帯サイトに簡単に
アクセスできます。

28. キャリアデザイン講座

1・2年生対象 キャリアデザイン講座開催

将来の夢を実現するために、自分を知り、自分らしさを表現する力を磨きましょう。
講義形式でなく、楽しく参加できる演習形式で、各回の内容は独立しているため、興味ある講座のみの参加でもOKです。

◆日程:

- 前期第一講 5月30日(水)
自分に自信がつく自己分析①
- 前期第二講 6月27日(水)
コミュニケーションスキルアップ①
- 前期第三講 7月11日(水)
コミュニケーションスキルアップ②
- 後期第一講 9月26日(水)
自分に自信がつく自己分析②
- 後期第二講 10月24日(水)
プレゼンテーションスキルアップ①
- 後期第三講 11月28日(水)
プレゼンテーションスキルアップ②
- ◆時間: 全て 5時限目 16:30～18:00
- ◆会場: 全て八王子校舎15号館206教室

主催: 工学院大学就職支援センター
協力: (株)トウルーキャリア

キャリアデザイン講座開催 学部1・2年次対象

将来の夢を実現するために、自分を知り、自分らしさを表現する力を磨きましょう。
講義形式でなく、楽しく参加できる演習形式で、各回の内容は独立しているため、興味ある講座のみの参加でもOKです。

◆日程:

- 前期第三講 9月19日(水)
コミュニケーションスキルアップ②
- 後期第一講 9月26日(水)
自分に自信がつく自己分析②
- 後期第二講 10月24日(水)
プレゼンテーションスキルアップ①
- 後期第三講 11月28日(水)
プレゼンテーションスキルアップ②
- ◆時間: 全て 5時限目 16:30～18:00
- ◆会場: 全て八王子校舎15号館206教室

主催: 工学院大学就職支援センター
協力: (株)トウルーキャリア

29. 公務員通年講座、エントリーシート対策講座

途中参加大歓迎です！！

公務員通年講座 申込受付中！

9月28日(金)開講

全15回

テキストサンプルが就職支援センター窓口にあります
内容は教養対策が中心です。

1, 2年生もOK！！

申込用紙は就職支援センター(新宿、八王子)及び
新宿校舎地下1階掲示板前にあります。

主催: 就職支援センター 協力: 東京アカデミー

学部3年生・修士1年生の皆さんへ

PART 1

エントリーシート対策講座

第一関門突破のコツを伝授！！

10月11日(火)5時限目

16:20~17:50

新宿校舎1階アトリウム

この講座に関連し、10月29日(土)にエントリーシート模擬試験が行われます。
あわせて参加しましょう。PART 2は12月12日(月)の予定です。

就職支援センター

30. 就職マナー・面接対策講座、模擬面接講座

学部3年生・修士1年生のみなさん

『就活マナー講座』『面接対策講座』 開催のお知らせ

就職活動を目前に控え、『就活マナー講座』および『面接対策講座』を開催します。自信を持って本番に臨めるよう、ぜひ2講座通して受講してください。

この2つの講座の内容は独立しているため、どうしても時間の都合がつかない方はどちらかのみの参加も可能です。

12月1日(土) 新宿校舎アーバンテックホール

13:00～14:30 『就活マナー講座』

就職活動に必要な基本的なビジネスマナーを、具体例をあげてわかりやすく説明します。企業訪問時に最低限知っておくべき行動、コミュニケーションの取り方についても確認します。

就職活動だけでなく、社会人になってからも役立つ内容です。

14:40～16:10 『面接対策講座』

面接試験で自信を持って自己PRできるよう、ポイントをお伝えします。この講座に参加して、面接試験への苦手意識を払拭しましょう！
代表者による模擬面接も行い、グループ面接試験の様子を見ていただきます。

就職支援センター

模擬面接講座開催のお知らせ

以下のおと、模擬面接講座を少人数制にて開催します。面接試験の受け答えを実際に体験して講師からフィードバックを受けるだけでなく、他の参加者の面接の様子を見て評価することで、自分自身への振り返りにもつながります。

参加希望者は、新宿・八王子のJOB STATIONで配布している「模擬面接用エントリーシート」に事前に記入し、当日会場に持参してください。

※都合のいい日にちにちに参加してください。(各日先着12名)
※少人数制のため、先着順とさせていただきます。参加希望日に直接会場にお越しいただき、番号札を受け取ってください。事前受付はしませんので、ご了承ください。

◆ 新宿校舎

日にち: 2/13(水)、18(月)、25(月)、27(水)、
3/3(月)、5(水)、10(月)、12(水)

時間: 16時20分～17時50分

場所: JOB STATION 隣の会議室

◆ 八王子校舎

日にち: 2/22(金)、29(金)、3/7(金)

時間: 16時30分～18時

場所: JOB STATION 前のフォーラム

就職支援センター

平成19年度
工学院大学 産学懇談会

平成19年12月5日(水)



KOGAKUIN
UNIVERSITY
TOKYO URBAN TECH

工学院大学 就職支援センター

プログラム

日時 平成19年12月5日(水) 16:30~19:00
場所 京王プラザホテル 本館5階 コンコードボールルーム

--- 次 第 ---

- 受付 16:00~16:30
- 本学からの挨拶 16:30~17:00
- 学 長
- 工学部長 代理 副学長
- グローバルエンジニアリング学部長
- 情報学部長
- 就職支援センター所長
- 三浦 忍 文
- 水野 明 哲
- 古 屋 博 二
- 小 柳 義 夫
- 横 山 修 一
- 懇 談 会 17:00~19:00
- 校 務
- 理 事 長 大 橋 秀 雄
- 校 長
- 企 業 代 表 株式会社 [REDACTED] 社長
- 懇談会(情報交歓会)
- 閉 会

平成20年3月卒業・修了予定者対象

工学院大学 産業研究会

日程:2月1日(木)、2日(金)、3日(土)、27日(火)、28日(水)

《参加企業が異なります》

時間:13時半～16時半 場所:新宿校舎 1階アトリウム



※ 企業データは各企業からのアンケート回答をそのまま掲載しました。募集対象学科は●で表示しています。

※ 2月1日、2日は、事前説明会(参加企業に関する情報等)を、各日13時より30分間開催する予定です。学生はまずこちらに出席してください。会場は、1日はURBAN TECH HALL(3階)、2日は0514教室です。3日の参加企業に関する情報等は、1日・2日に併せて行います。

主催:就職支援センター

31. F Dシンポジウム (第 16 回 ~ 第 18 回)
 大学院 F Dシンポジウム (第 3 回 ~ 第 5 回)

第 17 回 F Dシンポジウム
工学院大学の教育改革を考える
シンポジウムのお知らせ

とりわけ「教育改革の目的・現状・効果」を中心に
「教育改革を考える」

工学院大学では、これまで教育改革の議論を進め、中央教育審議会が、「少子化と大学志願率の低下で大学・短大の進学希望者数と、大学の合格者数及び 2007 年度に同じになる」と指摘し、高等教育の課題のキャリアを修了した学生が入学する状況に緊急し、大学の教育内容・教育効果を、このような現状を踏まえたものとするため、教育改革、導入教育の意義と現状、教員役割と教育方法などをテーマとした F D 活動を開催いたします。

今回は「教育改革の目的・現状・効果」を主題として、教育改革を中心に、それに限定せず、本学教育の現代性意義、大学の教育力向上の必要性などについて、OEC D で検討中の「大学生の学修到達度の評価」(PISA-H E) などにも触れながら即座に提起していただくことを考えています。議題には、文部科学省が中等教育局長兼高等学校校長、国立国会大学事務局長、文部科学省大正官房総務課長、京都大学理事・副学長を経て、現在立命館大学校長・立命館大学教務の本間政雄先生をお迎えし、多岐にわたるご意見を伺った学生が入学する現状の下で、全学的な教育改革の効果を上げるためのノウハウを検討したいと考えています。

関心のある方は、教員、職員、学生を問わず、どなたでも自由にご参加下さい。

日時：2007 年 11 月 19 日 (月) 16 時 30 分 ~ 18 時 30 分 (教務総会終了後)
 場所：工学院大学新館総合 基盤棟 2.8 階 第 1・2 会議室
 〒 663-6677 新館区西新館 1-24-2 TEL09-3342-1211(代) JR 新沼野西口徒歩 5 分
 (西口を出て都庁方面：http://www.kogakuin.ac.jp/map/shinjuku/index.html 参照)

プログラム
 挨拶：三浦 宏文 (工学院大学長)

報告：「教育改革の目的・現状・効果」
 本間 政雄 (立命館副総長(新総務・副総務)・立命館大学教務(高等教育政策)課長 兼、大学研究員)・名古屋大学各員教授)

総合討論：「全入時代における教育改革の目的・現状・効果を考える」

閉会挨拶：水野 明哲 (工学院大学副学長・工学部機械工学科教授)
 司会・コーディネーター：長谷川 薫 (工学院大学工学部長通課程教授)

問い合わせ先
 工学院大学工学部長通課程社会研究課 (長谷川 薫)
 電話 03-3340-2504 / メール f186011@ns.kogakuin.ac.jp

2007 年 10 月
教育委員会委員長
宇田川 亮弘

第 16 回 F Dシンポジウムのご案内

2007 年度前期、「機械工学基礎演習」(機械工学科 1 年) および「機械システム工学基礎演習」(機械システム工学 1 年) の機械系基礎演習科目 2 科目において、英通課程の協力を得て少人数での導入教育を試みた。今回のシンポジウムでは、その報告を行う。

記

日時：2007 年 10 月 29 日 (月) 15:30 ~ 16:00
 (第 758 回教授総会内で開催)

会場：第 1 会議室
 テーマ：「機械系学科の導入教育について」

＜進行予定＞

1. 発表 工学院大学の導入教育
 : 水野 明哲 (副学長・機械工学科教授)
2. 発表 「機械工学基礎演習」における導入教育
 : 佐藤 芳樹 (機械工学科教授)
3. 発表 「機械システム工学基礎演習」における導入教育
 : 大石 久己 (機械システム工学 1 年専攻教授)
4. 発表 共通課程担当教員からの報告
 : 藤田 由美 (共通課程一般教育部 (社会) 准教授)
 : 和田 潤子 (共通課程外国語科講師)
5. 質疑

31. F Dシンポジウム(第16回~第18回)
 大学院F Dシンポジウム(第3回~第5回)

第18回FDシンポジウム

工学院大学の教育改革を考える
 シンポジウムのお知らせ

とりわけ「導入教育の意義と目的・効果」を中心に
 「導入教育を考える」

工学院大学では、これまでの教育改革の議論を止めてきませんでした。とりわけ「少子化と大学改革」の両面から、個々の教育者や研究者、大学の合格者層が2007年度に迎える「2010年中央教育審議会」の議論の下、新課程のカリキュラムを修了した学生が入学に在籍する現状を踏まえ、教育内容を改善し、教育の質を上げるため、教育改革、導入教育・補習教育・キャリア教育の意義、教員の役割と教育方法の改善などをテーマとしたFD活動を積極的に進めてまいりました。大学教育は、現状を踏まえ、常に改善してゆく必要があります。

今回は「導入教育の意義と目的・効果」を主題として、導入教育を中心に、大学教育への適用の意義、その間の教員の教育力向上の必要性などの問題について、導入教育の本来的な目的とともに、工学部を目指す学生への現状や工学部の側での取り回しの状況などを紹介させていただきます。問題を検討したいと考えています。講師には、ベネッセ教育開発部員で、高校教育の進捗や近年教育の動向などに長年取り組んでおられ、大学教育への適応や人材育成に携わる「SOCIAL SKILLS」・「基礎的学習スキル」の養成、専門教育への導入教育、本課程科目教育が修得が前提とされた単位などを提供する「リメディアル教育」なども位置づけられる近年教育の動向に詳しい山本知和子氏をお迎えし、多様な学力・可能性を持つ大学生に入学の機会を設けている現状の下で、「導入教育」の意義により教育の効果を上げるためのノウハウを検討したいと考えています。

関心のある方は、教員、職員、学生を問わず、どなたでも自由にご参加下さい。

日時：2008年2月14日(木) 18時~20時(導入教育科教務会議終了後)
 場所：工学院大学新館4号 高層棟 28階 第4会議室
 〒163-8677 新省区西新館1-24-2 TEL03-3342-1211(代) JR.有明駅西口徒歩5分
 (西口を出て新省方面：http://www.kogakun.ac.jp/mua/shinshukouindex.html 参照)
 プログラム

挨拶： 本野 明哲(工学部機械工学科教授)

報告：「全入時代における新入生の履修と教育方法」

山本 知和子氏(ベネッセ教育開発部員)

総合討論：「全入時代における導入教育の意義と目的・効果を考える」

閉会挨拶： 宇田川光弘(工学院大学教務部長・工学部副学長)

司会： コーディネーター：長谷川 薫(工学院大学・工学部生涯学習課副課長)

問い合わせ先

工学院大学工学部生涯学習課社会研究室(長谷川 薫)

電話 03-3340-2504 / メール 長谷川@www.kogakun.ac.jp

第3回大学院
 FDシンポジウム

能力ある大学院教育を目指して

情報化社会の到来、高度手段・交通手段の革新等によって、経済活動は急速に国際化、グローバル化しています。このような状況下では、技術力に加えて、マネジメント力、コミュニケーション力、創造力、国際理解力等の人間力を兼ね備えたグローバルエンジニアに対する需要が急速に高まっております。その人材育成が急務となっています。また、教育現場から輩出される人材と企業・社会が期待する人材に不整合があり、「国際的行動感覚、幅広い視野と発想力」を備えた、技術リーダー、技術者、実務者を養成する必要性が認識されています。

米国では、大学院教育として、技術経歴(MOT)コースが多く設置され、技術に関する知識とともにマネジメント能力を兼ね備えた人材を育成しています。我が国においては、文科省が設置認可したことにより、2003年度からMOT専門大学院が設置されてきました。単なる実務の経験者としての「技術経歴者」(MOT)が必要とされていく現状です。

今回のシンポジウムは、このMOT教育をご理解いただき、本学にもMOT教育を取り入れた新専攻を検討する機会として開催します。

関心のある方は、どなたでも自由にご参加ください。

日時：2007年6月25日(月)
 教授総会終了後(17時)~19時
 場所：第1・2会議室(高層棟28階)
 内容：MOT(技術経営)教育の必要性について

プログラム

挨拶： 木村 雄二(大学院運営委員)

講演： 山本 隆司(東京農工大学大学院教授)

司会

委員： 野間 高(機械工学専攻運営委員)

事務局： 校務部大学院課
 03-3340-0829



31. F Dシンポジウム (第 16 回 ~ 第 18 回)
 大学院 F Dシンポジウム (第 3 回 ~ 第 5 回)

第 19 回 F Dシンポジウム
 第 5 回 大学院 F Dシンポジウム

JABEE 認定の拡大と充実を目指して
 ~学部 JABEE から大学院 JABEE へ~

技術者の活躍の場が世界に広がっていく中で、新しいタイプの技術者を育成する必要がありま。すなわち、科学技術に開眼する「面」および文化・歴史・社会・宗教などさまざまな「面」を考慮しながら技術に関する問題を発見し、解決していく総合的な問題解決能力を持った技術者が社会・産業界から求められています。

米国では、科学技術に関する意思決定に直接的に関与できる技術者の育成を目指して、1930 年代から ABET (The Accreditation Board for Engineering and Technology) により、工学系高等教育課程の認定を行ってきました。日本では 1999 年に JABEE が設立され、本学でもいらい早く技術者教育プログラムが認定されました。また、2007 年度には大学院 JABEE の認定が始まりました。

このような状況の下で、すでに卒業済みの各プログラムの充実と、新規に受審する学科のプログラムの整備などの課題を全学的視野のもとに推進する部署として、2007 年度に JABEE 推進室が設立されました。

本シンポジウムでは、他大学の JABEE 受審状況や大学院 JABEE の現状などを報告し、JABEE による教育改革のあり方や要望等について、幅広く議論を行います。教員の方々に是非ご参加いただきたいとお願いたします。

事務局: JABEE 推進室, 大学院課

第 4 回 大学院 F Dシンポジウム

大学院教育の質のさらなる向上を目指して
 ~産業界からの工学教育への期待と要望~

近年、産業界では人材力、技術の担い手、技術伝承への危機感などから大学院教育への期待が高まっています。しかし、大学院の学生数増と学力低下、さらに意識低下等、大学院教育における人材育成に関して様々な問題点が指摘されています。

これには、大学側にとどのようなる人材を出すのかという方針が不明確なことや社会的要請に対応した分野のキャリアプログラムが整備されていないことなどの原因があります。輩出した人材への企業の期待と現実との間にギャップがあると考えると、企業が求める人材に対する要望を本学でも真摯に受け止め、大学院教育のあり方を改善する必要があると、

そこで、種別のテーマの下に、企業で長年人材育成に関わってこられた方に、企業からみた大学院教育のあり方や要望等について講演していただき、幅広く議論を行う場を設けることになりました。なお、本シンポジウムは教員のみならず、広く大学院生、学部生の皆さんも関心のある方は是非ご参加ください。

記

日 時: 2007 年 12 月 17 日 (月)
教授会終了後 (17 時 30 分 ~ 18 時 30 分)

場 所: 第 1・2 会議室 (28 階)

プログラム

挨拶 (報告): 三浦 裕文 (学長)
 講演 (学別): 中山 良一 (東芝総合人材開発 (株) 常務取締役管理部長)
 挨拶 (報告): 木村 隆二 (大学院運営委員長)

質疑
 司 会: 梶賀 高 (機械工学専攻運営委員)

事務局: 大学院課

第 19 回 F Dシンポジウム
 第 5 回 大学院 F Dシンポジウム

JABEE 認定の拡大と充実を目指して
 ~学部 JABEE から大学院 JABEE へ~

技術者の活躍の場が世界に広がっていく中で、新しいタイプの技術者を育成する必要がありま。すなわち、科学技術に開眼する「面」および文化・歴史・社会・宗教などさまざまな「面」を考慮しながら技術に関する問題を発見し、解決していく総合的な問題解決能力を持った技術者が社会・産業界から求められています。

米国では、科学技術に関する意思決定に直接的に関与できる技術者の育成を目指して、1930 年代から ABET (The Accreditation Board for Engineering and Technology) により、工学系高等教育課程の認定を行ってきました。日本では 1999 年に JABEE が設立され、本学でもいらい早く技術者教育プログラムが認定されました。また、2007 年度には大学院 JABEE の認定が始まりました。

このような状況の下で、すでに卒業済みの各プログラムの充実と、新規に受審する学科のプログラムの整備などの課題を全学的視野のもとに推進する部署として、2007 年度に JABEE 推進室が設立されました。

本シンポジウムでは、他大学の JABEE 受審状況や大学院 JABEE の現状などを報告し、JABEE による教育改革のあり方や要望等について、幅広く議論を行います。教員の方々に是非ご参加いただきたいとお願いたします。

事務局: JABEE 推進室, 大学院課

第 4 回 大学院 F Dシンポジウム

大学院教育の質のさらなる向上を目指して
 ~産業界からの工学教育への期待と要望~

近年、産業界では人材力、技術の担い手、技術伝承への危機感などから大学院教育への期待が高まっています。しかし、大学院の学生数増と学力低下、さらに意識低下等、大学院教育における人材育成に関して様々な問題点が指摘されています。

これには、大学側にとどのようなる人材を出すのかという方針が不明確なことや社会的要請に対応した分野のキャリアプログラムが整備されていないことなどの原因があります。輩出した人材への企業の期待と現実との間にギャップがあると考えると、企業が求める人材に対する要望を本学でも真摯に受け止め、大学院教育のあり方を改善する必要があると、

そこで、種別のテーマの下に、企業で長年人材育成に関わってこられた方に、企業からみた大学院教育のあり方や要望等について講演していただき、幅広く議論を行う場を設けることになりました。なお、本シンポジウムは教員のみならず、広く大学院生、学部生の皆さんも関心のある方は是非ご参加ください。

記

日 時: 2007 年 12 月 17 日 (月)
教授会終了後 (17 時 30 分 ~ 18 時 30 分)

場 所: 第 1・2 会議室 (28 階)

プログラム

挨拶 (報告): 三浦 裕文 (学長)
 講演 (学別): 中山 良一 (東芝総合人材開発 (株) 常務取締役管理部長)
 挨拶 (報告): 木村 隆二 (大学院運営委員長)

質疑
 司 会: 梶賀 高 (機械工学専攻運営委員)

事務局: 大学院課

32. 外国文献カンペキ講座、検索の早ワザ講座

EJ
電子ジャーナル
冊で探検を入手！

DB
データベース
きめ細かい情報。論文。

LIBRARY
図書館
情報の宝庫。図書館。

電子ジャーナルの
早ワザもマスター！

大学図書館主催
大学院生に贈る・・・

外国文献 カンペキ講座

**ELECTRONIC
JOURNALS
DATABASE**

■ 講座内容 ■
論文を検索して電子データベースを探索し、検索の活用方法、電子ジャーナルの効率的な利用方法を伝授します。

■ 使用するデータベース・電子ジャーナル ■
 JDream II
 IEEE
 SpringerLink
 SCOPUS Find out.
 Google
 ScienceDirect
 JST
 EBSCO
 ERIC
 ProQuest
 TAC

■ 定員は、先着 20 名程度です。会場へ直接お越しください。

■ どなたでも参加できますが、外国文献を検索するため、大学院生にオースメの講座です。

■ 詳細は大学図書館にお問い合わせください。

EJ
電子ジャーナル
冊で探検を入手！

DB
データベース
きめ細かい情報。論文。

LIBRARY
図書館
情報の宝庫。図書館。

EJ
電子ジャーナル
冊で探検を入手！

DB
データベース
きめ細かい情報。論文。

LIBRARY
図書館
情報の宝庫。図書館。

JDream IIの使い方

検索の早ワザ

レポート作成に役立つ！
論文の検索⇒入手までのサクセスストーリー

■ 講座内容 ■ JDream IIを使い、論文の検索から入手までの道のりを伝授

■ キミは、YAHOO!・Googleだけに頼っていないか？

Googleではヒットしない論文を検索できる！

JDream IIを活用して、卒業作成の視野が広がった。(卒業生談)

卒論前に受講して、リサーチレポートを作成できる講座！

卒論・レポートもこれで安心！

■ JDream IIとは？ ■
国内最大級の科学技術専門のデータベース。論文をサクサク検索可能。

■ 新宿キャンパス 6月15日(金曜日)18:00~19:30
6月19日(火曜日)16:20~17:50
会場:14階 第1演習室

■ 八王子キャンパス 6月20日(水曜日)16:30~18:00
会場:シーキューブ1階 第1演習室

■ 定員は、先着 20 名程度です。どなたでも参加できます。上記会場へ直接お越しください。

■ 次回は、海外データベース、電子ジャーナルの探し方などの応用編を予定しています。

EJ
電子ジャーナル
冊で探検を入手！

DB
データベース
きめ細かい情報。論文。

LIBRARY
図書館
情報の宝庫。図書館。

TOKYO URBAN TECH LIBRARY
工学院大学図書館

34. 第7回ホームカミングデー ～懐かしき母校、再発見の日～

第7回 ホームカミングデーのご案内

～懐かしき母校、再発見の日～

【開催日時】2007年11月3日(土・祝) 会費無料
10時30分～16時30分
受付は9時30分からアーバンテックホール(3階)前で行います

【場 所】新宿キャンパス

----- 次 第 -----

【内 容】

- ◆歓迎式典・記念講演:アーバンテックホール(3階) 10時30分～12時10分
- ◆懇 親 会:アトリウム(1階) 12時30分～14時30分
- ◆同窓懇談コーナー:学生食堂(7階) 14時30分～16時30分

*出席の有無については、10月12日(金)までに同封のハガキにてご返信願います。

卒業生ご招待者

<ul style="list-style-type: none"> ●大学(第1部、第2部) 20年目(昭和63年) 25年目(昭和58年) 30年目(昭和53年) 35年目(昭和48年) 40年目(昭和43年) 45年目(昭和38年) 50年目(昭和33年) 55年目(昭和28年) 	<ul style="list-style-type: none"> ●高等学校 24年目(昭和59年) 29年目(昭和54年) 34年目(昭和49年) 39年目(昭和44年) 44年目(昭和39年) 49年目(昭和34年) 54年目(昭和29年) 	<ul style="list-style-type: none"> ●専門学校 22年目(昭和61年) 27年目(昭和56年) 32年目(昭和51年) 37年目(昭和46年) 42年目(昭和41年) 47年目(昭和36年) 52年目(昭和31年)
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

*次回以降も、1年ずつ卒業年度を繰り下げてご招待させていただきます。
また満80歳以上の卒業生は毎年ご案内させていただきます。
*下記の方々もお呼びしております。

- 卒業生で全国の中学校・高等学校現職教員(卒業年度は問わず)
- OB教員 ●校友会本部役員および支部長
- 大学後援会、高等学校PTA、中学校保護者の会の各関係者

第7回

ホームカミングデー

～懐かしき母校、再発見の日～

2007.11.3祝



主催:学校法人 工学院大学
<http://www.kogakuin.ac.jp>

後援:社団法人 工学院大学校友会
<http://www.kogakuin.or.jp>

学校 工学院大学
法人

第8期自己評価運営委員会

委員

共通課程	蔵原 清人	共通課程教授
機械系学科	八戸 英夫	機械システム工学科准教授 (2008年4月～)
	後藤 弘太郎	機械システム工学科講師 (2007年4月～2008年3月)
化学系学科	長島 珍男	応用化学科教授
電気系学科	山口 実靖	情報通信工学科准教授
建築系学科	大塚 毅	建築学科准教授
情報学部	大木 榮二郎	情報デザイン学科教授
GE 学部	金丸 隆志	機械創造工学科講師
学長指名委員	後藤 芳樹	機械工学科教授
	於保 英作	情報デザイン学科教授
職務上委員	宇田川 光弘	教務部長
	佐藤 光史	学生部長
事務局	田村 省三	教務部事務次長、学務課課長
	岡本 信彦	学務課職員 (2008年4月～)
	須崎 宏和	学務課職員 (2007年4月～2008年3月)

本学における催事活動の現状と今後の課題
一より効果的な催事の計画と実施のために一

2009年3月発行

編集 自己評価運営委員会

発行者 工学院大学

〒163-8677 東京都新宿区西新宿1-24-2

電話 03-3342-1211

<http://www.kogakuin.ac.jp>

本書の無断複製・複写（コピー）を禁止します。



工学院大学

TOKYO URBANTECH

